

2014年度授業日一覧

□の祝日は授業開講日

【前期】	月(Mon.)	火(Tue.)	水(Wed.)	木(Thu.)	金(Fri.)	土(Sat.)	
2014年	第1回	4月14日	4月15日	4月16日	4月10日	4月11日	4月12日
	第2回	4月21日	4月22日	4月23日	4月17日	4月18日	4月19日
	第3回	4月28日	4月29日	4月30日	4月24日	4月25日	4月26日
	第4回	5月12日	5月13日	5月7日	5月1日	5月2日	5月10日
	第5回	5月19日	5月20日	5月14日	5月8日	5月9日	5月17日
	第6回	5月26日	5月27日	5月21日	5月15日	5月16日	5月24日
	第7回	6月2日	6月3日	5月28日	5月22日	5月23日	5月31日
	第8回	6月9日	6月10日	6月4日	5月29日	5月30日	6月7日
	第9回	6月16日	6月17日	6月11日	6月5日	6月6日	6月14日
	第10回	6月23日	6月24日	6月18日	6月12日	6月20日	6月21日
	第11回	6月30日	7月1日	6月25日	6月19日	6月27日	6月28日
	第12回	7月7日	7月8日	7月2日	6月26日	7月4日	7月5日
	第13回	7月14日	7月15日	7月9日	7月10日	7月11日	7月12日
	第14回	7月21日	7月22日	7月16日	7月17日	7月18日	7月19日
	第15回	7月28日	7月29日	7月23日	7月24日	7月25日	7月26日

【後期】	月(Mon.)	火(Tue.)	水(Wed.)	木(Thu.)	金(Fri.)	土(Sat.)	
2014年	第1回	9月22日	9月30日	9月24日	9月25日	9月26日	9月27日
	第2回	9月29日	10月7日	10月1日	10月2日	10月3日	10月4日
	第3回	10月6日	10月14日	10月8日	10月9日	10月10日	10月11日
	第4回	10月13日	10月21日	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日
	第5回	10月20日	10月28日	10月22日	10月23日	10月24日	10月25日
	第6回	10月27日	11月11日	午後 10月29日 午前 11月5日	10月30日	10月31日	11月8日
	第7回	11月10日	11月18日	午後 11月5日 午前 11月12日	11月6日	11月7日	11月15日
	第8回	11月17日	11月25日	午後 11月12日 午前 11月19日	11月20日	11月14日	11月22日
	第9回	12月1日	12月2日	午後 11月19日 午前 11月26日	11月27日	11月21日	11月29日
	第10回	12月8日	12月9日	午後 11月26日 午前 12月3日	12月4日	11月28日	12月6日
	第11回	12月15日	12月16日	午後 12月3日 午前 12月10日	12月11日	12月5日	12月13日
	第12回	12月22日	1月6日	午後 12月10日 午前 12月17日	12月18日	12月12日	12月20日
2015年	第13回	1月5日	1月13日	1月7日	1月8日	12月19日	1月10日
	第14回	1月19日	1月20日	1月14日	1月15日	1月9日	1月24日
	第15回	1月26日	1月27日	1月21日	1月22日	1月23日	

目 次

建学の精神・教育理念

建学の精神・教育理念・ 人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、 カリキュラム・ポリシー	3
--	---

学部共通事項

履 修

授業	10
授業科目の構成と単位制度	14
履修計画・履修指導 (アカデミック・アドバイザー制度)	16
履修登録	19
試験	27
成績評価	32
卒業の要件・卒業論文等	35

海外短期研修・留学・国内留学

海外短期研修・留学	38
国内留学	42

学部教育課程

共 通 科 目

共通科目	48
基礎教養科目・総合課題科目	48
語学科目	56
英語プレイスメント・テスト	58

文 学 部

文学部	78
英語英米文学科／英文学科	80
日本語日本文学科／日本文学科	88
コミュニケーション学科	95
社会調査士資格認定	104

国際交流学部

国際交流学部国際交流学科	106
--------------	-----

音 楽 学 部

音楽芸術学科	120
演奏学科	126

外国人留学生

外国人留学生の履修	140
日本語プレイスメント・テスト	145

単位認定・単位互換

単位認定・単位互換	148
-----------	-----

学 籍

修業年限及び在学期間	156
休学・復学	156
退学・除籍・留学・転学部・転学科	157
再入学	158

資 料 編

組織	160
フェリス女学院大学の沿革	161
専任教員一覧	163
役職者	165
教務主任・教務委員、教務責任者、 科目責任者、語学責任者	166
2014年度の主な制度変更	167

索 引

索引	174
----	-----

建学の精神・教育理念

建学の精神

フェリス女学院は、キリスト教の信仰に基づく女子教育を行うことを建学の精神としています。

フェリス女学院大学の学則第1条にも、「キリスト教を教育の基本方針となし、学問研究及び教育の機関として、女子に高度の教育を授け、専門の学問を教授研究し、もって真理と平和を愛し、人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とする」と明記されています。

教育理念

さらに、フェリス女学院は「For Others」という教育理念を掲げています。これは、建学以来の永い歴史のなかで自然に人々の心の中で形をなし、学院のモットーとして受け継がれるようになったものです。

この言葉は「他者のために」と訳すことができます。自分やちかしい人だけではなく、より広い視野から他者の存在をも考えに入れて、他者のために行動することを、本学で学ぶ一人一人が受け継いでいます。

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

フェリス女学院大学では、人材養成目的、ディプロマ・ポリシー*、カリキュラム・ポリシー**を次のように定めています。

ディプロマ・ポリシーは大学から社会に対する約束です。学士課程を修了する時点で最低限できるようになっていることを表しています。したがって、ディプロマ・ポリシーは、卒業時には必ず達成されなければなりません。

カリキュラム・ポリシーは、この達成のために学生が体系的性と整合性が担保されたカリキュラムで学べるよう定めるものです。

これら大学としての人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーは、各学部、学科でさらに具体化されています。該当ページを参照してください。

大学全体

◆人材養成目的

キリスト教を教育の基本方針となし、学問研究及び教育の機関として、女子に高度の教育を授け、専門の学問を教授研究し、もって真理と平和を愛し、人類の福祉に寄与する人物を養成する。(学則第1条)

◆ディプロマ・ポリシー

体系的な専門知識を修得するとともに幅広い教養を身に付け、キリスト教を基盤とした「For Others」の精神のもとに、さまざまな課題に立ち向かい、社会に貢献できる能力をもつ者に学士の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

「For Others」の教育理念のもとに、自主性と対話を重視した少人数教育を行う。学生の多様な関心と学習意欲に応えるために十分な授業科目を用意し、専門分野に関する体系的な知識を得させるとともに、専門分野を越えた幅広い教養を修得させる。

各学部、学科

次の該当ページを参照してください。

文学部	p.77
英語英米文学科／英文学科	p.80
日本語日本文学科／日本文学科	p.88
コミュニケーション学科	p.95
国際交流学部	p.105
国際交流学科	p.106
音楽学部	p.119
音楽芸術学科	p.120
演奏学科	p.126

学部共通事項

履 修

留学・海外研修・国内留学

学部教育課程

共通科目

文学部

国際交流学部

音楽学部

外国人留学生

単位認定・単位互換

学 籍

資料編

学部共通事項

履修

海外短期研修・留学・国内留学

履 修

授 業

授業時間

緑園校舎

第1時限	第2時限	礼拝(月～金)	第3時限	第4時限	第5時限
9:00 ∩ 10:30	10:40 ∩ 12:10	12:20 ∩ 12:40	13:10 ∩ 14:40	14:50 ∩ 16:20	16:30 ∩ 18:00

山手校舎

第1時限	第2時限	礼拝(木)	第3時限	第4時限	第5時限
9:10 ∩ 10:40	10:50 ∩ 12:20	12:30 ∩ 13:00	13:50 ∩ 15:20	15:30 ∩ 17:00	17:10 ∩ 18:40

スクールバス

両キャンパスを1日に2往復しています。定員：27名

各便の発着予定時間は次のとおりです。

- ① 山手6号館(12:25発) → 山手4号館(12:30頃着) → 緑園正門横(13:05頃着)
- ② 緑園正門横(13:10発) → 山手6号館(13:40頃着) → 山手4号館(13:45頃着)
- ③ 山手6号館(15:35発) → 山手4号館(15:40頃着) → 緑園正門横(16:15頃着)
- ④ 緑園正門横(16:30発) → 山手6号館(17:10頃着) → 山手4号館(17:15頃着)

年間運行日は、バス停に掲示します。授業期間外は運休です。

休 講

大学又は各授業科目の担当者にやむを得ない事情が発生した場合、授業を休講とすることがあります。休講情報は、FerrisPassport、掲示にて周知します。

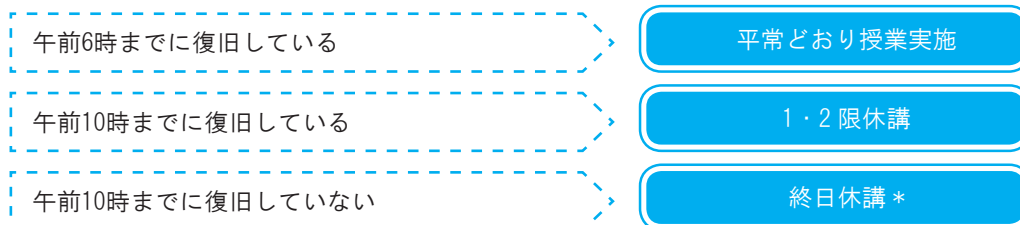
休講の掲示がなく、授業開始後30分以上経過しても担当者が入室しない場合は、自然休講とします。

休講についての電話照会には応じません。

全学休講措置

交通機関不通の場合

ストライキ、台風又は事故等による交通機関不通の場合、各校舎において次のような措置をとります。



*授業開始後に警報の発令があった場合は、それ以降の当日の授業は終日休講とする。

対象となる交通機関

緑園校舎：相模鉄道線

山手校舎：JR根岸線及びみなとみらい線*

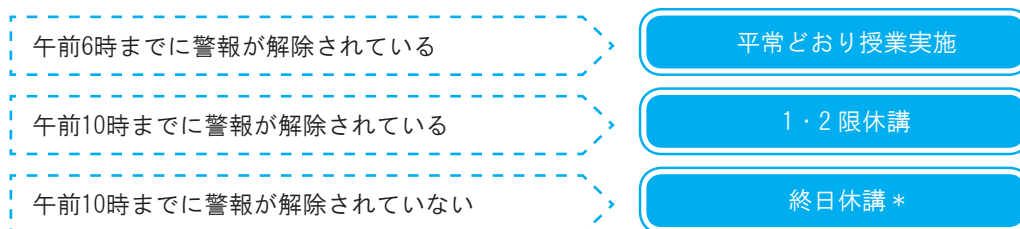
*山手校舎については、両線が不通となった場合のみ。いずれかの線が運行している場合は該当しない。

神奈川県下に暴風警報、暴風雪警報又は特別警報が発令された場合

台風接近等により、神奈川県全域又は神奈川県東部（「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」）に暴風警報又は暴風雪警報が発令された場合、次のような措置をとります（警報は「気象庁」もしくは「横浜地方気象台」（045-177）発表のものとしします）。

また、神奈川県全域又は神奈川県東部（「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」）に特別警報（大雨、暴風、暴風雪及び大雪）が発令された場合も、上記に準じます。

休講措置をとる場合は、本学Webサイト及びFerrisPassportにて周知します。



*授業開始後に警報の発令があった場合は、それ以降の当日の授業は終日休講とする。

新型インフルエンザが流行した場合

新型インフルエンザが流行し、厚生労働省から新型インフルエンザ対策行動計画が緑園・山手両キャンパスの近隣地域で発令された場合は、感染防止のため、発令が解除されるまで終日休講とします。

大規模地震の警戒宣言が発令された場合

大規模地震の判定会*が招集された場合や警戒宣言等が発令された場合には、休校とします。警戒宣言等が解除された時の授業再開については、交通機関が不通になった場合に準じます。

*「大規模地震対策特別措置法」に基づく「地震防災対策強化地域判定会」

補 講

大学又は各授業担当者のやむを得ない事情により、休講となった授業については、原則として補講を行います。また、担当者の判断により補講を実施することがあります。

補講情報は、FerrisPassport、掲示によって通知します。担当者から直接指示があった場合、その指示に従ってください。

授業欠席

大学では、授業を欠席する場合、原則として授業担当者に伝達するなどの措置はとりません。ただし、下記の事情により欠席する場合には、「感染症罹患届」又は「欠席届」の手続きを受け付けますので、速やかに申し出てください。出欠の扱いは各授業担当者の判断に委ねられています。

	欠席理由・状況	取扱窓口	必要書類	備 考
①	感染症にかかった	教務課	「診断・登校許可証明書」または「医師の診断書」(出席停止期間が確認できるもの)	*1を参照。
②	傷病等の理由により、2週間以上続けて欠席する	教務課	「医師の診断書」等、欠席理由・期間を証明できるもの	
③	忌引	教務課	欠席日を確認できる「会葬礼状」等	*2を参照。
④	裁判員に選任され、審理に参加する	教務課	裁判所が発行する証明書	裁判員に選任され、審理に参加するために授業を欠席する場合。
⑤	その他特別な事情により、2週間以上続けて欠席する	教務課	理由を証明する書類	

*1 感染症にかかった場合

学校感染症（学校保健安全法第3章18条）にかかっていると疑われる場合には、通学を見合せ、速やかに医師の診療を受けてください。医師が通学を許可するまでの期間、出席停止となります。医師の許可がでたら、必要書類を教務課に提出してください。

学校感染症

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。）、インフルエンザ、麻疹、流行性耳下腺炎、風疹、水痘、咽頭結膜熱、結核、コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症

*2 忌引の場合

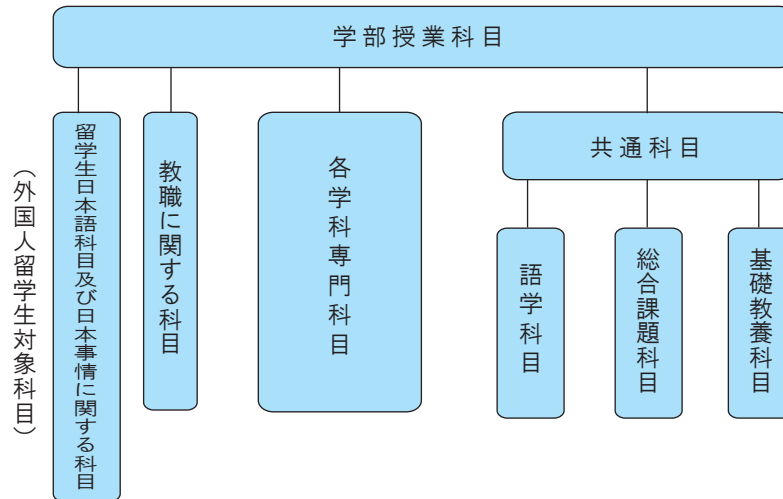
次の続柄の親族が亡くなった場合は、必要書類をもって教務課に申し出てください。忌引日数は、死亡日もしくは葬儀の日を含む次のとおりとします。日数には、土日・祝日を含みます。

続 柄	忌引日数
配偶者、父母、子	連続7日以内
配偶者の父母	連続5日以内
祖父母、孫、兄弟姉妹、配偶者の兄弟姉妹	連続3日以内

授業科目の構成と単位制度

授業科目の構成

学部の授業科目群は、次の区分で構成されています。



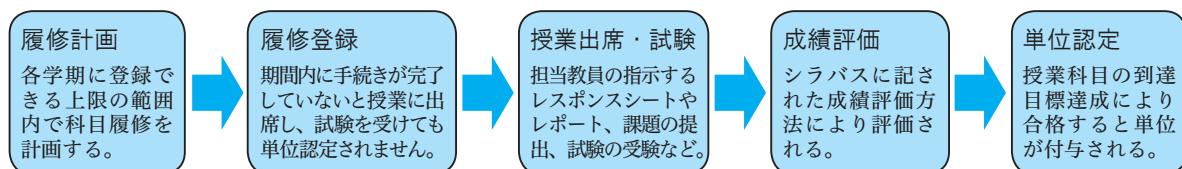
また、各授業科目は、次のように分類されます。

必修科目	必ず修得しなければならない科目
選択必修科目	一定の科目群の中から選択し、指定された方法で必ず修得しなければならない科目
選択科目	指定された科目群の中から自由に選択して修得する科目

単位制度

単位を修得するには

授業科目の単位の認定のためには、履修登録を行い、毎回の授業に出席し、試験、レポート、平常点評価等により合格すること、すなわち授業科目の到達目標を達成することが必要です（学則第12条、第14条）。



* 授業の出席

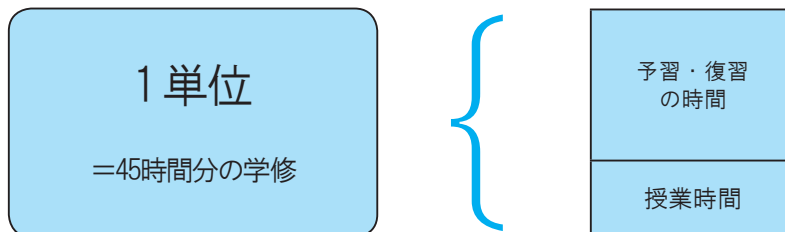
学則第13条に「学生は、履修授業科目について3分の2以上出席しなければ、当該授業科目の試験を受けることができない。」と定められていますが、言うまでもなく3分の1は欠席してもさしつかえないという意味ではありません。また、平常点とは単に出席（教室にいること）を指すのではなく、授業態度やグループワークでの参加度、レスポンスシートの内容などを含みます。

単位制度とは

卒業のために何をどれだけ学修すべきかを定めたルールの一つが単位制度です。

1単位は45時間の学修を必要とする内容で構成することが標準とされています。

この1単位修得に必要な「45時間の学修」には、毎回の授業時間のほかに、授業外学習（予習・復習などの自習時間）が含まれています。



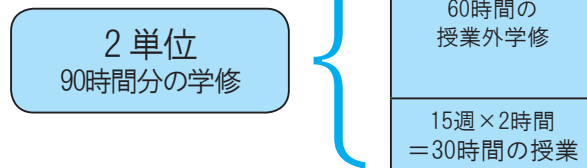
単位の計算

授業の方法により、教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を定めています。なお、本学では1回（90分）の授業を 2時間 として計算しています。

講義科目

15時間の授業をもって1単位とする。

【例】



講義科目では、2単位修得のためには60時間分の授業外学修が必要。この「授業外学修」はシラバスに明記されており、さらに授業時に教員から具体的に指示される場合があります。

演習科目

15時間から30時間までの範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

実技、実習及び実験科目

30時間から45時間までの範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

ただし、音楽部学部における個人指導による実技については、別に定める。

履修計画・履修指導

アカデミック・アドバイザー制度

1. 制度の概要

この制度により、学生の皆さんが素質や可能性を最大限に生かし、充実した学習生活を送ることを目的としています。

皆さんは学期始めに「私の Ferris Plan Sheet」を記入し、アカデミック・アドバイザーと面談してください。アカデミック・アドバイザーは個々の目的に応じた履修や学習方法をアドバイスします。また、その後も皆さんの履修状況を把握して、成績不振に陥った場合には個別相談や履修指導による学習支援を行います。

2. 担当者

全て専任教員です。原則として、下記の科目担当者がアカデミック・アドバイザーとなります。科目担当者が非常勤講師の場合は、担当者に代わり専任教員（各学科教務委員）がアカデミック・アドバイザーとなります。

学部	学科	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
文	英語英米文学科/ 英文学科	1年次前期 「R&R(入門ゼミ)」担当者				3年次前期 「専門ゼミA」 担当者			
	日本語日本文学科/ 日本文学科					3年次前期 「専門ゼミI A」 担当者			
	コミュニケーション学科								
国際交流	国際交流学科	1年次前期 「導入演習」 担当者	1年次後期 「基礎演習」 担当者	2年次前期 「基礎演習」 担当者	2年次後期 「基礎演習」 担当者	3年次前期 「専門演習」 担当者			
音楽	音楽芸術学科	音楽芸術学科専任教員				3年次前期 「専門ゼミI」 担当者			
	演奏学科	演奏学科専任教員							

履修登録できる単位数の上限（CAP制）

十分な学修時間を確保するため、1学期に履修登録できる単位数には上限を設けています。これをCAP制といいます。

2012年度以降入学者

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全学部	24	24	24	24	24	24	24	24
2年次編入学者	-	-	24	24	24	24	24	24
3年次編入学者	-	-	-	-	24	24	24	24
特別指導対象学生	-	17	17	17	17	-	-	-

2011年度以前入学者

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全学部	23	23	25	25	上限なし	上限なし	上限なし	上限なし
2年次編入学者	-	-	31	31	上限なし	上限なし	上限なし	上限なし
3年次編入学者	-	-	-	-	上限なし	上限なし	上限なし	上限なし
特別指導対象学生	-	17	17	17	17	-	-	-

編入学者がこの上限の対象となるのは次の年度からです。

2年次編入学者：2013年度以降入学者

3年次編入学者：2014年度以降入学者

登録できる単位数のルール

(1) 登録できる単位数の算出方法

下記の条件で算出され、上限を超えた履修登録はエラーとなります。

上限に含まれる	①通常の授業期間に開講される科目すべて ②卒業要件に算入されない授業科目（教職に関する科目等） ③他大学等における科目等履修（横浜市内単位互換、同志社女子大学、放送大学）も上限に含まれます。
上限に含まれない	集中講義科目

(2) 通年科目の取扱い

卒業論文等、通年科目の単位は1/2ずつ各学期の履修登録単位数に加算されます。

(3) 特別な事由がある場合

特別な事由により、3年次生・4年次生にはこの上限を超えて履修登録することが認められる場合があります。

希望する者は、所定の手続きによって申請してください。

【手続き】

提出書類	①履修登録上限超過願 ②前学期の成績照会画面コピー
対象者	卒業延期が確定するなど特別な事由がある3・4年次生かつ、十分な学修時間を確保できる者
提出期限	履修登録期間最終日の前日まで 前期 2014年4月16日（水）18：00 後期 2014年9月30日（火）18：00
注意	①には、所属学科の教務主任または教務委員の確認印（または署名）が必要です。提出期限までに整えること。

責任ある履修とは

学生には、登録した科目に対して最後まで責任をもって履修を続けることが求められます。登録期間終了後に、取消を希望する科目がある場合は、登録取消制度を利用することができます。ただし、手続期間や取り消しできない科目等をよく確認してください。(p.26「登録取消」参照)

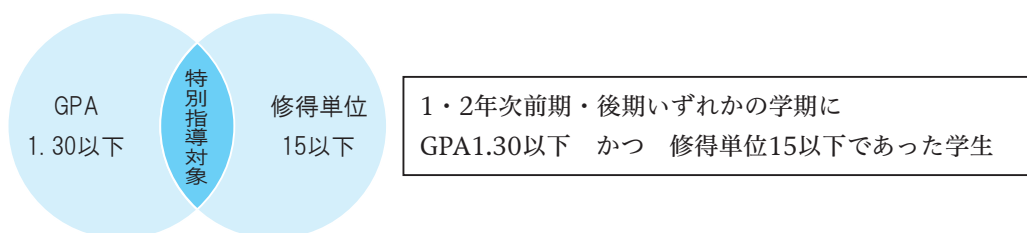
成績評価

学習の成果は、修得した単位数と共に、その成績評価を数値化した GPA により評価されます。GPA は成績レベルを質的に計る指標となります。たとえば、登録単位数が多くとも、修得した単位数が少ない場合、GPA は必然的に低くなります。(p.32「GPA 制度」参照)

特別指導対象学生

(1) 対象者

次の条件に該当する学生には、特別指導という形で学修支援を行います。



特別指導対象学生となった学期の成績が、GPA1.31以上または修得単位が16以上となった場合、次の学期は特別指導対象学生ではなくなります。

(2) アカデミック・アドバイザーの役割

アカデミック・アドバイザーは、次の学期始めに対象学生と前学期 GPA が低かった理由などを共に考え、その後毎月1回定期的に面談し、学習支援を行います。なお、学習面以外の悩み等に及ぶ場合には、本人了承のうえ学生支援センター又は保健室に紹介するなど、対応をしています。

(3) 履修登録の上限

最後まで履修を続けられるようその学期の履修登録の上限を17単位とします。(学期途中で休学した場合、復学後の学期においてはこの17単位の履修登録の上限は適用しません。)

(4) 保証人への報告

対象学生の保証人に対しては、アカデミック・アドバイザーとの相談によって、前学期成績不振であったこと、今学期特別指導による学習支援が行われること等を書面で知らせます。また、指導実施後、その報告書を保証人に送付します。

(5) 学生・保証人面談

2学期以上連続して特別指導の対象となった学生を対象に、アカデミック・アドバイザーが必要と判断した場合には、成績不振である理由や卒業までの履修計画を視野に入れて今後の方針を話し合います。

履修登録

2014年度 履修のスケジュール

	前期	後期	参照・備考
成績通知	3月末	9月12日(金)	p.34 参照
アカデミック・アドバイザー 面談 (希望者、特別指導対象者) 後期は4年次生全員	4月7日(月)	9月17日(水)	p.16 参照
成績評価確認願 (希望者のみ)	～4月11日(金)18:00	～9月24日(水)18:00 ※卒業学期生は p.36 参照	p.34 参照
履修計画	<ul style="list-style-type: none"> ■登録単位数の上限-----p.16 参照 ■所属学科カリキュラムの理解(共通科目)-----各該当箇所を参照 ■所属学科カリキュラムの理解(専門科目)-----各該当箇所を参照 ■年次・クラス指定-----p.20 参照 ■再履修-----p.20 参照 ■同一科目の重複履修-----p.20 参照 ■他学部・他学科科目の履修-----p.21 参照 ■教職科目の履修-----p.22 参照 ■集中講義の履修-----p.22 参照 ■人数制限のある科目・事前手続が必要な科目-----p.23 参照 		
履修登録	4月7日(月) 9:00 ～4月8日(火) 16:30 4月9日(水) 16:00 ～4月17日(木) 18:30	9月17日(水) 9:00 ～9月18日(木) 12:00 9月19日(金) 13:00 ～10月1日(水) 18:30	p.24 参照
履修者数制限科目 希望受付	4月7日(月) 9:00 ～4月8日(火) 16:30	9月17日(水) 9:00 ～9月18日(木) 12:00	p.24 参照
履修者数制限科目 履修許可者発表	4月9日(水)	9月19日(金)	p.24 参照 発表は FerrisPassport 及び 教務課掲示板で行います。
授 業 受 講 開 始			
履修登録確認・訂正申告	4月18日(金) 9:00 ～4月24日(木) 18:00 ※遅延登録者は登録日から 7日以内(土日を含む)	10月2日(木) 9:00 ～10月8日(水) 18:00 ※遅延登録者は登録日から 7日以内(土日を含む)	p.25 参照
遅延登録(注)・ 履修科目取消(希望者のみ)	4月18日(金) 9:00 ～4月24日(木) 18:00	10月2日(木) 9:00 ～10月8日(水) 18:00	この期日を過ぎた申し出は 理由の如何を問わず一切認め られません。
履修登録 (集中講義、海外語学実習等 希望者のみ*)	6月26日(木) 9:00 ～6月30日(月) 18:00	11月26日(火) 9:00 ～11月28日(木) 18:00	p.22 参照 この期間を過ぎての遅延登録、 履修取消は一切認められません。

*集中講義科目や海外短期研修など、休業期間を利用した授業科目の履修登録期間は、通常の科目とは別に設定されています。

(注)：大学が認める理由に該当した場合は遅延手数料が免除されます。

履修上の注意

大学では、学生が自らの責任において各自の学修計画を立て、所定の履修方法に基づいて単位を修得しなければなりません。履修に当たっては、定められた履修方法や履修登録方法に十分注意する必要があります。

1. 履修年次

履修年次が指定されている授業科目は、その年次において履修してください。

2. クラス指定及び変更手続

クラスを指定して開講されている授業は、指定クラスにおいて履修してください。語学科目のクラス指定については、「語学科目」(pp.55~76)を参照してください。

必修科目の重複によりやむを得ずクラスを変更する必要がある場合は、次の手続を行わなければなりません。

(1) キリスト教Ⅰクラス

原則として、クラス変更を認めません。ただし、キリスト教科目責任者 (p.166) が特に認めた場合は、「クラス変更願」(教務課備付)を提出することができます。

(2) 初習外国語クラス

当該言語の語学責任者 (p.166) と変更先のクラスの担当者に申し出て、了承を得てください。

(3) 英語クラス

原則としてクラス変更を認めません。ただし、英語の語学責任者 (p.166) が特に認めた場合は、(2)と同様の手続によって変更が認められます。必ず履修相談を受けてください。

(4) その他の授業科目のクラス

履修登録以前に各自が所属する学科の教務委員 (p.166) と変更先のクラスの担当者に、その旨申し出て了承を得てください。

上記の手続を経ないクラス変更は、認められません。

3. 再履修

再履修とは、履修した授業科目の単位を修得できなかった場合に、その科目を改めて履修することをいいます。再履修にあたって、履修登録とは別の手続が必要になる場合がありますので、各科目の履修方法にしたがってください。

4. 同一授業科目の重複履修

同一授業科目を重複履修することは原則として認められません。ただし、学科等がカリキュラム上有益と定めた科目については、重複履修が可能です。重複履修可能な科目は「開講科目表」中に網かけ 表示されています。

5. 他学部・他学科の専門科目の履修

(1) 専門科目の他学部・他学科開放

開講科目表の「開放」欄に次の表示がある科目は、他学部または他学科の学生でも履修可能な科目で、卒業に必要な単位として算入されます。

表示	意味	単位が算入される科目区分
▲	他学部・他学科の学生が履修可能な科目	自由に選択する科目
■	他学科の学生が履修可能な科目	自由に選択する科目

(2) 音楽学部実技科目の他学部・他学科開放

他学部・他学科の学生が履修可能な科目は、以下のとおりです。

なお、基礎教養科目「音楽実技 A, B」については、p.54を参照してください。

① レッスン科目

レッスン科目	時間数	実技料	履修手続
PA 副科個人実技 A,B	30分×15回	100,000円	申込時期：履修学期の前学期 詳細は掲示を確認してください。
PA 副科グループ実技 A, B (バレエ)	90分×15回	30,000円	
PA 第2専攻グループ実技 (バレエ基礎) A,B	90分×30回 (週2回)	60,000円	
PA 第2専攻グループ実技 (バレエ応用) A,B	90分×45回 (週3回)	90,000円	

② クラス授業の実技科目

レッスン科目	注意事項
弦楽アンサンブル A,B	<ul style="list-style-type: none"> ・オーディションが課せられます。 ・履修前提条件はシラバスで確認してください。
管楽アンサンブル A,B	
フルートアンサンブル A,B	

(3) 3・4年次演習（ゼミ）科目等の他学部・他学科開放

一定の条件のもとに認められた場合には、各自が所属する学部・学科以外の3・4年次演習（ゼミ）科目等を履修することが可能です。

申込対象者：2013年度2年次生のみ

他学部・他学科に開放する演習（ゼミ）科目等は次のとおりです。

学部	学 科	他学部・他学科に開放する科目
文	英文学科	「英米文化専門ゼミ A, B」 「英米文化卒論ゼミ A, B」「卒業論文」
	日本文学科	「日本語文化専門ゼミ A, B」 「日本語文化卒論ゼミ A, B」「卒業論文」
	コミュニケーション学科	「コミュニケーション専門ゼミ I A, I B」 「コミュニケーション専門ゼミ II A, II B」 「卒業論文・卒業制作」
国際交流	国際交流学科	「専門演習」「卒業論文」
音 楽	音楽芸術学科	「専門ゼミ I, II, III, IV」「卒業プロジェクト」

手続の日程及び受け入れ人数・条件等詳細については、掲示でお知らせします。質問がある場合には、教務課に問い合わせてください。

6. 「教職に関する科目」の履修

「教職に関する科目」のうち、開講科目表の「開放」欄に「▲」と表示してある授業科目（「教育原理」「教育思想」「教育心理学」「教育社会学」）は、教育職員免許状取得希望の有無にかかわらず、当該科目を履修し卒業に必要な単位とすることができます。

（「教職に関する科目開講科目表」参照）

7. 集中講義科目の履修

授業科目によっては、通常の授業期間外に、集中講義によって授業を行うことがあります。

(1) 日程

2015年2月5日（木）～7日（土）、9日（月）～10日（火）

集中講義科目の日程は、次のように定められています（一部科目を除く）。

前期	集中講義期間①	2014年8月4日（月）～8日（金）
	集中講義期間②	2014年9月1日（月）～5日（金）
後期	集中講義期間①	2015年2月6日（金）、9日（月）、11日（水）～13日（金）
	集中講義期間②	2015年2月16日（月）～20日（金）

科目ごとの日程の詳細は、掲示によって発表します。

(2) 授業時間

2015年2月12日（木）～13日（金）、16日（月）～18日（水）

集中講義期間中に限り、緑園校舎、山手校舎の授業時間が同一となります。

緑園・山手校舎授業時間

時限	授業時間
1	9:00～10:30
2	10:40～12:10
3	13:10～14:40
4	14:50～16:20
5	16:30～18:00

集中講義期間②

(3) 注意事項

- ① 卒業年次生は卒業学期に集中講義期間①の科目を履修することはできません。
- ② 日程が重複する複数の集中講義科目がある場合、履修できるのは一科目のみです。
- ③ 集中講義の日程が他の学事と重なることによって、すべての授業に出席できない場合、当該集中講義科目を履修することはできません。
- ④ 集中講義期間中に、感染症罹患による出席停止になった場合、登録している集中講義科目の履修を取り消すことができます。（p.26「登録取消」参照）

人数に制限のある科目・事前に手続が必要な科目の履修

種類	開講科目表の表記	事前手続	履修登録	注意事項
履修者数制限科目	◆	必要	自動*1	履修希望者は、各学期の所定の日時に FerrisPassport で履修希望申込をしてください。履修優先順位に従い、大学が履修者の選抜及び履修登録を行います。選抜された科目の履修取消はできません。
学科選抜科目	学	必要	自動*1	学科等でクラス分けや履修者の決定を行う科目については、各学科等の指示に従って手続をしてください。学科等の選抜結果に従って、大学が履修登録を行います。
初回授業時選抜科目	初	不要	各自*2	初回授業時に担当教員が選抜を行います。履修を希望する学生は初回授業に必ず出席して、担当教員の指示を受けてください。 選抜の結果履修が許可されなかった科目をすでに FerrisPassport で履修登録を行っている場合は、履修登録期間内に各自で科目の登録削除を FerrisPassport で行ってください。
要手続科目	要手続	必要	自動*1	実習等で事前に説明会への参加や申込手続が必要な科目です。手続については開講科目表、シラバスの指示、掲示等で確認をしてください。
教員の指示がある科目		不要	各自*2	シラバス等で担当教員から初回授業時に履修者を選抜することが指示されている場合があります。初回授業を欠席して、履修の権利をなくさないよう、事前にシラバスをよく読んでください。
収容人数の超過科目		不要	各自*2	特定の科目に履修者が集中し教室変更によっても教室収容人数を超える状態を解消できない場合には、大学の判断で履修者を制限する場合があります。この場合の制限は、カリキュラム、年次などの面から総合的に判断をしますが、初回授業を欠席した学生には履修の権利がなくなることにつけてください。

*1：大学が登録を行うので、履修登録期間及び履修登録確認期間に登録されていることを確認すること。

*2：各学期の履修登録期間に各自が FerrisPassport で履修登録・取消を行うこと。

8. 履修登録

履修登録は、学生がその学期・学年に履修するすべての授業科目を申告する手続です。定められた期間に、履修登録及びその確認を行わない学生は、その学期における履修の権利を放棄したものとみなします。また、履修登録及びその確認の手続不備等による不利益は本人の責任となるので、十分注意してください。

(1) 履修登録上の注意

- ① 履修登録は、本人の責任において行うこと。
- ② 履修上の注意に違反して履修登録を行うことはできない。
- ③ 履修登録は、定められた履修登録期間のみ受け付ける。理由なく手続を行わなかった場合は、当該学期・学年の授業科目の履修は一切認められない。
- ④ 通年科目は前期に履修登録を行うこと。
- ⑤ 集中講義科目及び海外研修など、休業期間を利用した授業科目は、通常科目とは異なる日程で履修登録を行うので注意すること。(p.19「2014年度履修のスケジュール」参照)
- ⑥ 履修登録を行った際には、必ず「学生時間割表」を印刷、保管しておくこと。(登録の確認を行う際、「学生時間割表」が唯一の根拠となります。)

(2) 学科選抜科目の履修手続

- ① 履修希望者は、学部・学科等の定める期間・方法にしたがうこと。
- ② 履修登録は大学が行うので、学生は通常の履修登録期間に改めて登録する必要はない。

(3) 履修者数制限科目の履修手続

- ① 履修希望者は、履修者数制限科目受付期間に FerrisPassport で申し込む。
- ② 大学が履修許可者を選抜し、授業開始日までに履修許可者を掲示で発表する。また、履修登録は大学が行うので、学生は通常の履修登録期間に改めて登録する必要はない。

【注意】

- ① 履修許可者が定員に満ちていない場合であっても、原則として追加履修希望は受け付けない。ただし、学科等の判断により、追加募集を行うことがあるので掲示に注意すること。
- ② 履修許可者が、履修許可された科目の登録変更・取消しを行うことは認められない。

(4) 履修登録

- ① 履修登録は、学内のパソコン及びインターネットに接続できる環境にあれば、学外からも行うことができます。(この場合も、本学が発行するアカウントが必要です。)ただし、学外から履修登録を行う場合、個々の環境によっては、システムがうまく動作しないこともあります。その場合には、学内で履修登録を行ってください。また、履修登録確定後、必ず「学生時間割表」を印刷、保管してください。履修登録期間中、システムに不具合が生じたり学内でのパソコンの稼働状況に変更があった場合には、次の方法でお知らせします。
 - ・本学公式 web サイト (<http://www.ferris.ac.jp/>)
 - ・FerrisPassport
 - ・学内掲示板
- ② 履修登録期間中には、学内のパソコン利用が混雑したり、パソコンの動作が遅くなることも予想されますので、あらかじめ科目を決定したうえで、時間的な余裕を十分に持って登録してください。
- ③ 履修登録期間終了後の登録科目の追加・変更は、一部の授業科目を除き、認められません。(p.25「追加・変更が認められる授業科目」参照)

(5) 遅延登録

やむを得ない理由（追試験許可理由に準ずる。p.29参照。）により、履修登録期間に手続できない場合は、最終日の翌日から数えて7日以内（休日を含む。）に必要な書類（「遅延登録願」及び証明書等）を提出し、許可された場合のみ履修登録を行うことができます。

その他の理由で遅延して履修登録を希望する者は、所定用紙（「遅延登録願」）によって願い出て、許可された場合のみ履修登録を行うことができます。この場合、遅延手数料（5,000円）が徴収されます。

(6) 登録確認・訂正申告

履修登録期間終了の翌日以降、FerrisPassport で登録科目の確認ができます。必ず履修登録時の「学生時間割表」と照合し、その学期に履修すべきすべての科目（必修科目、クラス指定科目、学科選抜科目、履修者数制限科目、初回授業時選抜科目、要手続科目を含む）がもれなく登録されているかを確認してください。

登録されていない科目がある場合は、履修登録時の「学生時間割表」を印刷して持参し、定められた期日までに教務課で訂正申告の手続きを行わなければなりません。

「履修登録訂正申告期間」に履修登録の追加・変更が認められるのは、次の必修（相当）科目等のみです。

追加・変更が認められる科目	
【基礎教養科目】 「キリスト教Ⅰ」 「キリスト教Ⅱ」	【音楽学部専門科目】 「専攻実技 / I A・B ~ IV A・B」 「学内演奏」（3・4年次ともに認める） 「学内ソロ・コンサート」（3・4年次ともに認める） 「卒業演奏」（4年次前期のみ） 「卒業プロジェクト」（4年次前期のみ）
【語学科目】 当該学生にとっての必修相当語学科目	【教職に関する科目】 「教育実習2」「教育実習3」（4年次前期のみ）
【文学部専門科目】 「卒業論文」（4年次前期のみ） 「卒業論文・卒業制作」（4年次前期のみ）	【その他】 当該科目を履修しなければ卒業延期となる授業科目 学科選抜科目（*）
【国際交流学部専門科目】 「研究入門」 「卒業論文」（4年次前期のみ） 「海外環境フィールド実習」 「アジア現地実習」 「ヨーロッパ現地実習」 「オーストラリア現地実習」 「農環境体験実習」	

*追加・変更には学科・科目責任者の承認が必要です。

→日程・スケジュールはp.19

(7) 登録取消

履修登録した科目の取消を行う場合には、履修登録取消の期間に各自で FerrisPassport で取消の手続きをしてください。

【注意事項】

- ① 科目の性格上、次のとおり取消できない科目があります。

取消しができない科目	
【基礎教養科目】 「キリスト教Ⅰ」（後期開講科目を除く） 「健康・スポーツ（8）」「健康・スポーツ（18）」 「音楽実技 A,B」	【語学科目】 英語科目（英語 e 科目を除く） 初習外国語科目（＊）
【総合課題科目】 「キリスト教Ⅲ（1）」 「キリスト教Ⅲ（2）」 「キャリア実習（短期インターンシップ）」 「キャリア実習（長期インターンシップ）」	【その他】 履修者数制限科目 学科選抜科目 要手続科目

*英語科目及び初習外国語科目については、当該学生にとって必修相当ではない科目のみ、語学責任者（p.166）の判断により取消しが認められることがあります。取消しを希望する学生は、下期の期日までに「学生時間割表」に語学責任者の承認印を受けた上で教務課で手続きを行ってください。

- ② 取消した科目に代え、新たに別の科目を登録することはできません。
- ③ 通年科目については、前期・後期のいずれの期間でも取消申請をすることができます。
- ④ 集中講義期間中に、感染症罹患による出席停止になった場合、登録している集中講義科目の履修を取り消すことができます。（p.12「授業欠席」参照）

【履修科目取消申請期間】

→日程・スケジュールはp. 19

試 験

1. 試験の種別

種 別	内 訳	掲 示	教務課による追加措置			備 考
			追試験	再試験	追受理	
授業内試験	教務課取扱い試験	○	○	—	—	
	担当者による試験	×	×	—	—	全て担当者の指示に従ってください。
レポート試験	教務課提出	○	—	—	○	
	担当者へ直接提出	○	—	—	×	全て担当者の指示に従ってください。
音楽学部実技試験	実技試験	○	—	○	—	

2. 受験資格

次のいずれかに該当する場合は、試験を受けることはできません。また、受験しても無効となり、当該科目の成績は取り消されます。

- (1) 当該学期の授業料等学納金が未納である。
- (2) 履修登録がされていない。
- (3) 履修授業科目について、出席が3分の2に満たないと担当者が判断した。

3. 教務課取扱い試験

授業中に行われる試験のうち、教務課から掲示で発表される試験を「教務課取扱い試験」と呼びます。実施期間は授業第14週または第15週です。なお、下記期間中は、通常の授業と異なる教室や5限終了後に試験を行うことがあります。

(1) 試験に係る日程

学期	授業週	掲示予定日	試験期間
前期	第14週	2014年7月2日（水）	2014年7月16日（水）～18日（金）、21日（月）～22日（火）
	第15週	2014年7月9日（水）	2014年7月23日（水）～25日（金）、28日（月）～29日（火）
後期	第14週	2014年12月12日（金）	2015年1月9日（金）、14日（水）～15日（木）、19日（月）～20日（火）
	第15週	2014年12月19日（金）	2015年1月21日（水）～23日（金）、26日（月）～27日（火）

*音楽学部実技試験については別途掲示します。

(2) 注意事項

試験に関する掲示は発表後に変更される場合があるので、FerrisPassport等の更新情報に十分注意してください。また、受験上の注意は下記のとおりとします。

- ① 着席は原則として1人掛けまたは2人掛けとし、2人掛けの場合は各々両端に座ってください。
- ② 試験中は監督者が見やすいように、学生証を机上に置いてください。
- ③ 当日学生証を忘れた場合は、教務課で受験票の交付を受けてください。受験票は交付日当日のみ有効です。（返却不要です。）
- ④ 下敷きの使用及び筆記具の貸し借りは禁止します。
- ⑤ 科目担当者からの指示がない限り携帯電話・スマートフォン及びパソコン等の電子機器の使用は禁止します。
- ⑥ 遅刻は試験開始後20分までに限り認められます。ただし、試験時間は延長しません。
- ⑦ その他試験中は全て監督者の指示に従ってください。

4. レポート試験

(1) レポート試験に関する掲示

教員から教務課に届出のあったレポート試験については、下記の日程で掲示により周知されます。

学期	掲示予定日
前期	2014年7月2日（水）
後期	2014年12月12日（金）

(2) 教務課提出のレポート試験

提出 期間	前期	2014年7月23日（水）～25日（金）、28日（月）～29日（火） 9：00～18：00
	後期	2015年1月21日（水）～23日（金）、26日（月）～27日（火） 9：00～18：00
提出場所	原則として開講校舎とします。ただし、音楽学部3・4年次生については、緑園・山手いずれの校舎でも提出可能とします。	
提出方法	教務課所定の表紙に必要事項を記入し、ホチキスで綴じて所定のレポートボックスに提出してください。本人提出を原則としますが、病気その他やむを得ない理由により本人が提出できない場合は代理人提出を認めます。 なお、一度提出したレポートは返却できません。また、「7. レポート追受理」を除く遅延提出はいつさい認められません。	

(3) 担当者に直接提出するレポート試験

提出方法等すべて担当者の指示に従ってください。教務課ではいつさい取扱いません。

(4) レポート作成・提出に際しての注意事項

レポート作成にあたり他人の文章を引用する際は、その部分を括弧「」で囲む等引用がわかるようにした上で出典を明記しなければなりません。下記の事項を十分に注意してください。

- ① 書物、論文及びインターネットから転記したり、それを組み合わせたりしてあたかも自分の文章のように装うことは、引用ではなく「盗用」です。盗用は絶対に許されない行為です。
- ② ①のような意図はなくても、出典を明記しないで引用を行うと、盗用とみなされる場合があります。
- ③ 提出されたレポートが上記①・②に基づき盗用とみなされた場合は、「不正行為」とみなします。
- ④ レポートにおいて不正行為を行った学生には、次項目「5. 不正行為を行った学生への措置」記載の措置等がとられます。

5. 不正行為を行った学生への措置

筆記試験	当該学期の全科目の履修登録を無効とする措置等がとられます。また、学則に基づく処分（停学、訓告等）がなされることがあります。
レポート試験	当該科目の評価を不合格（H）とする措置等がとられます。また、学則に基づく処分（停学、訓告等）がなされることがあります。

6. 追試験

教務課取扱い試験についてのみ、追試験許可理由（下記（1）参照）のいずれかに該当し、受験資格があると認められた学生は、願い出によって追試験を受けることができます。

なお、授業第14週・第15週に行われている試験でも、教務課が掲示で発表を行っていないものについては、追試験を願い出することはできません。

音楽学部実技科目の追試験

→p. 136「実技追試験」

(1) 追試験許可理由

	欠席理由	必要な証明書類
①	傷病	医師の診断書
②	感染症にかかった場合の出席停止 詳細は p.12 授業欠席①「感染症にかかった場合」を参照。	感染症罹患届、診断・登校許可証明書
③	就職試験受験	受験先の証明書等
④	大学院受験	受験票（写）
⑤	放送大学（特別聴講学生）第1学期の単位認定試験	放送大学の試験日程を証明する書類
⑥	裁判員招集 詳細は p.12 「裁判員に選任され、裁判員として審理に参加する場合」を参照。	裁判所からの呼び出し状
⑦	忌引 詳細は p.12 「忌引により、欠席する場合」を参照。	欠席日を確認できる「会葬礼状」または死亡を確認できる公的証明書（写）
⑧	交通機関の事故	駅が発行する遅延証明書等
⑨	全国レベルの大会等への出場	当該大会等のプログラム及び参加を証明する書類並びに関係教員の承諾書
⑩	その他特別な事情により、教務部長が必要と認めた場合	理由を証明する書類

※証明書類は当該科目試験日に受験できなかったことを証明するものでなければなりません。

(2) 受験手続

追試験受験を希望する場合は、次の期日までに教務課窓口にて「追試験願」を記入の上、証明書類及び受験料（証紙購入）を添えて、教務課に提出しなければなりません。代理人による手続も認めるので、必ずこの期日までに手続を行ってください。

なお、追試験の許可が得られなかった場合や担当者が追試験を実施しないと判断した場合には、追試験該当者発表日以降に受験料を返還します。

提出物	追試験許可願
	証明書類
	受験料※
手続期限	前期 2014年8月4日（月） 15：00
	後期 2015年2月2日（月）

※1科目につき1,000円。追試験許可理由②の場合は不要です

(3) 追試験日程

学期	学年	許可者及び時間割発表	追試験日
前期	1～4年次生	2014年8月21日（木）	2014年8月28日（木）、29日（金）
	4年次生	2015年2月6日（金）	2015年2月12日（木）
後期	1～3年次生	2015年2月18日（水）	2015年2月25日（水）、26日（木）

(4) 追試験の注意事項

- ① 音楽学部実技科目の追試験については別途掲示します。
- ② 追試験の成績評価は2割減点とします。（追試験許可理由②及び⑥の場合は減点はありません。）
- ③ 追試験の実施は定められた期日1回限りです。
- ④ 合格・不合格評価科目及び集中講義科目については追試験を実施しません。

7. レポート追受理

レポート追受理とは、やむを得ぬ理由（追試験許可理由に準ずる。）により提出期間内に教務課提出のレポートを提出できない場合、下記の手続きにより提出することができる制度です。

ただし、この場合の成績評価は、追試験の規定に準じます。

提出物	レポート追受理願
	証明書類
	レポート本体
提出場所	緑園 教務課
提出期限	前期 2014年8月4日（月）15：00
	後期 2015年2月2日（月）

8. 再試験

再試験とは、音楽学部の必修・選択必修レッスン科目の試験を受けて不合格（評価 F）とされた学生が、願い出て認められた場合、改めて受験の機会を与える制度をいいます。

→p. 138「再試験」

9. 卒業再試験

卒業再試験とは、卒業学期に履修した科目（卒業再試験対象外科目を除く）に対し不合格評価「F」を受けたため、卒業要件単位に4単位以内の不足が生じた者に、再度試験の機会を与える制度です。不合格評価「G」「H」を受けたため、卒業要件を満たせなくなった者には、受験資格が与えられません。

(1) 卒業再試験受験資格者

- ① 受験資格者は、教授会において確定された後、発表される。
- ② 受験資格者は卒業学期に評価「F」を受けた科目の中から、不足単位数に相当する分の科目の卒業再試験を受験することができる。

(2) 卒業再試験対象外科目

① 集中講義科目		
② 追試験受験科目		
③ 音楽学部専門科目のうち、実技試験期間中に実施する必修・選択必修レッスン科目		
④ 合格・不合格評価科目 (p.33)		
⑤ 実習科目	基礎教養科目	「音楽実技 A,B」
	語学科目	「海外語学実習」
	英語英米文学科／英文学科専門科目	「アメリカ現地実習」「イギリス現地実習」 「フィールド・スタディ1,2」
	日本語日本文学科／日本文学科専門科目	「日本語教育実習1,2」
	国際交流学部専門科目	「アジア現地実習」「ヨーロッパ現地実習」 「地球環境実習」「オーストラリア現地実習」 「農環境体験実習」
	音楽学部専門科目	「伴奏実習Ⅰ」「伴奏実習Ⅱ」
⑥ 教職に関する科目のうち、卒業要件算入科目以外の教職専門科目		

(3) 卒業再試験手続

卒業再試験の受験を希望する者は、次の期間に教務課で所定の手続きをしなければなりません。この期間に遅れると一切受理されません。代理人による手続も認めるので必ずこの期日までに手続を行ってください。

提出物	卒業再試験受験願
	受験料 5,000円 (1科目につき)
手続期間	前期 2014年9月12日 (金)、16日 (火)
	後期 2015年2月23日 (月)、24日 (火)

(4) 卒業再試験日程

前期	2014年9月17日 (水)
後期	2015年2月25日 (水)

(5) 卒業再試験の注意事項

- ① 卒業再試験の時間割は、卒業再試験申込時に発表します。
- ② 卒業再試験の成績評価は「C」または「F」とします。
- ③ 卒業再試験の実施は、定められた期日1回限りとします。

成績評価

1. 成績評価

本学における成績評価の基準は、次のとおりです。ただし、大学院学生については、別途定めます。

	評価	評価基準		GP
合格	S	100点～90点	到達目標を達成し、卓越した水準に達している。	4
	A	89点～80点	到達目標を達成し、優れた水準に達している。	3
	B	79点～70点	到達目標を達成し、良好な水準に達している。	2
	C	69点～60点	到達目標を達成している。	1
不合格	F	59点～ 0点	到達目標を達成していない。	0
	G	-	筆記・実技試験を欠席、もしくはレポートを提出しなかった。	0
	H	-	出席が3分の2に満たず受験資格なしと判定された、もしくはその他の理由による。	0

2. GPA 制度

GPA (Grade Point Average) とは、各成績評価に対してそれぞれポイントを定め、1単位あたりの成績の平均値を示すものです。したがって、履修科目を多く登録しても、不合格が多いと、GPA の値が小さくなります。科目選択および履修に際しては、各自が責任をもって管理してください。

各成績評価に対するグレードポイントは次のとおりです。(合 (P)、不 (Q)、N、T は、GPA の算出には含まれません。)

$$S = 4, A = 3, B = 2, C = 1, F \cdot G \cdot H = 0$$

GPA は履修科目の単位数に評価に応じたグレードポイントを乗じ、その合計を履修登録単位数の合計で除して求められます。

《例》GPA の算出方法

授業科目名	単位数	評価	ポイント数 (QP)
キリスト教 I	2	A	2×3= 6
英語 I s (読む・書く)	1	C	1×1= 1
英語 I s (聞く・話す)	1	H	1×0= 0
スペイン語 I (入門)	1	B	1×2= 2
中国語 I (入門)	1	F	1×0= 0
R & R (入門ゼミ)	1	B	1×2= 2
社会的行為としてのコミュニケーション	4	B	4×2= 8
対人コミュニケーションの心理学	2	B	2×2= 4
放送文化と制度を考える	2	A	2×3= 6
ディベートと自己主張	2	B	2×2= 4
日本語の音声とアクセント (1)	2	A	2×3= 6
日本の歴史 (1)	2	C	2×1= 2
合計	21単位①		41②

$$\text{GPA} = \text{②} \div \text{①} \rightarrow 41 \div 21 = 1.95 \text{ (小数点第3位で四捨五入)}$$

3. 成績通知 (FerrisPassport)・成績証明書への表示

成績通知及び成績証明書への評価の表示方法は次のとおりです。

評 価	S	A	B	C	合	F	不	G	H	単位 認定 ^{*1}	評価の ^{*2} 取消し又 は保留	GPA
成績通知	S	A	B	C	P	F	Q	G	H	N	T	表示
成績証明書 (和文)	S	A	B	C	P					N		表示
成績証明書 (英文)	A ⁺	A	B	C	P					N		表示

- *1 本学以外で修得した単位等の認定は、成績通知及び成績証明書に授業科目名：「単位認定」、評価：「N」と表示されます。
- *2 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業演奏」「卒業プロジェクト」の評価が合格となっても、卒業判定の結果、卒業資格の認定が得られなかった場合、「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」は「評価取消し」、「卒業演奏」は「評価の保留」となり、いずれの場合も成績通知には評価：「T」と表示されます。

4. 成績評価のガイドライン

厳正な成績評価を行うことを目的として、学部の授業科目の成績評価についてガイドラインを設けています。

- S評価とA評価を与える学生の割合は履修登録者数に対して合計50%を上限とする。
- 次のいずれかに該当する授業科目には、担当者の判断によりこのガイドラインを適用しないことができる。
 - 履修登録者9名以下の科目
 - 卒業再試験対象外の実習科目 (p.30「卒業再試験対象外科目」⑤参照)
 - 基礎教養科目「音楽実技 A,B」
 - 文学部「R&R (入門ゼミ)」「基礎ゼミ」「専門ゼミ」「卒論ゼミ」
 - 国際交流学部「導入演習」「基礎演習」「専門演習」
 - 音楽学部「ソルフェージュ」「音楽家の基礎知識」「音楽基礎理論」「室内楽」「演奏プロフェッショナルスタディ」「ソリスト育成特別レッスン」「学内演奏」「専門ゼミ」
 - 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」「卒業公開演奏」「2年次公開修了演奏」

5. 合格・不合格評価科目

試験の結果が段階的な評価によらず、合格又は不合格で評価される授業科目は、次のとおりです。

合格・不合格評価科目

基礎教養科目	「ボランティア活動1」「ボランティア活動2」「ボランティア活動3」
総合課題科目	「キリスト教Ⅲ (1)」「キリスト教Ⅲ (2)」「キャリア実習 (短期インターンシップ)」「キャリア実習 (長期インターンシップ)」
音楽学部専門科目	「学外公開演奏」「学外公开发表Ⅰ」「学外公开发表Ⅱ」「国内音楽研修」「海外音楽研修」「演奏ボランティア」

6. 成績通知

成績通知は、下記の日程に FerrisPassport を通じて行います。

前期	2014年3月末（詳細は後日揭示）
後期	2014年9月12日（金）

成績通知時には、一部の科目*を除き前学期までに履修したすべての授業科目の成績評価が記載されています。

*「キャリア実習（短期インターンシップ）」「キャリア実習（長期インターンシップ）」及び本学以外で修得した単位の認定は、学期始めの成績通知には反映されず、保証人あての成績通知書に成績評価が記載されます。

保証人に対しては、各学期ごとに成績通知書を郵送します。ただし、特別な事情によって保証人への郵送を希望しない場合は、所定用紙（教務課備付）をもって郵送の停止を願い出ることができます。願い出が受理された場合、保証人への成績通知書送付を停止し、別途、送付停止となった旨のお知らせを送付します。

【保証人あて郵送日】

前期	2014年5月中旬（予定）
後期	2014年10月下旬（予定）

7. 成績評価に関する問い合わせ

成績評価について客観的に検証した上で確認を求めたい場合は、定められた期日までに、所定用紙「成績評価確認願」（教務課備付）に理由、根拠を具体的に記入の上、教務課に提出してください。この期日を過ぎた場合、問い合わせは一切受け付けられません。

なお、この問い合わせは、成績評価の確認を依頼するためのものであり、担当者に対して評価への異議又は再考を申し出るものではありません。

→日程・スケジュールはp.19

卒業の要件・卒業論文等

1. 卒業に必要な単位

卒業のためには、4年（8学期）（2年次編入学者は3年（6学期）、3年次編入学者は2年（4学期））以上在学して、各学部・学科ごとに定められた卒業に必要な単位を修得しなければなりません。

2. 学位

所定の単位を修得した学生は卒業を認められ、卒業証書・学位記が授与されます。卒業者発表の日時及び授与される学位は以下のとおりです。

卒業者発表	日時	2015年2月23日（月）
	場所	緑園校舎・山手校舎・FerrisPassport
「成績確認願」提出期限		2015年2月24日（火）18:00

学位	文学部	学士（文学）
	国際交流学部	学士（国際交流学）
	音楽学部	学士（音楽）

3. 卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクト（以下「卒業論文等」と表記）の提出

(1) 日程

	日時	場所
「卒業論文等題目届」提出締切日	2014年10月17日（金）	教務課 及び山手事務室
卒業論文等提出日	2014年12月10日（水）11:00~16:00	掲示によって発表します。
	2014年12月11日（木）11:00~16:00	

(2) 「卒業論文等題目届」提出

所定の期日までに「卒業論文等題目届」に必要な事項を記入し、指導教員の承認印を得た上で、教務課（緑園）又は山手事務室に提出してください。提出する際の注意事項は以下のとおりです。

記入	記入漏れがないことを確認してください。題目届は複写式なので、強い筆圧で記入してください。
捺印	2枚目、3枚目の複写用紙（提出票）に指導教員の捺印漏れが無いことを確認してください。
主題	提出後、提出票の文字を書きなぞったり、主題を書き換えたりすることはできません。
保管	題目届（提出票）は卒業論文等の提出時に必要なので、大切に保管してください。

(3) 卒業論文等提出

提出方法	指定された日時に所定の場所に本人が提出してください。郵送による提出は一切受理しません。
代理人提出	病気、その他やむを得ない理由に本人が提出できない場合は、追試験許可理由（p.29）に準じて代理人提出が認められることがあります。教務課まで連絡し、指示を受けてください。ただし、この場合も提出期限は厳守とします。
提出媒体	紙に印刷され、所定の方法で綴じられたものでなければ受理されません。機器のトラブルによる遅延提出は一切認めませんので、提出日以前に印刷を済ませておいて下さい。なお、コミュニケーション学科の卒業制作及び音楽芸術学科の卒業プロジェクトは紙以外の媒体での提出が指示されることがあります。
用紙・体裁	各学科の指示に従ってください。
口頭試験等	審査にあたり実施することがあります。詳細は各学科の指示に従ってください。

(4) 卒業論文等の遅延提出

所定の期日に提出できなかった卒業論文等は、遅延提出受付日に遅延扱いとして受け付けます。ただし、この場合遅延手数料が徴収されます。また、成績評価は「C」または「F」とします。

遅延提出受付日時に遅れた場合は、理由のいかんを問わず一切受理されません。

遅延提出受付日時	2014年12月12日(金) 15:00~17:00
場所	緑園校舎 (詳細は掲示にて発表)
手数料	5,000円

4. 卒業論文等の単位認定及び成績評価

(1) 卒業論文等撤回願

卒業論文等の単位認定は、卒業する年度にのみ行われます。卒業論文等を提出したがその年度に卒業を希望しない者は、「卒業論文等撤回願」を教務課に提出することにより卒業論文等を撤回できます。

なお、撤回した場合はH評価となるので、次の卒業年度に改めて履修登録及び卒業論文等の提出手続きを行わなければなりません。

卒業論文等撤回願 提出期限:2015年1月27日(火)

(2) 卒業論文等の評価取消し

卒業論文等の評価が合格となっても、卒業判定の結果卒業不可となった場合、卒業論文等の評価は取消し(T評価)となり、論文等は学生に返却されます。次の卒業年度に改めて履修登録及び提出手続きを行わなければなりません。

5. 9月卒業

年度末に卒業資格の認定を得られなかった者が、次年度前期に卒業に必要な単位を修得した場合、9月末の卒業が認められます。

(1) 9月卒業希望届

2014年度9月卒業を希望するものは以下の期日までに「9月卒業希望届」を教務課に提出してください。

「9月卒業希望届」提出期限	2014年4月18日(金)
---------------	---------------

遅延提出受付日
2014年7月11日(金)
15:00~17:00
提出先:緑園教務課
手数料:5,000円

※注意事項については上記3(4)を参照のこと。

(2) 2014年度9月卒業論文等提出及び卒業認定に係る日程

「卒業論文等題目届」提出期限	2014年5月9日(金)	2014年5月23日(金)
卒業論文等提出日	2014年7月9日(水)	9:00~16:00 (提出先:緑園教務課)
9月卒業発表・成績通知	2014年9月12日(金)	、10日(木)
「成績評価確認願」提出期限	2014年9月12日(金)	
2014年度9月学位授与式日程	2014年9月24日(水)	

(3) 9月卒業希望者の履修方法

文学部	前期に卒業に必要な単位を修得するものとします。 選択必修Iと選択必修IV科目で後期開講科目を未修得の場合は、それぞれ同じ群の前期開講科目の履修をもって当該未修得科目の履修と見なします。その場合は、「9月卒業希望届」提出前に、所属学科の教務委員の履修指導を受けなければなりません。
国際交流学部	前期に卒業に必要な単位を修得するものとします。
音楽学部	前期に卒業に必要な単位を修得するものとします。 なお、当該学生の未修得科目の履修方法について、学部が特に定める場合があります。「9月卒業希望届」提出前に、所属学科の履修指導を受けてください。

(4) 9月卒業予定者の卒業論文等撤回

9月卒業予定者のうち、卒業論文等を提出した者が9月卒業を希望しないという場合は、「卒業論文等撤回願」を教務課に提出することにより卒業論文等を撤回できます。撤回した者は、次の学期に履修登録の上、卒業論文等を提出することができます。

9月卒業論文等撤回願 提出期限	2014年7月28日(月)
-----------------	---------------

海外短期研修 · 留学 · 国内留学

海外短期研修・留学

本学では、多様な文化と価値観を理解し、国際社会で活躍できる人材を育成するために海外交流プログラムを豊富に提供しています。

学生を海外に派遣する制度としては、短期の海外短期研修制度と長期の交換留学制度、認定留学制度、 Semester・アブロードがあります。

海外短期研修

海外短期研修は、夏期または春期休暇を利用して1週間～4週間行われるプログラムです。海外の大学等において、語学や歴史・文化プログラム及び専門分野を学ぶフィールドワークなどがあります。これらは授業科目として開講されており、単位が取得できます。

詳細は4月中旬に開催する説明会でお知らせします。参加希望者は必ず出席してください。

2014年度海外短期研修先は下記のとおりです。留学時期・期間は年度により変更があります。

No.	授業科目名	短期研修先(国)	時期	期間	科目区分	開放	登録
1	アメリカ現地実習	ローズモントカレッジ(アメリカ)	夏期	約3週間	英語英米文	▲	①
2	イギリス現地実習	パースカレッジ(イギリス)	夏期	約4週間	英語英米文	▲	①
3	フィールド・スタディ1	(アメリカ)	夏期	約1週間	英語英米文	▲	①
4	海外語学実習(フランス語)	西部カトリック大学(フランス)	夏期	約4週間	フランス語		①
5	海外語学実習(ドイツ語)	IKK:異文化間コミュニケーション研究所(ドイツ)	夏期	約3週間	ドイツ語		①
6	海外語学実習(スペイン語)	サラマンカ大学(スペイン)	夏期	約3週間	スペイン語		①
7	海外語学実習(朝鮮語)	梨花大学(韓国)	夏期	約3週間	朝鮮語		①
8	海外語学実習(中国語)	清華大学(中国)	夏期	約3週間	中国語		①
9	オーストラリア現地実習	ボンド大学(オーストラリア)	夏期	約3週間	国際交流	▲	①
10	アジア現地実習(2)	シリマン大学(フィリピン)	夏期	約2週間	国際交流	▲	②
11	海外環境フィールド実習	(キリバス)	春期	約2週間	国際交流	▲	②

▲:他学部・他学科開放科目 ①:大学が履修登録 ②:各自で履修登録

海外短期研修の履修要件

海外短期研修は、授業科目として履修登録できることが参加の条件となります。

(1) 年次・学科

対象学年(履修可能年次)であり、当該科目の履修が可能な学科に所属していること。非開放の専門科目に他学部・他学科の学生が参加することはできません。

(2) 単位修得状況

当該科目の単位を修得済みでないこと。

ただし、「アジア現地実習(2)」は重複履修が可能です。

(3) その他

シラバス等に表示されている条件を満たしていること。

修得した単位の扱い

科目の区分に応じて認定されます。

「海外語学実習」(No.4～No.8)による修得単位数は、語学科目の必修相当として認められます。

交換留学

本学では、下記の17大学と交換留学協定を締結し、相互に留学生を受け入れ、派遣しています。この協定に基づき留学することを交換留学と言います。

留学期間は1学期間、又は2学期間（最長1年間）です。

留学先で修得した単位は本学において修得した単位として認定することができ、また留学期間は在学期間として扱われるため、卒業要件単位を充足すれば4年間での卒業が可能です。

全般的な説明会は毎年4月・10月に、その他、留学地域別などの説明会は随時開催しています。出願時期は、年2回（6月・11月）で、留学出発時期によって異なります。

交換留学の出願条件

交換留学の出願にあたっては、下記の条件を満たす必要があります。

- (1) 留学の目的が明確であり、学業及び健康に優れ、本学の留学生としてふさわしい者
- (2) 留学開始時において2学期以上在籍する者
- (3) 出願時の前学期までに、原則として在籍学期数×15単位を修得済みである者

例) 2年次後期に出願する場合

1年		2年	
前期	後期	前期	後期
15単位×3学期=45単位以上 累積 GPA 2.10以上			出願

- (4) 累積 GPA2.10以上の者（一部協定校は累積 GPA2.50以上）
- (5) 留学先の大学において学習を行うに十分な語学能力を有すること。

英語圏	TOEFL iBT 61点以上（一部協定校は TOEFL iBT 79点以上）
初習外国語圏	中級以上。以下に定める条件①もしくは②が出願条件となる。 ①志願時に原則として2学期分以上の留学先言語の語学科目の成績評価が確認でき、平均 B 以上（累積 GPA2.10以上） ②留学先言語の語学検定証明書

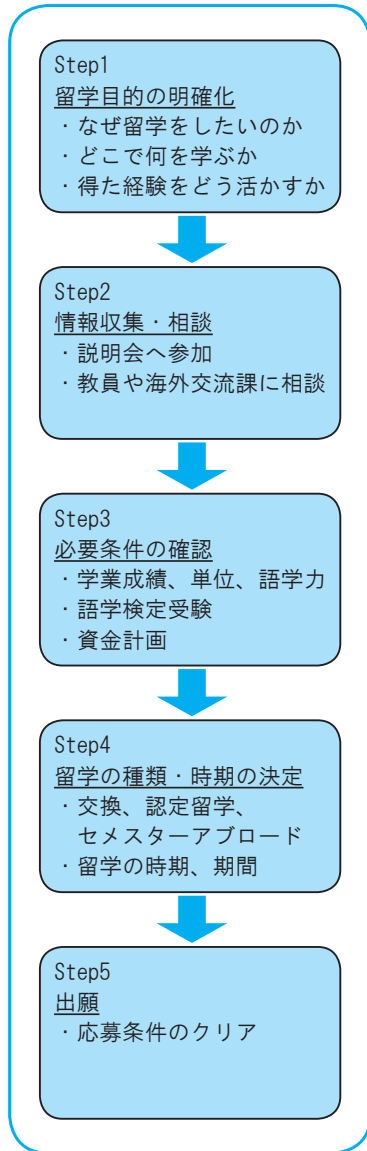
交換留学の協定校

大学名	所在地	主な出発時期
梨花女子大学	韓国・ソウル	2～3月
新羅大学	韓国・釜山	2～3月
清華大学	中国・北京	2～3月
華東師範大学	中国・上海	2～3月
輔仁大学	台湾・台北	2～3月
シリマン大学	フィリピン・ドゥマゲテ	6月
ガジャマダ大学	インドネシア・ジョグジャカルタ	9月
ホープカレッジ	アメリカ・ミシガン州	8月
ローズモントカレッジ	アメリカ・ペンシルベニア州	8月
セントオラフカレッジ	アメリカ・ミネソタ州	8月
ワシントンカレッジ	アメリカ・メリーランド州	8月
西部カトリック大学	フランス・アンジェ	2月
デュッセルドルフ大学	ドイツ・デュッセルドルフ	4月
ブレーメン芸術大学	ドイツ・ブレーメン	9月
サラマンカ大学	スペイン・サラマンカ	3月
マベリーニ音楽院	イタリア・ピストイア	9月
コメンスキー大学	スロバキア・ブラチスラバ	9月

交換留学実現にむけたロードマップ

交換留学を実現させるためには、計画的に準備を進めていく必要があります。出願までのステップやモデルプランを参考にしながら、早めに目標を設定して行動してください。

◆出願までのステップ



◆交換留学のモデルプラン

学年		2年次後期に留学	3年次前期に留学
1年	前期	説明会出席	
	夏休み	海外短期研修※	
	後期	出願 書類・面接審査 決定	
	春休み	入学手続き 渡航準備	
2年	前期	教務面談 留学準備講座	説明会出席 出願 書類・面接審査 決定
	夏休み		海外短期研修※
	後期	留学生活	入学手続き 渡航準備 教務面談 留学準備講座
	春休み		
3年	前期	単位認定手続き	留学生活
	夏休み		
	後期		
	春休み		単位認定手続き
4年	前期		
	夏休み		
	後期		
	春休み		

※海外短期研修は必須ではありませんが、長期留学前の参加をお勧めします。

認定留学

学生自ら選んだ海外の大学または大学附属の語学学校に、自ら入学手続きをした上で、本学に申請し許可を得て留学する制度です。

留学期間は1学期から2学期間（最長1年間）です。

留学先で修得した単位は本学において修得した単位としてみなすことができ、また留学期間は在学期間として扱われるため、卒業要件単位を充足すれば4年間での卒業が可能です。

Semester・アブロード

文学部英語英米文学科の学生のみ対象のプログラムです。

3年次前期の1学期、ニュージーランドの協定校に留学します。留学先で修得した単位は本学において修得した単位としてみなすことができ、また留学期間は在学期間として扱われるため、卒業要件単位を充足すれば4年間での卒業が可能です。興味・関心がある学生は、4月以降定期的に開催される説明会に参加し、出願条件やプログラム内容等についての詳細を理解した上で、10月に出願手続きを行ってください。

大学名	所在地	留学開始時期の目安
ヴィクトリア大学	ニュージーランド	3月から

その他の留学方法

交換留学、認定留学、Semester・アブロードを利用せずに、休学して留学をする方法もあります。ただし、休学して留学する場合は、留学期間は在学期間として扱われないため、4年間で卒業することはできません。

→休学の手続きについては、p.156

海外留学に関する相談窓口

相談窓口

留学先で修得した単位の認定、帰国後の履修計画など	教務課
留学の手続き、出願、留学に関する奨学金制度の情報提供、個別相談など	海外交流課
留学後の就職活動など	就職課

留学に関する情報

・海外研修・留学に関する詳細な情報は、毎年海外交流課が発行する冊子「Study Abroad」を参照してください。

→「Study Abroad」は海外交流課にて配布

・留学準備のための情報収集には、緑園キャンパス7号館3階の「海外交流ラウンジ」を活用してください。協定校に関する資料、先輩の報告書等が閲覧できます。

国内留学

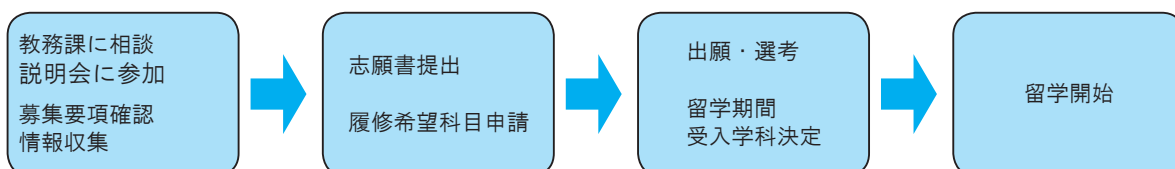
同志社女子大学での国内交流制度

本学と同志社女子大学は国内留学協定を締結し、相互に派遣・受入を行っています。これを国内交流制度といいます。同志社女子大学で半年ないし1年間、1つの学科に所属して履修します。

応募条件・留学期間の取扱い

1. 募集人員
原則として通年（2学期間）2名。学期単位の派遣も可能です。
2. 出願資格
全学部対象。
原則として本学に1年以上在学し、派遣時に2年次生又は3年次生であること。
教職課程履修者が派遣を希望する場合は、派遣時に2年次生であること。
3. 留学期間の取扱い
同志社女子大学での科目履修期間は、本学の修業年数及び在学期間に算入されるので、4年間での卒業が可能です。休学する必要はありません。

留学希望者は



説明会で募集要項を配布します。関心のある学生は必ず参加して検討に役立ててください。

留学スケジュールの例

下表は、2年次前期に留学した場合の例です。

パターン	1年		2年		3年		4年		卒業・進学
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
2年次前期に 1学期留学	説明会	出願・選考 各種手続	留学期間	単位認定申請		就職活動または進学準備など			

受け入れ学科・履修可能科目

1. 受け入れ学科

下記のいずれかの学科に所属します。履修希望科目が最も多く置かれている学科を希望してください。学部を超えた履修も可能です。

学部名	所在地	学 科 名		
学芸学部	京田辺キャンパス	音楽学科	情報メディア学科	国際教養学科
現代社会学部	京田辺キャンパス	社会システム学科	現代こども学科	
生活科学部	今出川キャンパス	人間生活学科	食物栄養科学科	
表象文化学部	今出川キャンパス	英語英文学科	日本語日本文学科	

*薬学部医療薬学科は受入対象外です。

2. 履修可能科目

ほとんどすべての科目が履修できますが、一部予め相談が必要な科目があります。詳細は説明会で配布する募集要項で確認してください。

出願の手続き

説明会（7月、10月）に参加した上で、下記のとおり申し込んでください。説明会の日程は、FerrisPassportで掲示します。

提出書類	①志願書、②志願理由、③履修希望科目
提出期限	2014年10月14日（火）～10月16日（木）
注 意	①には本人と保証人の署名、押印が必要です。提出期限までに整えること。

学部教育課程

共通科目

文学部

国際交流学部

音楽学部

外国人留学生の履修

共通科目

共通科目

カリキュラムの説明

共通科目は、文学部、国際交流学部、音楽学部の全学生に共通の科目群として開講されます。基礎教養科目、総合課題科目、語学科目の3群から構成されています。

基礎教養科目

大学生にとって必要とされる基本的な知識、教養を提供する目的を持った科目群です。

学生に新たな興味、関心を呼び起こし、さらに専門科目を学ぶための前提知識を提供するという役割があります。

「社会で生きていくためのチカラ（リテラシー）」という観点を重視しており、思考リテラシー、コミュニケーション・リテラシー、社会リテラシー、文化リテラシー、科学リテラシー、身体リテラシーの6分野と、「キリスト教の基礎」で構成されています。

カリキュラムの趣旨と構成

キリスト教の基礎	本学の建学理念であるキリスト教信仰の本質を、「For Others」を通して学びます。現代社会では、自分の個性や才能を育むためには、宗教や文化の違いを超えて、生きる基本姿勢を学ぶ必要があります。そのための手がかりとして、『聖書』やキリスト教の歴史的起源に遡り、その意義を考察します。
思考リテラシー	学問の最も根底にある「考える」、「判断する」という能力を養います。哲学、論理学、教育学など、モノを考えること自体を扱います。
コミュニケーション・リテラシー	「話す・聞く」、「読む・書く」といった基本的なスキルと、情報メディアを適切に使う力を養います。
社会リテラシー	幅広く「社会」の諸相を学びます。法律や政治、経済といった市民としての常識に加え、特に「企業」という存在を幅広く取り上げます。
文化リテラシー	人間の知的創造物のうち、特に「文化」に関係した領域である文学、音楽、芸術などについて学びます。
科学リテラシー	文科系の皆さんが身につけておくべき科学の知識と素養を、数的・科学的思考、生物・環境、ITの3つに分けて捉えます。
身体リテラシー	他者とかかわる「身体」への理解を感覚的・理論的に深めます。健康維持やスポーツを〈実践する〉実習科目と、これらの意味を〈考える〉講義科目とを提供しています。

総合課題科目

「基礎教養科目」を普遍的な知を扱う学問とすると、「総合課題科目」は、本学の教育理念「For Others」に根ざし、「基礎教養科目」では取り上げられなかった、時代性・独自性の高い内容や学際的なテーマを通して問題意識を養うこと、それに取り組む力を培うことを目的とします。

キリスト教の様々な側面を扱う「キリスト教Ⅱ、Ⅲ」に加え、フェリス女学院にとって重要な学問テーマ「女性」、「他者」、「環境」、「転換の時代」があります。これらを扱う科目群を「自分を見つめ、自分の場を知る」、「過去から未来」、「新しい世界を知る」「仕事と社会を学ぶ」という、4つの視点によって構成しています。

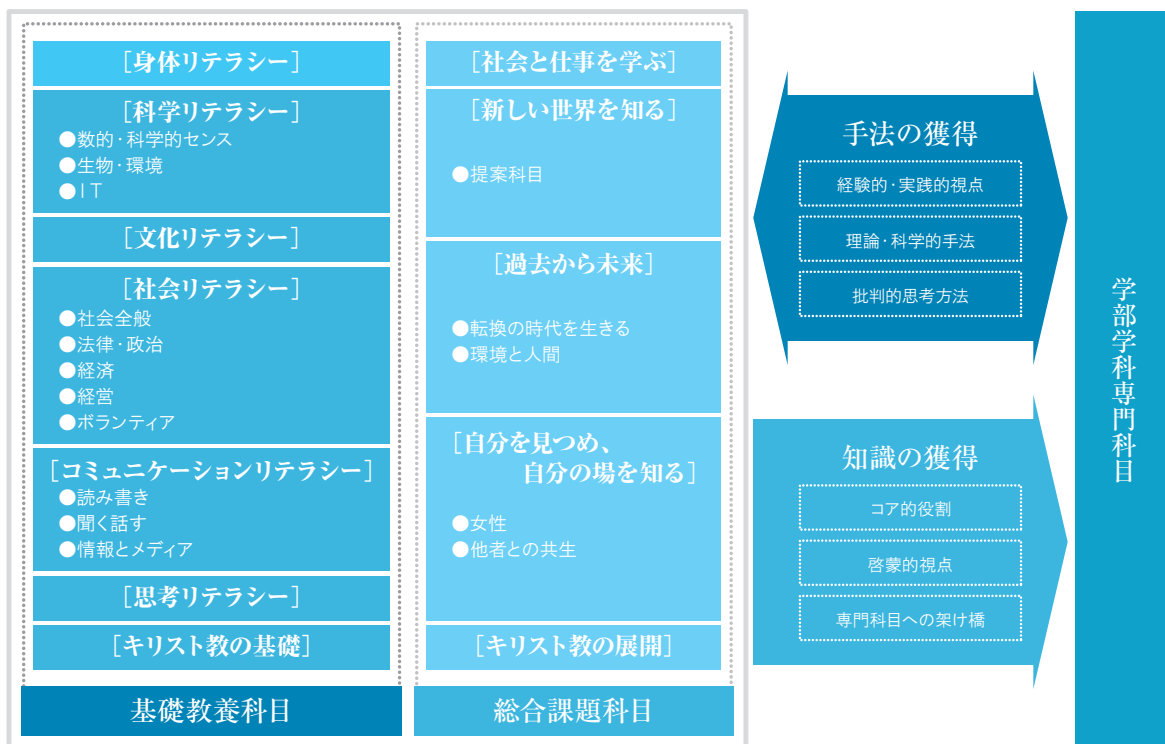
カリキュラムの趣旨と構成

キリスト教の展開	宗教への理解なしに、現代社会への展望を開くことはできません。2000年の歴史をもつ世界宗教として、あらゆる領域にわたって経験の宝庫であるキリスト教を多様な展開から学びます。
自分を見つめ、自分の場を知る	フェリスの教育目標は、「社会に貢献する自立した女性の育成」です。自立には、「個」としての精神的自立と経済的自立があります。大学での学びは、この2つの自立のための土台を固め、社会に出る準備をするためにあります。「どのように生きたいのか」「他者のために自分は何ができるのか」という簡単には答えが見つからないことについて、「女性」と「他者」を大きな柱にして、主体的に考えます。
社会と仕事を学ぶ	社会と仕事との接点を、「キャリア形成の理解」「キャリア系知識を深める」「社会人基礎力の修得・実践」の3段階から捉えます。
過去から未来	時間を大きな流れで理解します。変化していくものごとを「転換の時代を生きる」で捉え、「環境と人間」で、未来につながる世界を考えます。
新しい世界を知る	学生提案科目、教職員提案科目では、既存のカリキュラムにないテーマを学内で公募し、審査により採択された内容を実現します。3学部横断演習科目では、知識そのものよりも学び方、研究手法の修得に重点を置いています。

* 「リテラシー (Literacy)」

本来読み書きの能力を指す言葉ですが、社会で自立した個人として、自ら考え意思決定するための様々な素養を意味するものとしても使われています。

基礎教養・総合課題科目カリキュラムマップ



特色ある科目と目的

自校教育科目「フェリス女学院大学で学ぶということ」

学習活動の基盤となるフェリスの歴史と存在意義、「For Others」の現代的解釈などを扱います。基礎教養・総合課題科目運営委員長がコーディネイターとなり、卒業生や教職員を含む様々な観点からの講義を展開します。

学生提案科目「私たちが学びたいこと」

学生からの提案をもとに、教員との協働で作る科目です。応募されたテーマ、内容に基づき、基礎教養・総合課題科目運営委員会で審査し、大学が決定します。審査結果は掲示により審査委員長からの講評がフィードバックされます。応募要領は次のとおりです。

対 象	2015年度 前期 1科目
講義題目・担当者	採用されたテーマをもとに、大学が決定
条 件	総合課題科目に相応しいもの。 提案者1名のほかに、賛同者4名が必要です。 (2015年度分から) 提案者1名のみ 講義科目(2単位)であること。 で応募できます。
提出期限	2014年11月14日(金)
提出書類	提案理由書(テーマのタイトル及び提案理由 800字程度)
提出先	教務課

提案書

所定の用紙をFerrisPassportからダウンロードすること。

教職員提案科目「新たな学びの世界を広げる」

既存のカリキュラムにないテーマを教職員から募集し、基礎教養・総合課題科目運営委員会で審査の上、採択されたテーマに基づき開講する科目です。社会の急激な変化に適応することや、ぜひ学んでほしい内容をタイムリーに提供し、新しいものの見方、取り組み方を修得してもらうことを目的としています。

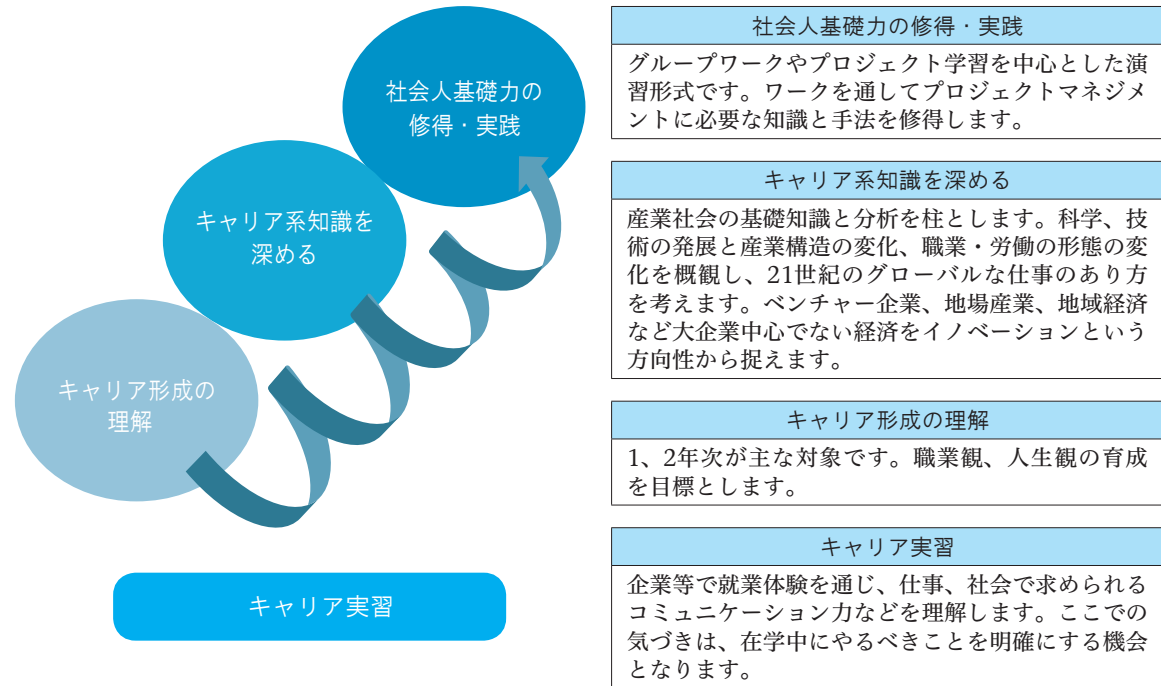
3学部横断型セミナー「新たな学びの世界への招待」

全学部の1、2年次生を対象とする演習科目で、学部・学科を超えた3名の教員が担当します。異なる学部、学科の人とチームを作って共通の課題に取り組み、実践的な作業を経験します。必要な知識にたどり着くための方法や、どんな問いを立てると効果的なのか、問題意識の持ち方などを体得できます。プロジェクトワークでは、一人ひとりが自分の役割を見つけることが求められます。人にわかりやすく説明する表現力、自己管理能力も身につきます。

キャリアに関する学び

仕事と社会を学ぶ

「キャリア形成の理解」「キャリア系知識を深める」「社会人基礎力の修得・実践」の3段階で進め、社会で求められる力を実践的な学びを通じて理解し、修得できるようにします。



本学のキャリア教育は、いわゆる正課科目（単位が付与される授業科目）のほか、正課外での充実した講座、サポートプログラムから構成されています。これを包括的に「キャリアに関する学び」と捉え、授業科目と就職課が主催する就職支援講座、セミナー、ガイダンス、内定者報告会、実践講座などを組み合わせ、大学のリソースを最大限に活用してください。

キャリアに関する学び	正課	総合課題科目 社会と仕事を学ぶ	キャリア形成の理解 キャリア系知識を深める 社会人基礎力の修得・実践 キャリア実習（短期・長期インターンシップ）
		学部・学科専門科目	実習、演習科目などのほか 産業構造、労働環境を扱う講義科目等
	正課外	就職講座 キャリア形成サポートプログラム 就職支援	低学年対象キャリア講座 就職ガイダンス 内定者報告会 実践講座

1年次

2年次

3年次

4年次

履修方法

学生の主体的、自発的な履修を期待して、基礎教養・総合課題科目の必修科目は少なくしています。学部、学科に関わらず、自由に選択して履修し、修得した単位を卒業に必要な単位として算入できます。

基礎教養・総合課題科目は低学年次のみを対象としたものではありません。専門科目での学びが深化するにつれて、その必要性を強く感じられることになる理論、科学的手法や思考方法の修得にも役立つよう設計されています。

キリスト教科目

1. 指定クラス

キリスト教科目は、全学部生の必修科目です。

授業科目名	単位数	履修年次	履修上の注意
キリスト教Ⅰ	2単位必修	1年次前期 指定クラス	①重複履修はできません。 ②原則としてクラス変更はできません。(p.20参照)
キリスト教Ⅱ	2単位必修 (1科目以上選択)	1～4年次	異なる講義題目のものを複数履修し、Ⅰ～Ⅲを合わせて8単位まで卒業に必要な単位にできます。
キリスト教Ⅲ			

2. 編入学者

2・3年次編入学者は、「キリスト教Ⅰ」「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」から4単位を必修とします。3年次編入学者のみ「キリスト教Ⅰ」「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」に代えて、本学が指定する「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。

本学編入学以前に他大学等で修得した「キリスト教」関連科目は、必修相当としての単位認定の対象外です。(p.152参照)

2014年度開講「キリスト教」関連科目

▲は他学部・他学科開放科目

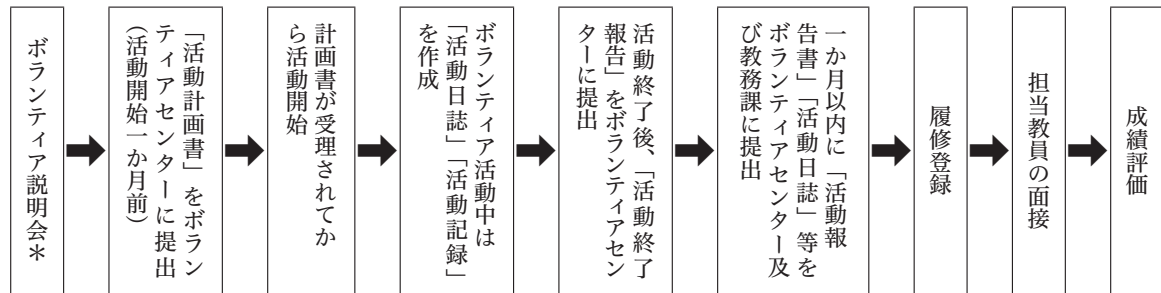
種別	開放	科目名	単位		履修年次	開講校舎
			前	後		
英語英米文学科/ 英文学科専門科目	▲	キリスト教と英米文学1		2	234	緑園
	▲	キリスト教と文学	2		1234	緑園
日本語日本文学科/ 日本文学科専門科目	▲	キリスト教と文学	2		1234	緑園
	▲	キリスト教と日本文学		2	1234	緑園
コミュニケーション学科専門科目	▲	キリスト教と文学	2		1234	緑園
国際交流学科専門科目	▲	世界の宗教		2	1234	緑園
音楽芸術学科専門科目 演奏学科専門科目	▲	キリスト教音楽概論2		2	234	山手
音楽芸術学科専門科目	▲	賛美歌学	2		12	緑園

特別な手続きが必要な科目

1. ボランティア活動

「ボランティア活動1」「ボランティア活動2」「ボランティア活動3」

学外でのボランティア活動の実働時間に応じて単位が認定される科目です。それぞれ45時間以上、90時間以上、270時間以上が各科目の基準です。これらの3科目は、複数または重複して履修し、卒業に必要な単位にできます。履修希望者は、シラバスを参照の上、ボランティアセンターが開催するボランティア説明会に出席した上で、履修の手続きを行ってください。履修の流れは、原則として下図のとおりです。



*年4回（4・5・7・10月）開催。いずれかに出席してください。

注）卒業年次生が卒業学期に履修登録を行うことができるのは、各科目の基準の活動時間を超えている場合に限ります。

2. キャリア実習

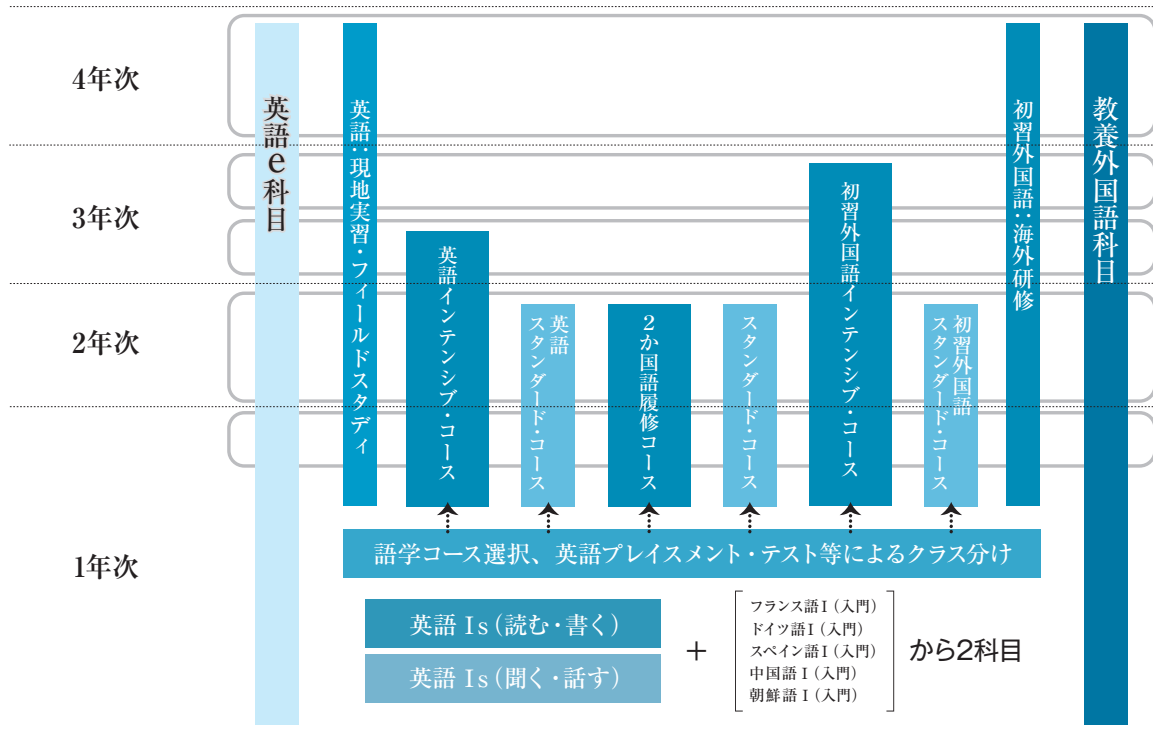
「キャリア実習（短期インターンシップ）」「キャリア実習（長期インターンシップ）」の履修には、説明会への出席が必要です。履修希望者は、就職課主催の説明会（春：10月、夏：5月）に参加し、募集要項にしたがって申し込み手続きをしてください。

3. 音楽実技

音楽学部を有する総合大学であるフェリスのメリットを活かし、他学部の学生にも実技レッスンを通常の時間割のなかで経験できる科目です。レッスンは原則としてグループ形式で行われ、特別な音楽経験がなくても履修可能です。声楽、ピアノ、オルガン、室内合唱の4分野から選択できます。

希望者は、前期、後期初めの指定された期間に申込みを行ってください。

英語科目・初習外国語科目カリキュラムマップ



語 学 科 目

カリキュラムの説明

学科ごとの詳しい説明は「語学科目ハンドブック」に掲載しているので、必ず確認してください。

履修方法

1. 語学科目群

本学で開講する語学科目群は、次のように構成されています。

- 英語
- 初習外国語：フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語
- 教養外国語：古典ギリシア語、ラテン語、イタリア語
- 日 本 語：「日本語Ⅰ・Ⅱ」

2. 語学科目の種類

(1) 英語

- ① インテンシブ科目（i科目）
英語インテンシブ・コースの学生のみが履修できる科目です。履修するクラスについては、英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。
- ② スタンダード科目（s科目）
英語科目を必修として履修する学生のための科目です。履修するクラスについては、入学時に実施するアンケート及び英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。
- ③ 英語選択科目（e科目）
全学生が自由に履修できる科目で、全ての科目が初回授業時選抜科目です。選抜は、事前に発表する優先順位に従って行われます。
英文学科の2か国語履修コースの学生は、e科目を4単位修得する必要があります。

(2) 初習外国語

- ① 「Ⅰ（入門）」科目
前期にのみ開講する入門科目です。各言語の特徴、文化的背景、発音・文法の基礎、会話の初歩などを学びます。
- ② インテンシブ科目（i科目）
主に初習外国語インテンシブ・コースの学生が履修できる科目です。
文法、読む、話す、書く、LLの中から、1年次後期、2年次前期は週6回、2年次後期は週4回、3年次前期・後期は週1回以上の授業を履修します。
- ③ スタンダード科目（s科目）
文法、読む、話す、LLの中から、1年次後期、2年次前期・後期に週2回の授業を履修します。
- ④ 演奏学科（声楽選択者）優先のドイツ語科目
「ドイツ語Ⅰ（文法）」「ドイツ語Ⅰ（読む）」「ドイツ語Ⅱ s（文法）」「ドイツ語Ⅱ s（読む）」を前期・後期通して履修します。

(3) 教養外国語

全学生が自由に履修できる科目です。

ただし、イタリア語には音楽学部演奏学科を対象としているものがあります。(開講科目表参照)

(4) 日本語

全学生が自由に履修できる科目です。

3. 語学履修コース・言語の選択

所属する学部・学科により、卒業に必要な語学の単位数と選択できる語学履修コース・言語の種類が異なります (pp.63~76「各学部・学科の語学科目履修方法」参照)。外国人留学生の語学科目履修方法については p.140~144を参照してください。

履修コースや言語の種類を選択する際には、「語学科目ハンドブック」を熟読してください。語学責任者、所属学科の教務委員 (p.166参照) に相談することもできます。

【2014年度入学者の「語学履修コース・言語選択届」提出期間】

各学生の履修コース・言語は、「語学履修コース・言語選択届」に基づき決定されます。

「語学履修コース・言語選択届」提出以降、コース開始前の履修コース・言語の変更は原則として認められません。

対象者	期 間	提出先
1年次全員	2014年6月4日 (水) ~6月6日 (金)	言語センター

4. 履修許可について

英語インテンシブ・コース、初習外国語インテンシブ・コースについては、希望者が定員を超えた場合は選抜を行い、履修許可者を決定します。

(1) 英語インテンシブ・コース

希望者が多い場合は、英語プレイACEMENT・テストの結果に基づいて選抜し、履修許可者 (定員：文学部・音楽学部116名、国際交流学部64名) を決定します。

(2) 初習外国語インテンシブ・コース

当該言語の「I (入門)」を履修していることが前提となります。

希望者が多い場合は、次の基準で選抜し、履修許可者を決定します。

- ① 各言語の初習外国語インテンシブ・コースの希望者が、第1希望の段階で25名を超えた場合に選抜が行われる。
- ② 遅延者及び未提出者等手続に不備のあった者については、選抜から外れる。
- ③ 当該言語の「I (入門)」の履修状況により、優先順位が低くなることもある。
- ④ 第1希望の段階で選抜のあった言語のインテンシブ・コースに、第2・第3希望の者が許可されることはない。
また、第2希望の段階で選抜のあった言語のインテンシブ・コースに、第3希望の者が許可されることはない。
- ⑤ 「I (入門)」の成績評価により、初習外国語インテンシブ・コースの履修許可を取り消されることがある。

5. 語学科目のクラス指定について

英語科目と初習外国語科目では、クラス指定の方法が異なります。

学期ごとに自分の指定クラスを掲示、学生要覧等でよく確認してください。

また、指定されたクラス以外で履修することは、原則として認められません。やむを得ない理由によりクラス変更を希望する場合には、手続が必要です (p.20「クラス指定及び変更手続」参照)。

(1) 英語科目

英語科目（必須相当）のクラスは、語学履修コースにかかわらず入学時に実施するアンケート及び英語プレイスメント・テストの結果に基づいて指定されます。指定されたクラスの英語科目は、自動で履修登録されます。

① 英語インテンシブ科目（i 科目）

【文学部・音楽学部・国際交流学部】（A～J クラス）

1年次7月に1年次後期分、1年次3月に2年次前期・後期分、2年次3月に3年次前期分の指定クラスが発表されます。

② 英語スタンダード科目（s 科目）

1年次4月に1年次前期分、7月に1年次後期分、1年次3月に2年次前期・後期分の指定クラスが発表されます。

(2) 初習外国語科目

① 初習外国語インテンシブ科目

初習外国語インテンシブ科目の中から、各自卒業に必要な単位を満たすよう履修してください。

各言語で開講されているインテンシブ科目のうち、「Ⅱ i (LL)」「Ⅲ i (話す)」「Ⅲ i (LL)」「Ⅳ i (話す)」科目でクラスが複数設けられている場合には、語学責任者（p.166）から指定されたクラスを履修してください。

初習外国語インテンシブ科目は、すべて各自で履修登録をする必要があります。

② 初習外国語スタンダード科目のクラス指定

各学期始めに、所属する学部・学科・語学履修コースによってクラスが指定されます。指定されたクラスの科目は、各自で履修登録をしてください。

6. 初習外国語「Ⅰ（入門）」の履修方法について

開講科目表を確認の上、所属する学部・学科の指定クラスの中から履修するクラスを選択し、初回の授業に必ず出席してください。履修希望者が多い場合は、授業内で選抜を行うことがあります。

7. 英語プレイスメント・テストの実施について

英語プレイスメント・テストは、英語インテンシブ科目・英語スタンダード科目の習熟度別クラス編成及び理解度・達成度を確認するために実施されます。

英語インテンシブ科目履修者は、1年次6月、1月及び2年次1月の計3回、英語スタンダード科目履修者は1年次6月に、英語プレイスメント・テストを受験しなければなりません。

受験対象者は、掲示で発表される詳細を確認の上、必ず受験してください。

【英語プレイスメント・テスト実施日程】

	日 程
第1回	2014年6月13日（金）
第2回	2015年1月29日（木）

8. 語学科目の再履修について

語学科目の再履修は、次の原則に従うこととします。

(1) 英語科目

未修得科目	再履修可能科目	備 考
英語インテンシブ科目（i）	英語スタンダード科目（s）、 英語 e 科目	英語インテンシブ科目（i）による再履修は不可。
英語スタンダード科目（s）	英語スタンダード科目（s）、 英語 e 科目	

学期初めの掲示を確認し、指定された期間に再履修クラスの申し込みをしてください。時間割の制

約等、やむを得ない理由により他のクラスで再履修する場合には、履修相談時に申し出てください。(履修相談時には、必ず FerrisPassport の成績照会画面をプリントしたものを持参すること。)

なお、英語 e 科目で再履修する場合は履修相談は不要です。各自シラバスをよく確認した上で履修登録してください。

(2) 初習外国語科目

学期初めの掲示を確認し、所属する学部・学科の指定クラスで再履修してください。時間割の制約等、やむを得ない理由により他のクラスで再履修する場合には、履修相談時に申し出てください。(履修相談時には、必ず FerrisPassport の成績照会画面をプリントしたものを持参すること。)

なお、初習外国語インテンシブ・コースについては、コース修了者として認定される科目が別表(p.62)のとおり定められています。コース修了をめざしている場合は、未修得科目と同じ科目を再履修してください。

① 未修得の科目と同種類の科目を再履修すること。

未修得科目	再履修科目
初習外国語インテンシブ科目 (i)	初習外国語インテンシブ科目 (i) 又は初習外国語スタンダード科目 (s)
初習外国語スタンダード科目 (s)	初習外国語スタンダード科目 (s)

② 未修得の科目と同じローマ数字の付された科目を再履修すること。なお、初習外国語科目に付されているローマ数字は、次のとおり対応しています。

【ローマ数字対応表】

未修得科目	再履修科目	備 考
I	I、II	Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ科目 による再履修も可。
II	I、II	
III	Ⅲ、Ⅳ	Ⅴ、Ⅵ科目 による再履修も可。
IV	Ⅲ、Ⅳ	
V	Ⅴ、Ⅵ	
VI	Ⅴ、Ⅵ	

9. 語学履修コース・言語の変更について

語学履修コース・言語の変更を希望する場合には、「語学履修コース・言語変更願」の提出により、変更が認められます。年次により提出時期が異なります。下記の表を参照してください。

(1) 英語インテンシブ・コースに関わる変更

① 他コースから英語インテンシブ・コースへの変更

定員に欠員が生じた場合のみ、英語プレイスメント・テストの結果に基づき、審査の上、可否を決定することとします。欠員の有無については、英語の語学責任者 (p.166) に問い合わせてください。

② 英語インテンシブ・コースから他コースへの変更

英語インテンシブ・コースから他コースへ変更を希望する場合は、「語学履修コース・言語変更願」を提出する前に、必ず当該言語の語学責任者 (p.166) と十分相談してください。

③ 英語インテンシブ・コースから英語スタンダード・コースへの変更

次ページの表の日程のほかに、次の履修相談日にも、英語インテンシブ・コースから英語スタンダード・コースへの変更の相談を受け付けます。

【相談受付期間】 前期：4月8日 (火)

後期：9月17日 (水)

*時間は FerrisPassport の掲示で確認してください。

(2) 初習外国語インテンシブ・コースに関わる変更

初習外国語インテンシブ・コースに関わる変更を希望する場合は、「語学履修コース・言語変更願」を提出する前に、必ず当該言語の語学責任者（p.166）と十分相談してください。

【「語学履修コース・言語変更願」提出期間】

期 間	年 次	変更適用時期	提出先
2014年4月21日（月）～4月25日（金）	4年次生	2014年度前期から	教務課
2014年7月7日（月）～7月11日（金）	2・3年次生	2014年度後期から	
2014年10月6日（月）～10月10日（金）	4年次生	2014年度後期から	
2015年1月5日（月）～1月9日（金）	1・2・3年次生	2015年度前期から	

10. 英語インテンシブ・コースの継続履修条件について

英語インテンシブ・コース履修者に対しては、2年次後期までの計3回（1年次6月・1月及び2年次1月）英語プレイズメント・テストを受験することを継続履修の条件としています。英語インテンシブ・コース履修者のうち、テストを受験しなかった者に対しては、原則として次学期以降の英語インテンシブ科目の履修を認めません。

11. インテンシブ・コース修了者の成績通知書及び成績証明書について

英語インテンシブ・コース及び初習外国語インテンシブ・コース履修者のうち、「必修相当として定められた語学科目すべてを本学で履修し、単位を修得した者」について、成績通知書及び成績証明書に「インテンシブ・コース修了者」である旨記載しています。

なお、英語インテンシブ・コース履修者については、「必修相当として定められた語学科目すべてを本学で履修し、単位を修得した者」であり、かつ「2年次後期までの計3回（1年次6月・1月及び2年次1月）英語プレイズメント・テストを受験した者」を対象とします。

また、2年次編入学者についても、上記と同じ条件を満たした場合には、「インテンシブ・コース修了者」として記載されます。

記載される内容・条件は次のとおりです。

(1) インテンシブ・コースの成績証明書

	英語インテンシブ・コース修了者	初習外国語インテンシブ・コース修了者
認定の条件	①必修相当として定められた語学科目すべてを本学で履修し、単位を修得すること。 ②2年次後期まで毎回英語プレイズメント・テストを受験すること。	必修相当として定められた語学科目すべてを本学で履修し、単位を修得すること。
修得すべき科目	別表（p.61）のとおり	別表（p.62）のとおり
記載される内容（例）	英語インテンシブ・コース修了	初習外国語インテンシブ・コース修了（〇〇語）
修了判定の時期	3年次前期までの修得状況に基づき、判定される。 3年次後期（9月）に交付される成績通知書から記載される。	3年次後期までの修得状況に基づき、判定される。 4年次前期（4月）に交付される成績通知書から記載される。

インテンシブ・コース修了者として認定されるために、必修相当として修得すべき科目は、次のとおりです。

英語インテンシブ・コース修了者として認定されるために必要な科目

文学部・国際交流学部		音楽学部	
授業科目名	履修方法	授業科目名	履修方法
初習外国語「〇〇語Ⅰ（入門）」 初習外国語「△△語Ⅰ（入門）」 初習外国語「〇〇語Ⅱs（文法）」 初習外国語「〇〇語Ⅱs（読む）」 初習外国語「〇〇語Ⅱs（LL）」	この中から 2単位修得	初習外国語「〇〇語Ⅰ（入門）」 初習外国語「△△語Ⅰ（入門）」 初習外国語「〇〇語Ⅱs（文法）」 初習外国語「〇〇語Ⅱs（読む）」 初習外国語「〇〇語Ⅱs（LL）」	この中から 2単位修得
英語Ⅰs（読む・書く） 英語Ⅰs（聞く・話す）	すべて修得	英語Ⅰs（読む・書く） 英語Ⅰs（聞く・話す）	すべて修得
英語Ⅱi（Reading） 英語Ⅱi（Writing） 英語Ⅱi（Listening） 英語Ⅱi（Speaking） 英語Ⅱi（Language Development） 英語Ⅱi（講読）	すべて修得	英語Ⅱi（Reading） 英語Ⅱi（Writing） 英語Ⅱi（Listening） 英語Ⅱi（Speaking） 英語Ⅱi（Language Development） 英語Ⅱi（講読）	すべて修得
英語Ⅲi（Reading） 英語Ⅲi（Writing） 英語Ⅲi（Listening） 英語Ⅲi（Speaking） 英語Ⅲi（Language Development）	すべて修得	英語Ⅲi（Reading） 英語Ⅲi（Writing） 英語Ⅲi（Listening） 英語Ⅲi（Speaking） 英語Ⅲi（Language Development）	すべて修得
英語Ⅳi（Reading） 英語Ⅳi（Writing） 英語Ⅳi（Listening） 英語Ⅳi（Speaking） 英語Ⅳi（講読）	すべて修得	英語Ⅳi（Reading） 英語Ⅳi（Writing） 英語Ⅳi（Listening） 英語Ⅳi（Speaking） 英語Ⅳi（講読）	すべて修得
英語Ⅴi（Reading） 英語Ⅴi（Speaking）	すべて修得	英語Ⅴi（Reading） 英語Ⅴi（Speaking） ※Ⅴi科目にかえて 英語e科目を2単位履修で充当可	すべて修得

※外国人留学生は、上記科目のうち初習外国語科目2単位分を「留学生日本語」によって満たすことができます。

初習外国語インテンシブ・コース修了者として認定されるために必要な科目

例：フランス語インテンシブ・コースの場合

文学部日本文学科・コミュニケーション学科・ 音楽学部・国際交流学部	
授業科目名	履修方法
英語 I s (読む・書く) 英語 I s (聞く・話す)	すべて修得
フランス語 I (入門) ドイツ語 I (入門) スペイン語 I (入門) 中国語 I (入門) 朝鮮語 I (入門)	この中から2単位修得
フランス語 II i (文法) フランス語 II i (読む1) フランス語 II i (読む2) フランス語 II i (LL)	すべて修得
フランス語 III i (文法) フランス語 III i (読む) フランス語 III i (話す) フランス語 III i (書く) フランス語 III i (LL)	すべて修得
フランス語 IV i (読む1) フランス語 IV i (読む2) フランス語 IV i (話す) フランス語 IV i (書く) フランス語 IV i (LL)	この中から4単位修得
フランス語 V i (読む) フランス語 V i (話す) フランス語 V i (書く) フランス語 V i (LL)	この中から1単位修得
フランス語 VI i (読む) フランス語 VI i (話す) フランス語 VI i (書く) フランス語 VI i (LL)	この中から1単位修得

※外国人留学生は、上記科目のうち英語科目2単位分を「留学生日本語」によって満たすことができます。

各学部・学科の語学科目履修方法

外国人留学生の語学科目履修方法については、p.140～p.144を参照してください。

文学部英語英米文学科／英文学科

(1) 英語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	6	5	5	2				20	32
初習外国語	2								2	

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】
	英語 I s (読む・書く) [1]	英語 II i (Reading) [1]	英語 III i (Reading) [1]	英語 IV i (Reading) [1]
	英語 I s (聞く・話す) [1]	英語 II i (Writing) [1]	英語 III i (Writing) [1]	英語 IV i (Writing) [1]
		英語 II i (Listening) [1]	英語 III i (Listening) [1]	英語 IV i (Listening) [1]
		英語 II i (Speaking) [1]	英語 III i (Speaking) [1]	英語 IV i (Speaking) [1]
		英語 II i (Language Development) [1]	英語 III i (Language Development) [1]	英語 IV i (講読) [1]
		英語 II i (講読) [1]		
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】			
	○語 I (入門) [1]			
	△語 I (入門) [1]			

言語	3年次前期
英語	【英語インテンシブ科目】
	英語 V i (Reading) [1]
	英語 V i (Speaking) [1]
初習外国語	

卒業に必要な単位数

英語科目により 20単位
初習外国語の I, II が付された科目により 2単位

(2) 2か国語履修コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数	卒業要件に算入で きる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	2	2	2					12	20
英語 e 科目	※4									
初習外国語	2	2	2	2					8	

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 II s (読む・書く) [1] 英語 II s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 III s (読む・書く) [1] 英語 III s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 IV s (読む・書く) [1] 英語 IV s (聞く・話す) [1]
	【初習外国語 I (入門) 科目】 〇〇語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語 II s (文法) } この中から 〇〇語 II s (読む) } 2単位を修得 〇〇語 II s (LL) }	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語 III s (文法) } この中から 〇〇語 III s (読む) } 2単位を修得 〇〇語 III s (話す) } 〇〇語 III s (LL) }	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語 IV s (読む) * } この中から 〇〇語 IV s (話す) } 2単位を修得 〇〇語 IV s (LL) }

※英語 e 科目を1年次前期から3年次前期までの間に、4単位追加選択履修が必要。

* : 同一科目の重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により	12単位
初習外国語の I, II が付された科目により	4単位
初習外国語の III, IV が付された科目により	4単位

(1) 英語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	6	5	5	2				20	32
初習外国語	2								2	

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】
	英語 I s (読む・書く) [1]	英語 II i (Reading) [1]	英語 III i (Reading) [1]	英語 IV i (Reading) [1]
	英語 I s (聞く・話す) [1]	英語 II i (Writing) [1]	英語 III i (Writing) [1]	英語 IV i (Writing) [1]
		英語 II i (Listening) [1]	英語 III i (Listening) [1]	英語 IV i (Listening) [1]
		英語 II i (Speaking) [1]	英語 III i (Speaking) [1]	英語 IV i (Speaking) [1]
		英語 II i (Language Development) [1]	英語 III i (Language Development) [1]	英語 IV i (講読) [1]
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 〇〇語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]			

言語	3年次前期
英語	【英語インテンシブ科目】
	英語 V i (Reading) [1]
	英語 V i (Speaking) [1]
初習外国語	

卒業に必要な単位数

英語科目により	20単位
初習外国語の I, II が付された科目により	2単位

(2) 初習外国語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語	2								2	22	32
初習外国語	2	6	6	4	1	1			20		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語I s (読む・書く) [1] 英語I s (聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 〇〇語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 〇〇語 II i (文法) [3] 〇〇語 II i (読む1) [1] 〇〇語 II i (読む2) [1] 〇〇語 II i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 〇〇語 III i (文法) [2] 〇〇語 III i (読む) [1] 〇〇語 III i (話す) [1] 〇〇語 III i (書く) [1] 〇〇語 III i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 〇〇語 IV i (読む1)) 〇〇語 IV i (読む2)) 〇〇語 IV i (話す)) 〇〇語 IV i (書く)) 〇〇語 IV i (LL)) この中から 4単位以上 を修得

言語	3年次前期	3年次後期
英語		
初習外国語	【初習外国語インテンシブ科目】 〇〇語 V i (読む)) 〇〇語 V i (話す)) 〇〇語 V i (書く)) 〇〇語 V i (LL)) この中から 1単位以上 を修得	【初習外国語インテンシブ科目】 〇〇語 VI i (読む)) 〇〇語 VI i (話す)) 〇〇語 VI i (書く)) 〇〇語 VI i (LL)) この中から 1単位以上 を修得

卒業に必要な単位数

英語科目により	2単位
初習外国語の I, II が付された科目により	8単位
初習外国語の III, IV が付された科目により	10単位
初習外国語の V, VI が付された科目により	2単位

(3) 英語スタンダード・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語	2	2	2	2					8	10	32
初習外国語	2								2		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語I s (読む・書く) [1] 英語I s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語II s (読む・書く) [1] 英語II s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語III s (読む・書く) [1] 英語III s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語IV s (読む・書く) [1] 英語IV s (聞く・話す) [1]
初習外国語	【初習外国語I (入門) 科目】 〇〇語I (入門) [1] △△語I (入門) [1]			

卒業に必要な単位数

英語科目により 8単位

初習外国語のI, IIが付された科目により 2単位

(4) 初習外国語スタンダード・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語	2								2	10	32
初習外国語	2	2	2	2					8		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語I s (読む・書く) [1] 英語I s (聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語I (入門) 科目】 〇〇語I (入門) [1] △△語I (入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語II s (文法) } この中から 〇〇語II s (読む) } 2単位以上を 〇〇語II s (LL) } 修得	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語III s (文法) } この中から 〇〇語III s (読む) } 2単位を修得 〇〇語III s (話す) 〇〇語III s (LL)	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語IV s (読む) * } この中から 〇〇語IV s (話す) } 2単位を修得 〇〇語IV s (LL)

* : 同一科目の重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により 2単位

初習外国語のI, IIが付された科目により 4単位

初習外国語のIII, IVが付された科目により 4単位

(5) 2か国語履修コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		コース必修 単位数	卒業要件に算入で きる単位数の上限	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英 語	2	2	2	2					8	16 (*)	32
初習外国語	2	2	2	2					8		

*：卒業に必要な単位数10を含む

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英 語	【英語スタンダード科目】 英語I s (読む・書く) [1] 英語I s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語II s (読む・書く) [1] 英語II s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語III s (読む・書く) [1] 英語III s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語IV s (読む・書く) [1] 英語IV s (聞く・話す) [1]
	【初習外国語I (入門) 科目】 〇〇語I (入門) [1] △△語I (入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語II s (文法) } この中から 〇〇語II s (読む) } 2単位を修得 〇〇語II s (LL) }	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語III s (文法) } この中から 〇〇語III s (読む) } 2単位を修得 〇〇語III s (話す) } 〇〇語III s (LL) }	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語IV s (読む) * } この中から 〇〇語IV s (話す) } 2単位を修得 〇〇語IV s (LL) }

*：同一科目の重複履修可能

卒業に必要な単位数

(3) 英語スタンダード・コース (p.67) 又は (4) 初習外国語スタンダード・コース (p.67) のいずれかの履修方法により修得すること。

すなわち	英語科目により	8単位
	初習外国語のI, IIが付された科目により	2単位
又は、	英語科目により	2単位
	初習外国語のI, IIが付された科目により	4単位
	初習外国語のIII, IVが付された科目により	4単位

国際交流学部の語学科目履修方法

(1) 英語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	6	5	5	2				20	32
初習外国語	2								2	

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】
	英語 I s (読む・書く) [1]	英語 II i (Reading) [1]	英語 III i (Reading) [1]	英語 IV i (Reading) [1]
	英語 I s (聞く・話す) [1]	英語 II i (Writing) [1]	英語 III i (Writing) [1]	英語 IV i (Writing) [1]
		英語 II i (Listening) [1]	英語 III i (Listening) [1]	英語 IV i (Listening) [1]
		英語 II i (Speaking) [1]	英語 III i (Speaking) [1]	英語 IV i (Speaking) [1]
		英語 II i (Language Development) [1]	英語 III i (Language Development) [1]	英語 IV i (講読) [1]
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】			
	○語 I (入門) [1]			
	△語 I (入門) [1]			

言語	3年次前期
英語	【英語インテンシブ科目】
	英語 V i (Reading) [1]
	英語 V i (Speaking) [1]
初習外国語	

卒業に必要な単位数

英語科目により	20単位
初習外国語の I, II が付された科目により	2単位

(2) 初習外国語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数		卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語	2								2	22	32
初習外国語	2	6	6	4	1	1			20		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語I s (読む・書く) [1] 英語I s (聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 ○○語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 II i (文法) [3] ○○語 II i (読む1) [1] ○○語 II i (読む2) [1] ○○語 II i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 III i (文法) [2] ○○語 III i (読む) [1] ○○語 III i (話す) [1] ○○語 III i (書く) [1] ○○語 III i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 IV i (読む1)) ○○語 IV i (読む2)) この中から ○○語 IV i (話す)) 4単位以上 ○○語 IV i (書く)) を修得 ○○語 IV i (LL))

言語	3年次前期	3年次後期
英語		
初習外国語	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 V i (読む)) ○○語 V i (話す)) この中から ○○語 V i (書く)) 1単位以上 ○○語 V i (LL)) を修得	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 VI i (読む)) ○○語 VI i (話す)) この中から ○○語 VI i (書く)) 1単位以上 ○○語 VI i (LL)) を修得

卒業に必要な単位数

英語科目により	2単位
初習外国語の I, II が付された科目により	8単位
初習外国語の III, IV が付された科目により	10単位
初習外国語の V, VI が付された科目により	2単位

(3) 英語スタンダード・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語	2	2	2	2					8	10	32
初習外国語	2								2		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語I s (読む・書く) [1] 英語I s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語II s (読む・書く) [1] 英語II s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語III s (読む・書く) [1] 英語III s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語IV s (読む・書く) [1] 英語IV s (聞く・話す) [1]
初習外国語	【初習外国語I (入門) 科目】 〇〇語I (入門) [1] △△語I (入門) [1]			

卒業に必要な単位数

英語科目により 8単位

初習外国語のI, IIが付された科目により 2単位

(4) 初習外国語スタンダード・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語	2								2	10	32
初習外国語	2	2	2	2					8		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語I s (読む・書く) [1] 英語I s (聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語I (入門) 科目】 〇〇語I (入門) [1] △△語I (入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語II s (文法) } この中から 〇〇語II s (読む) } 2単位を修得 〇〇語II s (LL) }	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語III s (文法) } この中から 〇〇語III s (読む) } 2単位を修得 〇〇語III s (話す) } 〇〇語III s (LL) }	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語IV s (読む) * } この中から 〇〇語IV s (話す) } 2単位を修得 〇〇語IV s (LL) }

* : 同一科目の重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により 2単位

初習外国語のI, IIが付された科目により 4単位

初習外国語のIII, IVが付された科目により 4単位

(5) 2か国語履修コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語	2	2	2	2					8	16	32
初習外国語	2	2	2	2					8		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語※	【英語スタンダード科目】 英語I s (読む・書く) [1] 英語I s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語II s (読む・書く) [1] 英語II s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語III s (読む・書く) [1] 英語III s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語IV s (読む・書く) [1] 英語IV s (聞く・話す) [1]
	【初習外国語I (入門) 科目】 〇〇語I (入門) [1] △△語I (入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語II s (文法) } この中から 〇〇語II s (読む) } 2単位を修得 〇〇語II s (LL) }	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語III s (文法) } この中から 〇〇語III s (読む) } 2単位を修得 〇〇語III s (話す) } 〇〇語III s (LL) }	【初習外国語スタンダード科目】 〇〇語IV s (読む)* } この中から 〇〇語IV s (話す) } 2単位を修得 〇〇語IV s (LL) }

* : 同一科目の重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により	8単位
初習外国語のI, IIが付された科目により	4単位
初習外国語のIII, IVが付された科目により	4単位

音楽学部の語学科目履修方法

【卒業に必要な単位数】

次の(1)・(2)・(3)いずれのコースも、すべての語学科目の中から選択した科目により8単位を修得すること。

(1) スタンダード・コース

代表的な履修パターンは、次のとおりです。

教養外国語科目、「日本語Ⅰ・Ⅱ」を選択して履修することも可能です。

① 英語のみで履修する場合

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	2	2	2					8	32

言語	1年次前期		1年次後期		2年次前期		2年次後期	
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs(読む・書く) [1] 英語Ⅰs(聞く・話す) [1]		【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs(読む・書く) [1] 英語Ⅱs(聞く・話す) [1]		【英語スタンダード科目】 英語Ⅲs(読む・書く) [1] 英語Ⅲs(聞く・話す) [1]		【英語スタンダード科目】 英語Ⅳs(読む・書く) [1] 英語Ⅳs(聞く・話す) [1]	

② 初習外国語のみで履修する場合

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
初習外国語	2	2	2	2					8	32

言語	1年次前期		1年次後期		2年次前期		2年次後期	
初習外国語	【初習外国語Ⅰ(入門)科目】 ○○語Ⅰ(入門) [1] △△語Ⅰ(入門) [1]		【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅱs(文法) } この中から ○○語Ⅱs(読む) } 2単位を修得 ○○語Ⅱs(LL) }		【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅲs(文法) } この中から ○○語Ⅲs(読む) } 2単位を修得 ○○語Ⅲs(話す) } ○○語Ⅲs(LL) }		【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅳs(読む)* } この中から ○○語Ⅳs(話す) } 2単位を修得 ○○語Ⅳs(LL) }	

*：同一科目の重複履修可能

③ 英語と初習外国語を履修する場合

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	2							8	32
初習外国語	2	2								

言語	1年次前期		1年次後期		2年次前期		2年次後期	
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs(読む・書く) [1] 英語Ⅰs(聞く・話す) [1]		【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs(読む・書く) [1] 英語Ⅱs(聞く・話す) [1]					
初習外国語	【初習外国語Ⅰ(入門)科目】 ○○語Ⅰ(入門) [1] △△語Ⅰ(入門) [1]		【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅱs(文法) } この中から ○○語Ⅱs(読む) } 2単位を修得 ○○語Ⅱs(LL) }					

※ 英語又は初習外国語「Ⅲs」以降を引き続いて履修することもできます。

④ 英語とイタリア語を履修する場合

言語	1年次前期		1年次後期		2年次前期		2年次後期	
英 語	【英語スタンダード科目】		【英語スタンダード科目】					
	英語I s (読む・書く)	[1]	英語II s (読む・書く)	[1]				
	英語I s (聞く・話す)	[1]	英語II s (聞く・話す)	[1]				
イ タ リ ア 語	イタリア語I (文法)	[1]	イタリア語II (文法)	[1]				
	イタリア語I (読む)	[1]	イタリア語II (読む)	[1]				

※「英語III s (読む・書く)」「英語III s (聞く・話す)」「英語IV s (読む・書く)」「英語IV s (聞く・話す)」を引き続き履修することもできます。

⑤ イタリア語とドイツ語を履修する場合（演奏学科声楽選択者対象）

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数	卒業要件に算入 できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
イタリア語	2	2							8	32
ドイツ語			2	2						

言語	1年次前期		1年次後期		2年次前期		2年次後期	
イ タ リ ア 語	イタリア語I (文法)	[1]	イタリア語II (文法)	[1]				
	イタリア語I (読む)	[1]	イタリア語II (読む)	[1]				
ド イ ツ 語					ドイツ語I (文法)	[1]	ドイツ語II s (文法)	[1]
					ドイツ語I (読む)	[1]	ドイツ語II s (読む)	[1]

※ドイツ語を1年次に、イタリア語を2年次に履修することもできます。

(2) 英語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		コース必修 単位数	卒業要件に算入で きる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	6	5	5	2**				20	22 (*)
初習外国語	2								2	

*：卒業に必要な単位数8を含む。

**音楽学部の学生は、上記科目のうちVi科目2単位を、3年次前期までの間に英語e科目を2単位修得することにより満たすことができます。

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】
	英語I s (読む・書く) [1]	英語II i (Reading) [1]	英語III i (Reading) [1]	英語IV i (Reading) [1]
	英語I s (聞く・話す) [1]	英語II i (Writing) [1]	英語III i (Writing) [1]	英語IV i (Writing) [1]
		英語II i (Listening) [1]	英語III i (Listening) [1]	英語IV i (Listening) [1]
		英語II i (Speaking) [1]	英語III i (Speaking) [1]	英語IV i (Speaking) [1]
		英語II i (Language Development) [1]	英語III i (Language Development) [1]	英語IV i (講読) [1]
初習外国語	【初習外国語I (入門) 科目】			
	○○語I (入門) [1] △△語I (入門) [1]			

言語	3年次前期
英語	【英語インテンシブ科目】
	英語V i (Reading) [1] 英語V i (Speaking) [1]
初習外国語	

(3) 初習外国語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		コース必修 単位数		卒業要件に算入で きる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	2	22 (*)	
英語	2								2	22 (*)	32
初習外国語	2	6	6	4	1	1			20		

*：卒業に必要な単位数8を含む。

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語I s (読む・書く) [1] 英語I s (聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語I (入門) 科目】 〇〇語I (入門) [1] △△語I (入門) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 〇〇語II i (文法) [3] 〇〇語II i (読む1) [1] 〇〇語II i (読む2) [1] 〇〇語II i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 〇〇語III i (文法) [2] 〇〇語III i (読む) [1] 〇〇語III i (話す) [1] 〇〇語III i (書く) [1] 〇〇語III i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 〇〇語IV i (読む1) 〇〇語IV i (読む2) 〇〇語IV i (話す) 〇〇語IV i (書く) 〇〇語IV i (LL)

この中から
4単位以上
を修得

言語	3年次前期	3年次後期
英語		
初習外国語	【初習外国語インテンシブ科目】 〇〇語VI i (読む) この中から 〇〇語VI i (話す) 1単位以上 〇〇語VI i (書く) を修得 〇〇語VI i (LL)	【初習外国語インテンシブ科目】 〇〇語VI i (読む) この中から 〇〇語VI i (話す) 1単位以上 〇〇語VI i (書く) を修得 〇〇語VI i (LL)

文学部

英語英米文学科／英文学科

日本語日本文学科／日本文学科

コミュニケーション学科

文学部の人材養成目的

文学の領域に関する高度の教育研究を行い、多様化する社会で他者と共生し、主体的に表現できる豊かな素養を身に付けた人材を養成する。(学則第2条の2)

文学部について

フェリス女学院大学は、メアリー・キダーの私塾の頃から、英語圏の「ことば」と文化についての教育と日本文学の教育に力を入れてきました。これに伝統ある音楽教育を加えれば、フェリスは「表現」や「文化」について追求し、優秀な女性たちを社会に輩出してきたと行うことができると思います。

沿革にもあるように、1950年に短期大学として英文学科を設立、65年には四年制大学を開設し文学部において英文学科と国文学科を擁します。88年には文学部に国際文化学科を開設（のちの国際交流学部国際交流学科）、国文学科は93年から日本文学科と名称変更し、99年には英文・日文の両者にまたがる「コミュニケーション科目」を設置して、2004年にはコミュニケーション学科を開設し、伝統的な文学部の中でも常に時代の先端を切り拓いてきました。

そのような変遷をたどりながら文学部は、2014年度から英文学科と日本文学科の名称を変更し、英語英米文学科、日本語日本文学科、コミュニケーション学科の三学科体制となりました。

文学は、人間の言語による表現行為であるとともに、社会や文化の営為でもあります。想像力を行使し、思考・思想等を表現し、発見をおこなう主体である人間は、社会や文化の影響を受けており、一方で表現＝コミュニケーションすることで社会や文化を変容させていきます。しかもそれが世界レベルで生じ、入り交じっている現在こそ、人間のいとなみである「文学」行為や表現を学び、研究することは、非常に重要なことであり、そこにこそ文学部の存在意義があるとフェリスは考えます。また、人間の不幸や対立、社会の貧困などについても、文学は深い関心を抱き続け、その対象化作業がこれからも必要なことは言うまでもありません。さらに文学は現在、言語による表現のみならず、広く映像表現や音楽表現、身体表現、デザインなどの形をとるとともに、出版物だけでなく放送や通信などの新しいデジタル・メディアを通じて人びとに伝えられてもいます。

このように、私たちの想像力や文化を活性化し、社会を柔軟性に富んだものにするためにも、いまほど大学において文学部が必要とされている時代はありません。

本学の英語英米文学科は、コミュニケーションの手段としての英語運用能力を養うとともに、アメリカ、イギリスなど英語圏の文学やメディア表現、さらに社会・文化のあり方について研究します。

日本語日本文学科は、オーソドックスに、時代区分ごとの分野を網羅し、日本語で書かれた文学や表現、日本の文化を研究するとともに、コミュニケーション手段としての日本語について追究します。

コミュニケーション学科は、共生コミュニケーション、多文化社会、メディアと表現などの切り口から、多様化する現代社会と人間関係を社会科学的・文化的にとらえる力をつけます。

また、三学科共通するものとして、1年次の「R&R（入門ゼミ）」や、最新の文学理論・文化理論を学べる科目群も揃っています。

いずれも、その分野で一流の研究者や実務家である専任教員や非常勤の先生方が、講義をしたり討論をうながしたり、研究のヒント、また人生のヒントを与えてくれたりします。授業は概して少人数で行われ、ワークで進行するもの、教室の外へ出るものも少なくありません。学生のみなさんが、このようにめぐまれた条件の下で学び、社会へ旅立ってくれることを願っています。

文学部専門科目カリキュラム

群	英語英米文学科	日本語日本文学科	コミュニケーション学科
I	基礎を学ぶ	基礎を学ぶ	基礎を学ぶ
	R&R (入門ゼミ) 英米文化基礎ゼミ	R&R (入門ゼミ) 日本言語文化基礎ゼミ	R&R (入門ゼミ) コミュニケーション基礎ゼミ
II	全体像を知る	全体像を知る	全体像を知る
	アメリカ研究入門 イギリス研究入門 英米文学研究入門 英語文化研究入門 英語学研究入門	日本語概論A,B 日本語の歴史A,B 日本古典文学史1 日本古典文学史2 日本古典文学史3 日本古典文学史4	言語コミュニケーション概論 社会コミュニケーション概論 文化コミュニケーション概論 コミュニケーション研究の全体像 研究方法に取り組み 実験の研究計画をたてる アンケート・社会調査の方法 インタビュー・面接のスキル 話しことばを分析する
III	専門と出会う	専門と出会う	専門と出会う
	アメリカを読み解く イギリスを読み解く 英語圏の文化と社会 現代アメリカ論 アメリカの政治と社会A,B アメリカの思想・宗教A,B アメリカの文化A,B アメリカ史 アメリカン・スタディーズ キリスト教と英米文学1 キリスト教と英米文学2 アメリカ小説を読むA,B アメリカ文学史A,B イギリス文学史A,B イギリス小説を読むA,B アメリカ詩の世界A,B イギリス詩の世界A,B アメリカ演劇の世界A,B イギリス演劇の世界A,B 英語学 英語のさまざまな側面A,B 英語のしくみを知るA,B 英語と社会・文化 日英語の発想と表現 英語の発音A,B 英語の歴史A,B 英語学特論 Interactive English 翻訳技法A,B 通訳技法A,B 同時通訳技法A,B 時事英語研究A,B Academic Writing A,B Global Issues A,B Internet English A,B The English-Speaking World A,B Ferris Special English Program Teaching Methodology English for Kids A,B Teaching Japanese Language A,B	日本語日本文学の基礎を学ぶ 基礎論文演習 (文章表現) 書誌学・くずし字の基礎 古典読解の基礎 漢文読解の基礎 日本語日本文学の専門を学ぶ 日本語資料を読む 日本語教育資料を読む 古典文学を読む1 古典文学を読む2 古典文学を読む3 日本語学 日本語文法研究の方法 日本語語彙研究の方法 日本語音声研究の方法 方言研究の方法 日本語学 キリスト教と日本文学 神話の世界 説話の世界 古代和歌の世界 物語の世界 日記の世界 随筆の世界 中世和歌の世界 軍記の世界 俳諧の世界 近世小説の世界 近代小説の世界 現代小説の世界 近現代詩歌の世界 同時代文学の世界 能・狂言の世界 歌舞伎の世界 浄瑠璃の世界 近現代演劇の世界 書道芸術の世界 日中交流言語文化 漢字の世界1 漢字の世界2 漢詩漢文の世界1 日本の言語・文学・文化 言語文化を体感する 言語と文化 方言と社会言語学 コンピュータと言語学 文学と子ども 文学と文学 文学と都市空間 地域文化を読み解く 民俗文化を読み解く 絵巻・絵図を読み解く マンガ・アニメ文化を読み解く 映画・映像を読み解く 日本語教育 日本語教育概論A,B 日本語教育の教材分析A,B 日本語学習のコースデザイン 日本語教育評価法 第二言語習得論 日本語教育のための異文化理解 日本語教授法A,B 日本語教育実習1 日本語教育実習2	コミュニケーション学の基礎を学ぶ 対人コミュニケーションの心理学 社会コミュニケーション概論 英語コミュニケーション概論 歴史言語コミュニケーション概論 日本語文法論とコミュニケーション学 コミュニケーション学探求1 コミュニケーション学探求2 コミュニケーション学探求3 コミュニケーション学探求4 コミュニケーション学探求5 コミュニケーション学探求6 コミュニケーション学探求7 コミュニケーション学探求8 コミュニケーション学探求9 コミュニケーション学探求10 コミュニケーション学探求11 多文化理解 [知と出会う] 多文化・多言語社会を考える クレオール文化の考え方・読み方 ディアスポラ (離散) の思想 異文化のコミュニケーション 文化の心理学 これからの多文化教育 ことばと個人・社会の因果関係を探る 第二言語習得の英語コミュニケーション学 共生コミュニケーション [知と出会う] エスニックマイノリティの問題を考えるA,B 子ども発達とこれからの教育問題 これからの家族問題A,B 健康・医療におけるコミュニケーションの問題 HIV・難病問題と向き合う PTSDと被害者のグリーフワーク ジェンダーと男女共同参画社会 障害者の心理学と共生社会 エイジングの心理学と高齢社会 表現とメディア [知と出会う] メディアリテラシーを身につける 放送文化と制度を考える 新聞・出版ワークショップ マルチメディアの現在と未来 テキスト分析と物語構造分析を学ぶ 日本語コミュニケーション:意味と語彙 日本語敬語コミュニケーション ネットワークによるコミュニケーションの構築 コンピュータによる調査データの解析A,B 文庫・情報にアクセスする 現代文化を読み解く ファッション文化 スポーツ文化 現代人と宗教 映画・映像文化 広告とマーケティング 社会・文化と英語コミュニケーション
IV	専門を極める	専門を極める	専門を極める
V	卒業論文	卒業論文	卒業論文・卒業制作
選	アメリカ現地実習 イギリス現地実習	書道A,B	

英語英米文学科／英文学科

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

英米及び英語圏の言語、文学、文化などを多角的な視点で学び、それらの知的遺産を引き継ぎ、また海外での学びを通して語学力を身に付け、さらに情報を収集、整理、分析できる実務能力を備えた、国際社会に貢献する有為な人材を育成する。

◆ディプロマ・ポリシー

英米及び英語圏の言語、文学、文化などを系統的に修得することにより、国際化の時代にふさわしい教養と語学力を身に付け、異文化を理解しつつ、国際社会に多様なかたちで貢献できる能力をもつ者に「学士（文学）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

英米及び英語圏の言語、文学、文化、思想、歴史などに関する知識を、高度な専門教育と学際的な研究を通して修得させるとともに、海外留学・海外体験を積極的に奨励し、実践的語学力を養い、国際社会に貢献できる知性と主体性を養う。

卒業に必要な単位数

科目区分		単位数	備 考	参照		
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1		
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1		
	語 学	語学履修コースによる： ① 22 ② 20	①英語インテンシブ・コース選択者 ②2か国語履修コース選択者	*2		
専門	選択必修	選択必修Ⅰ	2	合計 32単位	「R&R(入門ゼミ)」、「基礎ゼミ」を各1単位、合計2単位 Ⅱ群から12単位以上 Ⅲ群から14単位以上 専門ゼミA、B、卒論ゼミA、Bを各1単位、合計4単位	*3
		選択必修Ⅱ	12			
		選択必修Ⅲ	14			
		選択必修Ⅳ	4			
	選 択					
卒業論文	6					
そ の 他	語学履修コースによる： ① 60 ② 62			*4		
合 計	124					

*1	「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から2単位、計4単位が必修です。
*2	語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。なお、語学の履修方法は、pp.63～64英語英米文学科／英文学科の「語学科目の履修」をご覧ください。
*3	選択必修Ⅰ群から2単位、選択必修Ⅱ群から12単位以上、選択必修Ⅲ群から14単位以上、選択必修Ⅳ群から4単位、合計32単位以上を修得してください。
*4	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 <ul style="list-style-type: none"> ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2012年度以降入学者</div> <p>1年次～4年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2011年度以前入学者</div> <p>1年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに23単位を限度とします。 同じく2年次は、25単位とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。</p>
	外国人留学生は、前頁の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細は p.140を参照してください。 ①「日本事情 A、B」から4単位 ②「留学生日本語」10単位 ③英語科目12単位（2か国語履修コース）または20単位（英語インテンシブ・コース）

3年次編入学者の卒業に必要な単位数

3年次編入学者は、編入学後2年の間に次の授業科目・単位を含む62単位を修得することが卒業要件となります。

編入学者の卒業に必要な単位数

3年次編入学者		科目区分		単位数	備考	参照
共通	基礎教養 総合課題			4	「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から4単位	
	語学			-	語学科目の修得単位は、32単位まで卒業に必要な単位として認められます。	*1
専門	選択必修	選択必修Ⅰ	-			
		選択必修Ⅱ	-			
		選択必修Ⅲ	-			
		選択必修Ⅳ	4	{ 「英米文化専門ゼミ A」 1単位、「英米文化専門ゼミ B」 1単位 「英米文化卒論ゼミ A」 1単位、「英米文化卒論ゼミ B」 1単位		
	卒業論文			6		
	その他			48	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*1のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）	
	合計			62		

ただし、3年次編入学者は、「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。（p.53「キリスト教科目」参照）

カリキュラムの説明

英語英米文学科では、近年の英語・英米文学研究の対象の広がりを受け、従来の英文学研究の枠組みを超えて幅広い分野について学ぶことができます。具体的には、1. アメリカ、イギリスをはじめとする英語圏の文学、芸術、映画、2. 英語圏のことばと文化、3. アメリカやイギリスの政治、社会、思想、歴史、宗教、4. 翻訳、通訳、英語教育などコミュニケーションの手段としての英語、を学ぶ科目が設置されています。これらの専門科目は、英語そのものの実力を高めるために共通科目に設置されている「英語インテンシブ・コース」などと結びつくことで、より有意義なものとなるでしょう。

1年次に全員が履修するものとして、選択必修Ⅰ**基礎を学ぶ**の「R&R（入門ゼミ）」と「英米文化基礎ゼミ」があります。前期の「R&R（入門ゼミ）」は Research & Report を略したもので、文学部共通に設置された「演習」（ゼミナール）形式の授業です。大学で学ぶうえで必要な心構えや学習方法の基礎を身につけます。具体的には、学術資料の調べ方、レジュメやレポートの書き方、発表や討論のしかたなど基礎的な事柄について学びます。原則として、大学入学後の初めの2年間は、この「R&R」担当の教員が「アカデミック・アドバイザー」（AA）として、みなさんの相談を受け、必要なアドバイスをおこないます。後期の「英米文化基礎ゼミ」においては、「R&R」で学んだことを活かしながら、自分の興味のある分野について深く学びます。

選択必修Ⅱ**全体像を知る**の「研究入門」は、「R&R（入門ゼミ）」、「英米文化基礎ゼミ」などと同じく1年次から履修できる科目群です。それぞれの分野の基本的知識のほか、現在のみなさんの興味がどのように展開されていくのか、見通しが得られるように構成されています。

選択必修Ⅲ**専門と出会う**の「アメリカを読み解く」、「イギリスを読み解く」、「英語の実像を探る」などは2年次対象の「演習」科目であり、全員が必ず履修してください。

選択**英語圏で実体験**の「現地実習」は、休暇期間中に実施される英語圏の大学への短期研修です。ひとつのトピックを中心に現地で学習する「フィールド・スタディ」も開講され、文学ゆかりの地や各国の博物館・美術館などを、トピックに詳しい先生の説明を受けながら巡り、授業で学んだことをじかに体験します。

選択必修Ⅳ**専門を深める**の「英米文化専門ゼミ」では、各担当者の指導を受けながら、興味のある分野についての研究を深めていきます。「R&R（入門ゼミ）」、「英米文化基礎ゼミ」、「研究入門」などで学んだことを基礎に、発表・討論を通じて知識を深化します。それらをさらに発展させたものが「英米文化卒論ゼミ」であり、その成果を「卒業論文」にまとめます。

4年間の履修の指針

大学の4年間では、特定の分野に偏らない履修をすることが望ましく、できるだけ多くのことについて学ぶように努力しましょう。特に1, 2年次の間は、いろいろなことを知るために、幅広い分野の授業を組み合わせた時間割を考えることが大切です。一見関連しないようなテーマが、実は深いところで結びついていることがよくあるからです。ここではイギリスの小説を学ぶことを例に考えてみましょう。

例えば、イギリスのヴィクトリア朝（19世紀）の小説について学ぶうえで、エリザベス朝（16世紀）の演劇や17世紀の詩などについての知識があると理解が深まることがよくあります。なぜなら、文学作品の多くは、時代やジャンルを超えてつながっているからです。また、大西洋をはさんだアメリカ合衆国を意識しながらイギリスの小説を考えることも思わぬ発見につながります。イギリスとアメリカの社会は私たちが考える以上に密につながっており、お互いに強く影響し合っているからです。さらに、小説における会話を読み取るためには言語学の談話分析の知識などが大いに役立ちます。映画化された作品から逆転写させて原作そのものを読み直すこともできますし、小説で描かれる建築物などを詳しく調べることで作品そのものの理解が深まることもよくあります。このように、すべての分野はどこかで必ずつながっており、幅広くいろいろな分野を学ぶことによって意外な発見をすることができるのです。

具体的には、「研究入門」においては、「アメリカ」、「イギリス」、「英語学」の三つの分野を選択する、1年次後期の「英米文化基礎ゼミ」と2年次前期の「専門と出会う」の授業では敢えて異なる分野のものを選ぶなど、自分の視野を広げる努力をしましょう。そのうえで、2年次からは、3年次の「専門ゼミ」で何を

学ぶかを意識しながら履修科目を選び、自分の興味のある領域に少しずつ近づいていくことをお勧めします。そして、3, 4年次においては、「専門ゼミ」、「卒論ゼミ」の分野に関連するテーマを扱う科目を中心に履修してさらに知識を深め、卒業論文の作成に役立てるとよいでしょう。

英語の運用能力

英語英米文学科では、先に述べたような専門知識の多くを英語の文献などを通して得ていきます。そのため、一定以上の英語運用能力をできるだけ早く身につけることが必要です。また、翻訳や通訳などに興味がある場合には、さらに高い英語運用能力を身につけるための努力を続ける必要があります。「英語インテンシブ・コース」などの共通科目に設置された「英語」の授業のほか、英語英米文学科の専門科目に「Academic Writing」や「Ferris Special English Program」など、英語の運用能力を高めるための授業が設置されています。これらの科目では、履修の前提となる英語力があらかじめ指定されていたり、履修者数が限定されていることもあります。シラバスなどで内容を十分に確認した上で、履修の順序なども工夫して時間割を組むことをお勧めします。

その他

選択必修Ⅲには、**文学・文化理論を学ぶ**として、文学部の全学生を対象とした共通科目を用意しています。最新の文学・文化理論を学ぶことはみなさんの研究テーマを考えるのに大いに役立つでしょう。また、自分が興味をもっているテーマの位置づけを知るために、「アメリカ史」、「イギリス史」のような「歴史」の授業のほか、「アメリカ文学史」、「イギリス文学史」、「英米芸術史」、「英語の歴史」などの講義を用意しています。通史的な知識をつけることで、自分の興味がその分野においてどのような意味をもっているのかを理解することも大切です。

履修単位数については特定の学年に偏るのではなく、4年間で平均して履修することが理想です。各自の事情に合わせながら、卒業要件の124単位をうまく4年間で分けていくように履修しましょう。

英語英米文学科／英文学科 カリキュラムマップ

履修順序*	1	2	3	4	卒業論文
	R&R (入門ゼミ) 英米文化基礎ゼミ	アメリカを読み解く イギリスを読み解く 英語の実像を探る 英語文献を読み解く	英米文化専門ゼミ A 英米文化専門ゼミ B	英米文化卒論ゼミ A 英米文化卒論ゼミ B	
英語圏の文化と社会	イギリス史 A イギリス史 B イギリス文化論総説 A イギリス文化論総説 B	イギリスの政治と社会 A イギリスの政治と社会 B イギリスの思想・宗教 A イギリスの思想・宗教 B	オーストラリア地域文化研究 A オーストラリア地域文化研究 B カナダの政治と社会		
	アメリカ研究入門 アメリカの文化 A アメリカの文化 B	アメリカ史 現代アメリカ論 アメリカン・スタディーズ アメリカの政治と社会 A アメリカの政治と社会 B		アメリカの思想・宗教 A アメリカの思想・宗教 B	
英語圏の文学と芸術	イギリス研究入門 イギリス文学史 A イギリス文学史 B イギリス文化史	イギリス詩の世界 A イギリス詩の世界 B イギリス演劇の世界 A イギリス演劇の世界 B	イギリス小説を読む A イギリス小説を読む B		
	アメリカ文学史	アメリカ詩の世界 A アメリカ演劇の世界 A アメリカ演劇の世界 B	アメリカ小説を読む A アメリカ小説を読む B	アメリカ詩の世界 B	
	英米文学研究入門	英米芸術史 キリスト教と英米文学1 キリスト教と英米文学2	英語圏文学 A 英語圏文学 B 英語圏の文学と芸術 A 英語圏の文学と芸術 B 英語圏の映画と映像 A 英語圏の映画と映像 B	英米文学特論 A 英米文学特論 B	
	英語文化研究入門	フォークロアの世界 A フォークロアの世界 B	キリスト教と文学		
英語学	英語学研究入門 英語の発音 A 英語の発音 B 英語の歴史 A 英語の歴史 B	英語のさまざまな側面 A 英語のさまざまな側面 B	英語のしくみを知る A 英語のしくみを知る B	英語と社会・文化 英語学特論 日英語の発想と表現	
Interactive English	Internet English A Internet English B The English-Speaking World A The English-Speaking World B	Global Issues A Global Issues B 翻訳技法 A 翻訳技法 B	通訳技法 A 通訳技法 B 同時通訳技法 A 同時通訳技法 B	時事英語研究 A 時事英語研究 B Academic Writing A Academic Writing B Ferris Special English Program	
Teaching Methodology		English for Kids A English for Kids B	Teaching Japanese Language A Teaching Japanese Language B		
文学・文化理論		カルチュラルスタディーズ A カルチュラルスタディーズ B ポピュラーカルチャー A ポピュラーカルチャー B	声の文化と文字の文化 A 声の文化と文字の文化 B 児童文学論 A 児童文学論 B	古典と表象文化 A 古典と表象文化 B ジェンダー・フェミニズム批評 A ジェンダー・フェミニズム批評 B テキスト生成と批評 A テキスト生成と批評 B	
実体験	フィールド・スタディ1 フィールド・スタディ2 アメリカ現地実習 イギリス現地実習				

履修順序* 履修を進めるにあたり、想定される順序を示しています。履修登録できる年次は、開講科目表で確認してください。

履修の進め方

「履修上の注意」(pp.20~26)及び以下の指示にしたがって履修を進めてください。

1. 共通科目(基礎教養・総合課題、語学)の履修

pp.48~54、55~62を読み、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。

2. 専門科目の履修

カリキュラム表、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。また、次のとおり履修方法が定められています。

(1) 「R&R(入門ゼミ)」: 1年次前期に履修

- ① 選考: クラスは学科が決定します。
- ② 再履修: 「R&R(入門ゼミ)」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の前期に再履修することになります。卒業年度の後期まで未修得の場合に限り、「英米文化基礎ゼミ」を重複して履修し、「R&R(入門ゼミ)」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員(p.166)の指示を受けてください。

(2) 「英米文化基礎ゼミ」: 1年次後期に履修

- ① 選考: クラスは、学生の希望に基づき、定員等にあわせて学科が決定します。
- ② 再履修: 「英米文化基礎ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の後期に再履修することになります。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

【注意】 「R&R(入門ゼミ)」または「英米文化基礎ゼミ」のいずれか1単位を修得済みであることを3年次「英米文化専門ゼミ」の履修条件とします。

(3) 選択必修Ⅲについて

2年次前期に、選択必修Ⅲのつぎの科目群(2年次ゼミ)の中から1科目2単位を修得してください。クラスは、学生の希望に基づき、定員等にあわせて学科が決定します。

- 「アメリカを読み解く」
- 「イギリスを読み解く」
- 「英語の実像を探る」
- 「英語文献を読み解く」

(4) 「英米文化専門ゼミ」: 3年次に履修

- ① 選考: 所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考し、決定します。2年次後期に説明会・書類提出・選抜がおこなわれますので、掲示および学科発行の「履修の手引き」の指示に従ってください。
- ② 再履修: 「英米文化専門ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に「英米文化卒論ゼミ」と並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(5) 「英米文化卒論ゼミ」: 4年次に履修

- ① 所属ゼミは原則として3年次の「英米文化専門ゼミ」と同一担当者のもとし、その担当者のもとで卒業論文指導を受けることとします。
- ② 再履修: 「卒論ゼミA」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「卒論ゼミB」を重複して履修し、「卒論ゼミA」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(6) 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学・認定留学、セメスター・アブロード及び学生交流により、規定された履修年次・学期に上記ゼミを履修することができない学生については、「英米文化専門ゼミ」「英米文化卒論ゼミ」を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(7) 「卒業論文」

卒業論文は、卒業する年度に提出することとします。提出方法等については p.35を参照してください。

日本語日本文学科／日本文学科

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

日本語、日本文学、日本文化に関する学びを通して、調査・研究・創作に関する能力を身に付け、ことばと表現に関する豊かな感性と知性を育み、歴史性・社会性を伴う幅広い視点をもち、社会に貢献する有為な人材を育成する。

◆ディプロマ・ポリシー

日本語、日本文学、日本文化に関する基本的な知識と能力を身に付けて、ことばと表現に関する豊かな感性と知性をもち、幅広い視点で社会に貢献できる能力をもつ者に「学士（文学）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

入門・基礎から高度な専門性をもつものまで各年次にわたる演習（ゼミ）、学科専門科目の基礎となる基幹科目群、文化と歴史にも関わる豊富な専門講義科目群から成るカリキュラム構成を通して、日本の言語、文学、文化に対する深い知識と社会での応用力を養う。

卒業に必要な単位数

科目区分		単位数	備 考	参照		
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1		
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1		
	語 学	語学履修コースによる： ① 10 ② 22	①スタンダード・コース及び2か国語履修コース選択者 ②インテンシブ・コース選択者	*2		
専門	選択必修	選択必修Ⅰ	2	合計 36単位	「R&R(入門ゼミ)」、「基礎ゼミ」を各1単位、合計2単位 Ⅱ群から12単位以上 Ⅲ群から18単位以上 専門ゼミA、B、卒論ゼミA、Bを各1単位、合計4単位	*3
		選択必修Ⅱ	12			
		選択必修Ⅲ	18			
		選択必修Ⅳ	4			
	選 択					
	卒業論文	6				
そ の 他	語学履修コースによる： ① 68 ② 56			*4		
合 計		124				

*1	「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から2単位、計4単位が必修です。
*2	卒業に必要な語学科目の単位数は、スタンダード・コース及び2か国語履修コース選択者は10単位、インテンシブ・コース選択者は22単位です。語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。なお、語学の履修方法は、pp.65～68日本語日本文学科/日本文学科の「語学科目の履修」をご覧ください。
*3	選択必修Ⅰ群から2単位、選択必修Ⅱ群から12単位以上、選択必修Ⅲ群から18単位以上、選択必修Ⅳ群から4単位、合計36単位以上を修得してください。
*4	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2012年度以降入学者</div> 1年次～4年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2011年度以前入学者</div> 1年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに23単位を限度とします。 同じく2年次は、25単位とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。
	外国人留学生は、上記の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細は p.140を参照してください。 ①「日本事情 A、B」から4単位 ②「留学生日本語」10単位

3年次編入学者の卒業に必要な単位数

3年次編入学者は、編入学後2年の間に次の授業科目・単位を含む62単位を修得することが卒業要件となります。

編入学者の卒業に必要な単位数

科目区分		単位数	備 考	参照
共 通	基礎教養	4	「キリスト教Ⅰ」 2単位 「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	
	総合課題			
	語 学	-	語学科目の修得単位は、32単位まで卒業に必要な単位として認められます。	*1
専 門	選択必修	選択必修Ⅰ	-	
		選択必修Ⅱ	-	
		選択必修Ⅲ	-	
		選択必修Ⅳ	4	「日本言語文化専門ゼミA」1単位、「日本言語文化専門ゼミB」1単位 「日本言語文化卒論ゼミA」1単位、「日本言語文化卒論ゼミB」1単位
	卒業論文	6		
	そ の 他	48	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*1のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）	
	合 計	62		

ただし、「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。（p.53「キリスト教科目」参照）

カリキュラムの説明

日本語日本文学科のカリキュラムは、日本語学・日本文学を柱として立てられています。日本語学は、日本語史と現代日本語・日本語教育に、日本文学は上代文学・中古文学・中世文学・近世文学・近現代文学に、さらには中国文学と漢文学に専門・細分化されます。その授業科目には、専門に関わる科目、全体に共通して必要な科目、また教職課程や日本語教員養成に関する科目があります。これは、他学科の開放科目を含め有機的繋がりの中に段階を追って履修することにより、専門の総合的な知識を得つつ、専門的な知識を深めていくことができるよう設定されたものです。言語体験や文学体験を重視した科目も特徴です。また各科目群における修得単位数が示されていますが、あくまでも最低目標値にすぎません。専門の知識を深め、身につけるためには、専門科目の積極的な履修が望まれます。

4年間の履修の指針

1年次に履修が指定されている科目は科目群Ⅰ **基礎を学ぶ**の「R&R（入門ゼミ）」「日本言語文化基礎ゼミ」です。前期の「R&R（入門ゼミ）」は、Research & Reportの略で、文学部共通のゼミナールとして設置されています。学術資料の調べ方やレジュメの書き方、発表のしかた、討論のしかたなど大学ならではの方法を全員が身につけ、学習が実りあるものとなるようトレーニングをします。このクラスの担当教員が、原則として2年次まで「アカデミック・アドバイザー（AA）」としてみなさん方に種々のアドバイスを行います。後期の「日本言語文化基礎ゼミ」は、日本語日本文学科の各専門分野における基礎資料の集め方、研究の初

歩を学ぶ時間です。これら2つの演習により、日本語日本文学科で勉強をしていくための基礎を幅広く学んでください。

また、科目群Ⅲ **専門と出会う** の日本語日本文学の基礎を学ぶは、専門分野を学んでいくための基礎的な力をつけるための科目群です。できるだけすべての科目を履修するようにしてください。なかでも「基礎論文演習（文章表現）」は、専門分野についてのレポートや卒業論文を書いていくために必ず必要となる基礎力を養成するための科目ですので、1年次の後期に履修するようにしてください。

さらに、1年次から、科目群Ⅱ **全体像を知る** の「概論・文学史」等を履修することによって、各専門分野の全体的知識を学びます。ある専門分野のことが他の分野のことに全く無関係ということはありません。幅広く学ぶことで更に専門が深まってくるものです。教職課程履修者や日本語教員養成講座受講者、大学院進学希望者は、科目群Ⅱについては全科目の履修が理想的です。

2年次以降、更に専門的な研究方法や知識を習得するため、科目群Ⅲ **専門と出会う** の中に、より専門的な科目が用意されています。これらの科目の中には実際に調査し、整理・分析して発表するという主体的な参加が要請されるものもあり、特に2年次の「～を読む」はクラス定員に制限を設けた学科選抜の演習形式科目で、週2回の授業により一気に実践力を高めるものです。科目群Ⅲには、日本語日本文学のより専門的な科目の他に、日本の言語・文学・文化について、視野を広げたり、実際に体感する科目も開かれています。これらの科目を選択することでより深い探究、より広い展望を獲得できます。

2年次終了までに、進むべき専門の分野を決定して、3年次に科目群Ⅳ **専門を深める** の「日本言語文化専門ゼミ」を選択履修し、各自の研究テーマを本格的に学ぶこととなります。さらに、4年次には同じ科目群Ⅳの「日本言語文化卒業ゼミ」を履修し、卒業論文作成に向けて研鑽を積むこととなります。卒業論文のテーマは、平生の履修の中で常に考え、早めに見つけるよう心がけてください。

教職（国語）資格、日本語教員

日本語日本文学科の専門科目を履修しつつ、教職課程の科目の履修を積み重ねることで、国語の教員免許状が取得できます。また、日本語教員養成講座の選択必修科目の多くは日本語日本文学科の専門科目なので、卒業要件を満たしつつ効率的に日本語教員養成講座を修了することができます。それぞれのカリキュラム表をよく読み、専門科目の履修を資格取得に有効に生かしてください。

その他

選択必修Ⅲには **文学・文化理論を学ぶ** として、文学部の全学生を対象にした共通科目が用意されています。最新の文学理論や文化理論を日本文学・日本語研究に大いに生かしてください。

また、4年間で平均して履修することも大切なことです。卒業要件の124単位を上手に按分して各学年でムラなく学ぶよう計画してください。

日本語日本文学科／日本文学科 カリキュラムマップ

標準履修年次*	1年次	2年次	3年次	4年次	
ゼミ	R&R (入門ゼミ) 日本語文化基礎ゼミ 基礎論文演習 (文章表現)	日本語資料を読む 日本語教育資料を読む 古典文学を読む1 古典文学を読む2 古典文学を読む3 古典文学を読む4 近現代文学を読む1 近現代文学を読む2	日本語文化専門ゼミ A 日本語文化専門ゼミ B	日本語文化卒論ゼミ A 日本語文化卒論ゼミ B	卒業論文
日本語日本文学基礎	書誌学・くずし字の基礎 古典読解の基礎 文学理論の基礎 日本史の基礎 (古代～近世) 日本史の基礎 (近現代) 漢文読解の基礎				
日本語学関係分野	日本語概論 A 日本語概論 B 日本語の歴史 A 日本語の歴史 B	日本語文法研究の方法 日本語彙研究の方法 日本語音声研究の方法 方言研究の方法 日本語の形態と構文 日本語の意味と語彙 日本語の音声とアクセント 日本語の文体と語法 日本の漢字と国語辞書 日本語の敬語			
日本語教育関係分野	日本語教育学概論 A 日本語教育学概論 B	日本語教育の教材分析 A 日本語教育の教材分析 B 日本語学習のコースデザイン 日本語教育評価法 第二言語習得論 日本語教育のための異文化理解 日本語教授法 A 日本語教授法 B	日本語教育実習1 日本語教育実習2		
日本文学関係分野	日本古典文学史1 日本古典文学史2 日本古典文学史3 日本古典文学史4 日本近代文学史 A 日本近代文学史 B 漢文学概説 A 漢文学概説 B	上代文学研究の方法 中古文学研究の方法 中世文学研究の方法 近世文学研究の方法 近現代文学研究の方法 神話の世界 説話の世界 古代和歌の世界 物語の世界 日記の世界 随筆の世界 中世和歌の世界 軍記の世界 俳諧の世界 近世小説の世界 近代小説の世界 現代小説の世界 近現代詩歌の世界 同時代文学の世界 能・狂言の世界 歌舞伎の世界 浄瑠璃の世界 近現代演劇の世界 日中比較言語・文学の世界 書道芸術の世界			
日本の言語・文化・文学	キリスト教と日本文学 キリスト教と文学 (共通科目) 言語学概説 日本伝統文化を学ぶ 国際日本文学研究を学ぶ 小説創作を学ぶ 短歌創作を学ぶ 俳句創作を学ぶ 現代詩創作を学ぶ 報道文を学ぶ 編集を学ぶ 朗読・アナウンスを学ぶ	言語と文化 方言と社会言語学 コンピュータと言語学 文学と子ども 文字と文学 文学と都市空間 地域文化を読み解く 民俗文化を読み解く 絵巻・絵図を読み解く マンガ・アニメ文化を読み解く 映画・映像を読み解く 書道 A 書道 B			
文学・文化理論 (文学部共通科目)	カルチュラルスタディーズ A カルチュラルスタディーズ B 古典と表象文化 A 古典と表象文化 B テキスト生成と批評 A テキスト生成と批評 B ポピュラーカルチャー A ポピュラーカルチャー B 声の文化と文字の文化 A 声の文化と文字の文化 B ジェンダー・フェミニズム批評 A ジェンダー・フェミニズム批評 B 児童文学論 A 児童文学論 B				

標準履修年次* 学科が定める「履修が望ましい、または履修を開始できる年次」です。
履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。

履修の進め方

「履修上の注意」(pp.20～26)及び以下の指示にしたがって履修を進めてください。

1. 共通科目(基礎教養・総合課題、語学)の履修

pp.48～54、55～62を読み、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。

2. 専門科目の履修

カリキュラム表、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。また、次のとおり履修方法が定められています。

(1) 「R&R(入門ゼミ)」: 1年次前期に履修

- ① 選考: クラスは学科が決定します。
- ② 再履修: 「R&R(入門ゼミ)」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の前期に再履修することになります。卒業年度の後期まで未修得の場合に限り、「日本語文化基礎ゼミ」を重複して履修し、「R&R(入門ゼミ)」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員(p.166)の指示を受けてください。

(2) 「日本語文化基礎ゼミ」: 1年次後期に履修

- ① 選考: クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。なお、「R&R(入門ゼミ)」担当者とは、異なる担当者のもとで履修することとします。
- ② 再履修: 「日本語文化基礎ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の後期に再履修することになります。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

【注意】「R&R(入門ゼミ)」または「日本語文化基礎ゼミ」のいずれか1単位が修得済みであることを3年次「日本語文化専門ゼミ」の履修条件とします。

(3) 「基礎論文演習(文章表現)」: 1年次後期に履修【2012年度以降入学生】

1年次の後期に1単位を履修することとします。クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。

(4) 選択必修Ⅲについて

2年次に、選択必修Ⅲのつぎの科目群(2年次ゼミ)の中から前期後期それぞれ1科目4単位ずつ、合計8単位を履修してください。クラスは学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。

「日本語資料を読む」「日本語教育資料を読む」

「古典文学を読む1」「古典文学を読む2」「古典文学を読む3」「古典文学を読む4」

「近現代文学を読む1」「近現代文学を読む2」

「中国文学を読む」

(5) 「日本語文化専門ゼミ」：3年次に履修

- ① 選考：所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考し、決定します。2年次後期に説明会・書類提出・選抜がおこなわれますので、掲示及び学科発行の「履修の手引き」の指示に従ってください。
- ② 再履修：「日本語文化専門ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に「日本語文化卒論ゼミ」と並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(6) 「日本語文化卒論ゼミ」：4年次に履修

- ① 所属ゼミは原則として3年次の「日本語文化専門ゼミ」と同一担当者とし、その担当者のもとに卒業論文指導を受けることとします。
- ② 再履修：「卒論ゼミA」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「卒論ゼミB」を重複して履修し、「卒論ゼミA」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(7) 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学・認定留学及び学生交流により、規定された履修年次・学期に上記ゼミを履修することができない学生については、「日本語文化専門ゼミ」と「日本語文化卒論ゼミ」を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(8) 「卒業論文」

卒業論文は、卒業する年度に提出することとします。提出方法については p.35を参照してください。

コミュニケーション学科

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

多文化理解、共生コミュニケーション、表現とメディアの領域における科学的アプローチによる学びを通して、科学的論理に基づく理解と実践力をもち、多文化共生社会の構築に貢献する有為な人材を育成する。

◆ディプロマ・ポリシー

多文化理解、共生コミュニケーション、表現とメディアの領域において、調査・統計、論理的理解、実践的表現の技法を習得し、それらの方法を用いて客観的な視点から社会に貢献できる能力をもつ者に「学士(文学)」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

実証的研究方法の習得に重点を置いた導入・基礎的科目群に始まり、理論的専門科目群「知と出会う」と実践的専門科目群「フィールドへ出る」を配し、現代社会を論理的かつ科学的に理解する能力を養う。

卒業に必要な単位数

科目区分		単位数	備 考	参照		
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1		
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1		
	語学	語学履修コースによる： ① 10 ② 22	①スタンダード・コース及び2か国語履修コース選択者 ②インテンシブ・コース選択者	*2		
専門	選択必修	選択必修Ⅰ	2	合計 36単位	「R&R(入門ゼミ)」、「基礎ゼミ」を各1単位、合計2単位 Ⅱ群から12単位以上 Ⅲ群から18単位以上 専門ゼミⅠA、ⅠB、専門ゼミⅡA、ⅡBを各1単位、合計4単位	*3
		選択必修Ⅱ	12			
		選択必修Ⅲ	18			
		選択必修Ⅳ	4			
	選 択					
	卒業論文・卒業制作	6				
その他		語学履修コースによる： ① 68 ② 56			*4	
合 計		124				

*1	「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から2単位、計4単位が必修です。
*2	語学科目の修得単位数は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。なお、語学の履修方法は、pp.65～68コミュニケーション学科の「語学科目の履修」をご覧ください。
*3	選択必修Ⅰ群から2単位、選択必修Ⅱ群から12単位以上、選択必修Ⅲ群から18単位以上、選択必修Ⅳ群から4単位、合計36単位以上を修得してください。
*4	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2012年度以降入学者</div> 1年次～4年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2011年度以前入学者</div> 1年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに23単位を限度とします。 同じく2年次は、25単位とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。
	外国人留学生は、上記の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細は p.140を参照してください。 ①「日本事情 A、B」から4単位 ②「留学生日本語」10単位

3年次編入学生の卒業に必要な単位数

3年次編入学生は、編入学後2年の間に次の授業科目・単位を含む62単位を修得することが卒業要件となります。

編入学生の卒業に必要な単位数

科目区分		単位数	備 考	参照
共通	基礎教養 総合課題	4	「キリスト教Ⅰ」 2単位 「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	
	語 学			
専門	選択必修	選択必修Ⅰ	-	
		選択必修Ⅱ	-	
		選択必修Ⅲ	-	
		選択必修Ⅳ	4	「コミュニケーション専門ゼミⅠA」(1単位) 「コミュニケーション専門ゼミⅠB」(1単位) 「コミュニケーション専門ゼミⅡA」(1単位) 「コミュニケーション専門ゼミⅡB」(1単位)
	卒業論文・卒業制作	6		
その他		48	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目(上限：*1のとおり) ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目(上限：8単位まで)	
合 計		62		

ただし、「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。(p.53「キリスト教科目」参照)

カリキュラムの説明

コミュニケーション学科の目ざすもの

コミュニケーション学科は、みなさん方が21世紀の多文化・共生時代を生きるため、多様化する社会や人間、文化などを総合的にとらえた上で、社会関係をスムーズにし、対人スキルを身につけ、豊かな表現能力が獲得できるよう、現状把握・調査・分析・理論、そして実習・実践などを重視する学科として2004年度に新しく開設されました。

人は、動物とは異なり1人では生きてゆけず、「社会」を構成してしか生きられません。その際、人は「ことば」で思考し、書きことば・話しことば・しぐさ・音・画像などの記号を駆使し、情報の乗り物であるメディアという道具を用いて自己表現や他者とのコミュニケーションを行っています。その繁雑さと「個」というエゴのため、時として人間は他の動物よりもはるかに非合理的な争いを生じさせもし、身近なところでは誤解や「いじめ」、他者の人権や生命の侵害、グローバルにみれば差別や貧困、大量殺戮や戦争などの悲しくかつ憂慮すべき事態を繰り返してきました。人間がもっと賢くなり、「憎しみ」の連鎖を断ち切り、多様な人びとと平和的に暮らせるようになる世界を構築するためには、私たち全員がもっともって人間の心や社会のシステム、様々な文化、表現のしかたなどについて学び、むしろ「違い」を楽しむような実践が求められます。その時のキーワードが「コミュニケーション」にほかなりません。

カリキュラムの構成

本学のコミュニケーション学科は、以上のような問題意識の上に立って、カリキュラム構成に他大の同じような学科にはない数多くの特徴をそなえています。

まずカリキュラムの構造ですが、①入学したての大学生としてトレーニングを少人数のゼミで積む**基礎を学ぶ**、②コミュニケーション研究の入門編として**全体像を知る**、③実証的研究方法編としての**研究方法に取り組む**、④各論の基礎編である**コミュニケーションの基礎を学ぶ**、そして⑤各論の専門科目である**多文化理解・共生コミュニケーション・表現とメディア**の3領域からなる**専門と出会う**が、階梯性をもって配置されています。④⑤の「専門と出会う」の中には、2年次生全員が履修しなければならない、ゼミ風のコミュニケーション学探求も用意されています。また⑥コミュニケーション研究の解釈実践ともいえる**現代文化を読み解く**が加わり、最後に⑦卒業論文・卒業制作に結実するゼミナールとしての**専門を深める****専門を極める**でしめくられるよう組み立てられています。

カリキュラムのハイライトである⑤は、さらにそれぞれ**知と出会う**と**フィールドへ出る**とで構成されており、前者は主として現状や先行研究について理論的に学び、後者は主として学内外でのワークショップや実習によって実践的に学びます。

4年間の履修の指針

コミュニケーションに関連する授業内容は多岐にわたっており、どれもまんべんなく履修することをお勧めします。最低限の取得単位で卒業するのは、もったいないことです。しかし、「あれもこれも」と欲張りすぎても、「コミュニケーション学科でどんな勉強をしたの?」と他人や就職面接で訊かれて答えられないことになりかねません。自分の興味や研究テーマ、進路などにそって、自分なりのカリキュラムを構造化する必要があります。また、基礎教養・総合課題科目、他学部・他学科の開放科目、語学などもできるだけ関連させて履修したいものです。そのかわり、かなりハードな学生・学習生活になることを覚悟する必要があり、4年間・8セメスターの計画（履修計画のみならず留学や就職活動の予定）や、長期の夏休み・春休みなどの計画（資格や免許の取得など）をしっかりと立てておくことが肝要です。

1年目に全員必修で履修する**選択必修Ⅰ 基礎を学ぶ**は、「R&R（入門ゼミ）」と「コミュニケーション基礎ゼミ」からなっています。前期の「R&R（入門ゼミ）」は、Research & Reportの略で、文学部共通のゼミナールとして設置されています。大学ならではの、学術資料の調べ方やレジユメの書き方、発表のしかた、討論のしかたなどを全員が身につけることによって大学での学習が実りあるものになるよう、トレーニング

をします。少人数制のこのクラスは、担当の先生が原則として2年次まで「アカデミック・アドバイザー(AA)」として、みなさん方に種々のアドバイスを行います。続く1年後期の「コミュニケーション基礎ゼミ」では、様々な領域にわたるコミュニケーション研究のいずれかひとつの“入り口”を経験してもらいます。

どちらも単位を取得しないと卒業できない必修科目です。配当された1年次生のうちに修得するようにしてください。

選択必修Ⅱ **全体像を知る** では、1、2年次に、コミュニケーションの概念や諸相に関する入門編である「言語コミュニケーション概論」「社会コミュニケーション概論」「文化コミュニケーション概論」「心理コミュニケーション概論」のうちのいくつかと、多様な広がりを持つコミュニケーションに関する研究方法の入門編である「コミュニケーション研究方法の全体像」を履修しておいてください。また **研究方法に取り組む** の7科目のうちいくつかを、やはり2年次までに履修するよう努めてください。今後4年間の授業で、なかでもゼミと卒業論文・制作の場では、これらの授業で得た知識が「身につけていることを前提」として授業が進みます。これらⅡ群の単位は、合計12単位以上満たしていないと卒業できません。「研究方法に取り組む」の7科目のうちいくつかは「社会調査士」の資格科目ともなりますので、詳細は学科からの説明をよく聞いてください。

選択必修Ⅲ **専門と出会う** では、まず **コミュニケーションの基礎を学ぶ** で、コミュニケーション研究における各論の基礎的知識が講じられます。心理学や社会学、言語学などが人間や社会をどうとらえてきたか、アウトラインをつかんでください。この6科目について学年指定はありませんが、1、2年次のうちに履修しておくことを推奨します。

また2年次生は、前期に、この中の **コミュニケーション学探求** から、必ず1科目を履修してください。学科の専任教員が、それぞれの専門性をゼミ形式で鍛えます。

選択必修Ⅲのメイン科目は、**多文化理解 共生コミュニケーション 表現とメディア**の3ジャンルで、現状や先行研究について理論的に学ぶ **知と出会う** くくりと、主に学内外におけるワークショップや実習によって実践的に学ぶ **フィールドへ出る** くくりがそれぞれラインナップされています。3ジャンルまんべんなく履修することをお勧めしますが、自分なりの専攻・ピークを作ってもいいでしょう。科目によっては現地実習などで参加費が必要な場合やパスポートが必要な場合などがあり、授業時間外の参加が求められることも少なくありませんので、初回授業時には必ず出席して担当教員の説明や指示をよく聞いてください。また、多くの科目で毎回のようにレポートや制作物の提出が課題とされ、グループワークやホームワークが求められるでしょう。

これらの選択必修Ⅲは、**現代文化を読み解く** と合わせて18単位以上履修すれば卒業要件を満たしますが、できるだけ多くの科目を学ぶに越したことはありません。

選択必修Ⅳ **専門を深める** の「コミュニケーション専門ゼミⅠ A, I B」は、コミュニケーション学科全専任教員がそれぞれ研究テーマを掲げてゼミナール生を募集し、3年次に学生全員がいずれかのゼミナールに所属して、発表や討論や文献講読、フィールドワーク、調査などをしながら少人数で研究を行います。それは、4年次の「コミュニケーション専門ゼミⅡ A, II B」に橋渡しされ、最終的な「卒業論文・卒業制作」をまとめます。これらⅣ群はいずれも必修です。3年次からはゼミ担当の教員が「アカデミック・アドバイザー」となります。

4年間・8セメスターの履修は、次のモデル図をよく参考にして組み立ててください。また、2年次後期に募集され3年次から始まるゼミナールは、次頁のような研究内容のゼミが予定されています。早い学年のうちから履修計画を立てておくようにしてください。

4年間の履修モデル

科目群/セメスター	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
語学	磨く/訓練する		実践力をつける		語学力を維持する/発展させる			
「全体像を知る」基礎編	「言語コミュニケーション概論」 「社会コミュニケーション概論」 「文化コミュニケーション概論」 「心理コミュニケーション概論」 「コミュニケーション研究法の全体像」の履修							
プレゼミ	R&R	基礎ゼミ	コミュニケーション学探求					
「研究方法に取り組む」	「研究方法」科目群の履修（上記を含む12単位以上）							
「コミュニケーションの基礎を学ぶ」	「基礎を学ぶ」科目群の履修（なるべくまんべんなく）							
コミュニケーション科目専門	「多文化理解」「共生コミュニケーション」「表現とメディア」科目群の履修（まんべんなく又は分野をしばって履修）							
その他の履修	留学、インターンシップ、ボランティア実習							
ゼミ・卒論・卒制				ゼミ選び	研究テーマづくり	研究テーマ決定	調査、フィールドワーク	執筆・制作

*履修にあたっては、web上のシラバスおよび学生要覧を必ず熟読して登録・授業に参加してください。またシラバス上で使用されているテクニカルタームについては、各自で調べておいて履修に臨むほか、R & Rテキストの「用語集」なども熟読してください。

ゼミナール担当（指導可能）分野

教員名	潮村公弘	齋藤孝滋	渡辺浪二	諸橋泰樹	高田明典	井上恵美子	高橋京子	大倉一郎	相澤 一	夏目 純	
専攻	異文化心理	社会言語学	心理学	マスコミ社会学	メディア文化論	教育学	身体論	多文化共生	異文化コミュ	企画編集	
指導分野	心理・社会心理 異文化・多文化 言語 身体 家族・教育 ジェンダー 思想・社会 メディア コンピューター・情報	◎ ○ ◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○	◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
最低限履修しておくべき研究方法科目(2科目のうちどちらかは履修しておくこと)	データを数量から読み解く 実験の研究計画をたてる	話しことばを分析する データを数量から読み解く	実験の研究計画をたてる データを数量から読み解く	アンケート・社会調査の方法 データを数量から読み解く	文献・情報の集め方 マルチメディア制作IA	インタビュー・面接のスキル アンケート・社会調査の方法	フィールドワークとエスノグラフィー 文献・情報の集め方	多文化・多言語社会を考える インタビュー・面接のスキル	アンケート・社会調査の方法 文献・情報の集め方	文献・情報の集め方 インタビュー・面接のスキル	
履修しておくことが望ましい科目	文化の心理学 コンピュータによる調査データの解析 A,B アンケート・社会調査の方法	ことばのフィールドワーク 言語コミュニケーション概論 日本語文法論とコミュニケーション	対人コミュニケーションの心理学 コンピュータによる調査データの解析 A,B 組織の中の人間関係	ジェンダー問題と男女共同参画社会 メディアリテラシーを身につける マスコミュニケーションと情報社会	テキスト分析と物語構造分析を学ぶ アンケート・社会調査の方法 文化コミュニケーション概論	子どもの発達とこれからの教育問題 これからの家族問題 A,B ジェンダー問題と男女共同参画社会	身体表現論 身体としぐさの心理学 スポーツ文化	多文化社会の人間学 フィールドワークとエスノグラフィー 共生のフィールドワーク	異文化のコミュニケーション 多文化・多言語社会を考える アジアとの出会いと異文化体験	編集デザインスキル マルチメディア制作I (CG・DTP編集) A,B 新聞・出版ワークショップ	

*表の見方…教員ごとに、指導可能分野に丸印がついています（◎は「かなり専門的に指導可」、○は「指導可」）。表をヨコに見ると分野ごとのゼミが浮かび上がります。たとえば、「言語」関係のゼミ志望でしたら、第1希望齋藤先生、第2希望相澤先生などのように希望することができます。もちろん、第1希望高橋ゼミ、第2希望高田ゼミ、第3希望大倉ゼミなどのように、一貫しない志望でもかまいませんが、その分事前の最低限履修しておくべき研究方法科目や履修しておくことが望ましい科目が増えることになります。

**……………夏目先生は非常勤講師ですので、出講日は週1回となります。

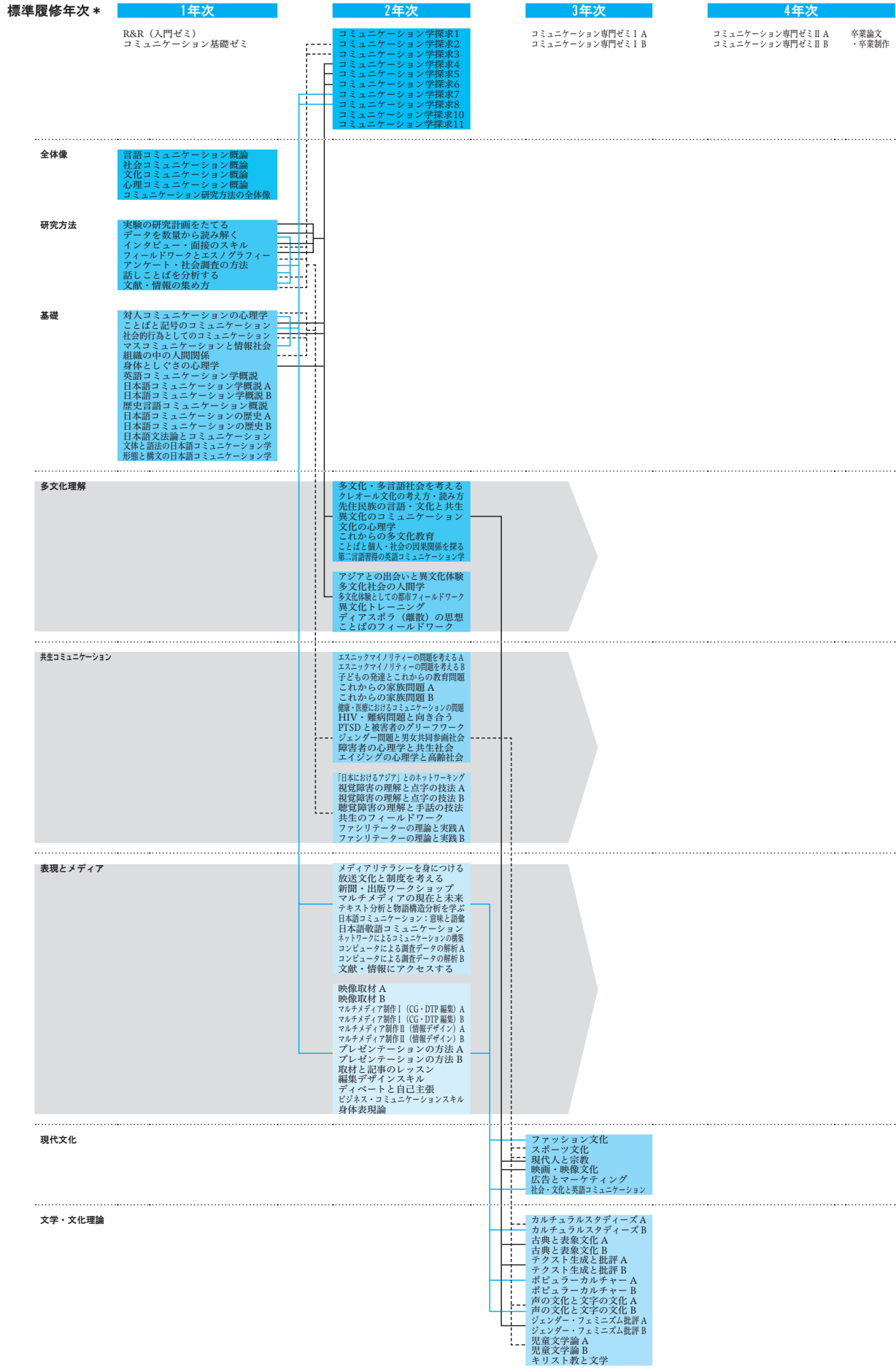
その他

Ⅲ群には、**文学・文化理論を学ぶ**として、文学部の全学生を対象にした共通科目が用意されています。最新の文学理論や文化理論を、コミュニケーション研究に大いに活かしてください。

科目名には、これまでみなさんが聞いたことのない、横文字や最新用語が使われているものがあります。履修前・登録前に、必ずシラバスをよく読んで授業に臨んでください。

なお本学科には、設備の関係や学習効果を上げるため、受講者数を少人数に絞っている科目が少なからずあります。履修申し込みを学生本人が「履修者数制限科目希望受付期間」に行うか、授業の第1回目に出席して当該教員による選抜を受けなければなりません。卒業要件や入ゼミ条件にかかわる科目であるにもかかわらず、申し込みを怠ったり1回目の授業を休んだりすると、履修できずに本人の不利益になりますので、充分注意してください。

コミュニケーション学科 カリキュラムマップ



標準履修年次* 学科が定める「履修が望ましい、または履修を開始できる年次」です。
履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。

履修の進め方

「履修上の注意」(pp.20~26)及び以下の指示にしたがって履修を進めてください。

1. 共通科目(基礎教養・総合課題、語学)の履修

pp.48~54、55~62を読み、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。

2. 専門科目の履修

カリキュラム表、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。また、次のとおり履修方法が定められています。

(1) 「R&R(入門ゼミ)」:1年次前期に履修

- ① 選考:クラスは学科が決定します。履修登録は学科で行います。
- ② 再履修:「R&R(入門ゼミ)」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の前期に再履修することになります。卒業年度の後期まで未修得の場合に限り、「コミュニケーション基礎ゼミ」を重複して履修し、「R&R(入門ゼミ)」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員(p.166)の指示を受けてください。

(2) 「コミュニケーション基礎ゼミ」:1年次後期に履修

- ① 選考:クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。前期末に希望票提出・選考を行う予定です。詳細は掲示で知らせます。履修登録は学科で行います。
- ② 再履修:「コミュニケーション基礎ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の後期に再履修することになります。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

【注意】「R&R(入門ゼミ)」または「コミュニケーション基礎ゼミ」のいずれか1単位を修得済みであることを3年次「コミュニケーション専門ゼミ」の履修条件とします。

(3) 「コミュニケーション学探求」:2年次前期に履修

- ① 選考:クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。
- ② 2年前期のオリエンテーション時に希望票提出・選考を行う予定です。詳細は掲示で知らせます。履修登録は学科で行います。

(4) 選択必修Ⅱについて

- ① 1年次または2年次に、選択必修Ⅱ「言語コミュニケーション概論」「社会コミュニケーション概論」「文化コミュニケーション概論」「心理コミュニケーション概論」と「コミュニケーション研究方法の全体像」および「実験の研究計画をたてる」「アンケート・社会調査の方法」「インタビュー・面接のスキル」「話しことばを分析する」「文献・情報の集め方」「データを数量から読み解く」「フィールドワークとエスノグラフィー」の中から12単位以上を修得すること。
- ② 上記のうち「言語コミュニケーション概論」「社会コミュニケーション概論」「文化コミュニケーション概論」「心理コミュニケーション概論」「コミュニケーション研究方法の全体像」は必修指定にはなっていませんが、重要な基礎科目です。各「概論」は1つ以上、「研究方法」は是非履修するようにしてください。

(5) 「コミュニケーション専門ゼミⅠA、ⅠB」:3年次に履修

- ① 選考:所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考し、決定します。2年次後期に説明会・書類提出・選抜がおこなわれますので、掲示および学科発行の「履修の手引き」の指示に従ってください。
- ② 再履修:「コミュニケーション専門ゼミⅠA、ⅠB」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に

「コミュニケーション専門ゼミⅡ A, Ⅱ B」と並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員（p.166）の指示を受けてください。

(6) 「コミュニケーション専門ゼミⅡ A, Ⅱ B」：4年次に履修

- ① 所属ゼミは原則として3年次の「コミュニケーション専門ゼミⅠ A, Ⅰ B」と同一担当者とし、その担当者のもとに卒業論文・卒業制作の指導を受けることとします。
- ② 再履修:「コミュニケーション専門ゼミⅡ A」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「コミュニケーション専門ゼミⅡ B」を重複して履修し、「コミュニケーション専門ゼミⅡ A」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(7) 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学・認定留学及び学生交流により、規定された履修年次・学期に上記ゼミを履修することができない学生については、「コミュニケーション専門ゼミⅠ A, Ⅰ B」と「コミュニケーション専門ゼミⅡ A, Ⅱ B」を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(8) 「卒業論文・卒業制作」

卒業論文・卒業制作は、卒業する年度に提出することとします。「卒業論文・卒業制作」の単位認定は、卒業する年度に限ります。「卒業論文・卒業制作」の題目提出時に、卒業論文もしくは卒業制作のうちいずれか一方を選択しなければなりません。また、原則として題目提出後の変更は認められません。卒業論文および卒業制作として認められるものには、それぞれ必要となる要件が設定されています。要件などの詳細に関しては4年次前期に開催される「卒業論文・卒業制作オリエンテーション」において説明されるので、掲示等に留意してください。

社会調査士資格認定について

「社会調査士」とは、日本教育社会学会・日本行動計量学会・日本社会学会の三学会が連携協力して設立した「社会調査士認定機構」が認定する資格であり、所定の科目群の履修を通して社会調査に関する基礎的な知識と技能および応用力と倫理観を身につけた者に対して認定されます。コミュニケーション学科では、この「社会調査士」の資格取得のために必要となる科目の認定を受けています。ただし、資格認定のためには、所属するゼミナールや、履修する科目に関して、条件があります。社会調査士資格の取得を希望する人は、学科から配布される資料や、文学部共同研究室の掲示に注意するようにしてください。社会調査士資格の詳細に関しては、一般社団法人社会調査協会のホームページで見ることができます。（<http://jasr.or.jp>）

国際交流学部

国際交流学科

国際交流学部の人材養成目的

国際交流の領域に関する高度の教育研究を行い、グローバル化の時代にふさわしい、専門分野の枠を越えた総合的知識を身に付けた人材を養成する。(学則第2条の2)

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

国際交流の領域に関する高度の教育研究を行い、グローバル化の時代にふさわしい、専門分野の枠を越えた総合的知識を身に付けた人材、すなわちこれからの社会に貢献できる知性と行動力をもった人材を育成する。

◆ディプロマ・ポリシー

国際交流の領域に関する知識を修得するとともに、グローバル化の時代にふさわしい教養や語学力を身に付け、地球的課題に立ち向かい、社会に貢献できる能力をもつ者に「学士（国際交流学）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

入門・基幹科目群から始まり、国際協力、文化交流、人間環境の3プログラムへと展開するカリキュラムで国際交流における総合的知識を教授する。これにより、世界の現実を把握し理解する能力、グローバル化の時代に相応しい教養、他者理解のための語学力を養う。

卒業に必要な単位数

2014年度以降入学者

科目区分		単位数		備考	参照
共通	基礎教養	2		「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
	総合課題	2		「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1
	語学	コースによる： ① 10 ② 16 ③ 22		①スタンダード・コース選択者 ②2か国語履修コース選択者 ③インテンシブ・コース選択者	*2
専門	必修	10		「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、 「基礎演習」3単位、「専門演習」4単位	*3
	選択必修	基幹科目	12	合計で 20単位 以上	国際協力、文化交流、人間環境プログラムのうち、所属するプログラムの推奨科目 最低6単位を含む合計20単位以上を修得
		所属するプログラムの推奨科目	6		
		所属プログラムの科目			
卒業論文	6			*6	
その他	① 62 ② 56 ③ 50			*7	
合計	124				

2009～2013年度入学者

科目区分		単位数		備考	参照
共通	基礎教養	2		「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1
	総合課題	2		「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1
	語学	コースによる： ① 10 ② 16 ③ 22		①スタンダード・コース選択者 ②2か国語履修コース選択者 ③インテンシブ・コース選択者	*2
専門	必修	a)10 b)8		④卒業論文コースを選択した場合 「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、 「基礎演習」3単位、「専門演習」4単位 ⑤6単位コースを選択した場合 「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、 「基礎演習」3単位、「専門演習」2単位	*3
	選択必修	A群から4単位以上 B群から4単位以上 C群から4単位以上	かつ合計 で32単位 以上		*5
	④卒業論文または ⑤指導教員の指定する 国際交流学科専門科目	a)6 b)6			*6
	その他	コースによる： ④卒業論文コース ① 62 ② 56 ③ 50 ⑤6単位コース ① 64 ② 58 ③ 52			*7
合計	124				

*1	「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から2単位、計4単位が必修です。
*2	卒業に必要な語学科目の単位数は、スタンダード・コース選択者は10単位、2か国語履修コース選択者は16単位、また、インテンシブ・コース選択者は22単位です。語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。 なお、語学の履修方法は、pp.69～72を見てください。
*3	④ 卒業論文を選択した場合、「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、「基礎演習」3単位、「専門演習」4単位の計10単位が必修です。 なお、2014年度入学者は「研究入門（国際交流学部での学び）」が必修です。 ⑤ 卒業論文に代わる国際交流学科専門科目6単位を選択した場合、「導入演習」1単位、「研究入門」2単位、「基礎演習」3単位、「専門演習」2単位の計8単位が必修です。 「研究入門」の修得単位は、2013年度以前入学者は4単位まで、2014年度以降入学者は修得した単位全てが卒業に必要な単位として認められます。（必修単位2単位を含む。） なお、履修方法は、「専門科目の履修」を見てください。
*4	2014年度以降入学者 基幹科目から12単位が必修です。
*5	2014年度以降入学者 2年次前期から、国際協力プログラム、文化交流プログラム、人間環境プログラムのうち1つに所属します。所属するプログラムの推奨科目から最低6単位以上、かつプログラム内で合計20単位以上となるように修得してください。 2009～2013年度入学者 A群、B群、C群から各4単位以上、かつ合計で32単位以上となるように修得してください。
*6	卒業論文に代えて、指導教員の指定する国際交流学科専門科目（6単位）を修得することができます。（「導入演習」、「研究入門」、「基礎演習」、「専門演習」、現地実習科目、集中講義科目を除く。）
*7	全学生対象 次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目 ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで） 2014年度以降入学者のみ適用 ・必修として規定された以上に、基幹科目から自由に選択した科目 ・国際交流学科実践科目 ・選択必修として規定された以上に所属するプログラムから選択した科目 ・国際交流学科の所属外プログラムの科目
	2012年度以降入学者 1年次～4年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。 2011年度以前入学者 1年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに23単位を限度とします。 同じく2年次は、25単位とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。
	外国人留学生は、左記の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細は p.140を参照してください。 ①「日本事情 A、B」から4単位 ②「留学生日本語」 2010年度以降入学者 10単位 2009年度以前入学者 12単位

編入学生の卒業に必要な単位数

2年次編入学者		科目区分	単位数	備考	参照
共通	基礎教養	4	4	「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から4単位	*1
	総合課題				
	語学	6			*2
専門	基礎演習	2			
	選択必修	A群から4単位以上 B群から4単位以上 C群から4単位以上	かつ合計 で28単位 以上		
	専門演習	コースによる： ①4 ②2		①卒業論文コースを選択した場合 ②6単位コースを選択した場合	
	①卒業論文 または ②指導教員の 指定する国際交 流学科専門科目	①6 ②6			*3
	その他	コースによる： ①44 ②46	①卒業論文コースを選択した場合 ②6単位コースを選択した場合 次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*1、*2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）		
合計	94				

2年次編入学者が各学期に履修登録できる単位数の上限

この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。

2010～2012年度入学者	2年次の各学期：31単位を限度とします。
2013年度以降入学者	2年次～4年次の各学期：学期ごとに24単位を限度とします。

3年次編入学者		科目区分	単位数	備 考	参照
共 通	基礎教養	4	「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から4単位		*1
	総合課題				
	語 学	-			*2
専 門	選択必修	-			
	専門演習	2			
	①卒業論文 または ②指導教員の 指定する国際交 流学科専門科目	①6 ②6			*3
そ の 他		50	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目 ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限： 8単位まで）		
合 計		62			

*1	「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から計4単位が必修です。
*2	語学科目の履修については、オリエンテーションで配布される資料を参照してください。
*3	「導入演習」、「研究入門」、「基礎演習」、「専門演習」、現地実習科目、集中講義科目を除く。
*4	「研究入門」は4単位まで卒業に必要な単位として認められます。
*5	3年次編入学者は、「基礎演習」を履修することはできません。

ただし、3年次編入学者は、「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。(p.53「キリスト教科目」参照)

カリキュラムの説明

2014年度以降入学者

国際交流学科では、国際交流における総合的知識を自らの特性や志向に合わせて体系的に学べるよう、2014年度からプログラム制を導入します。

1年次は基幹科目群を中心に、各専門分野の基礎を学びます。2年次以降は3つのプログラムのいずれかを選択し、各プログラムの学修目標にそって知識を深めます。

プログラム	概要
国際協力	国際的な政治・経済・法のしくみを学び、国際協力のあり方を理解し、国際的な関係を有する内外の場で社会貢献のために必要な能力を身につけます。 このプログラムでは、平和、貧困、格差、人権、開発など、国境を越えて複雑に絡み合う政治・経済・社会問題を発見し、その原因を探求し、問題を解決する能力を養います。また、現実に展開されているさまざまな国際協力についての知識を深めます。
文化交流	日本及び世界の文化、歴史、思想・宗教と、それらの相互的係わりを学び、現代世界の多様性と複合性を理解し、文化的観点から国際交流に貢献できる能力を身につけます。 このプログラムでは、世界を国家中心に捉える見方を乗り越え、世界各地の文化の多様かつ複合的なあり方を理解することを目指します。そのためにまず個別的な地域(日本、アジアとヨーロッパ、ラテンアメリカ)に注目し、これらの地域の歴史や文化、宗教がどのように影響し合っているのかを学び、文化の多様性を尊重しつつ世界と共存していくための文化交流の歴史的背景と現在についての知識を拡げていきます。
人間環境	自然と社会の環境について学び、地域や生活者の視点から、私たちの暮らしのあり方、調和のための条件等を理解し、他者との共生に貢献する能力を身につけます。 このプログラムでは、暮らしと地球環境、食の地産地消やブランド化、観光の促進、ソーシャルビジネス、メディアの多様化、福祉・格差問題などを世界とつながる身近な課題として捉え、その解決策や改善策を考え、私たちの環境や暮らしを見直し、それらを改善して調和を取り戻し他者と共生することのできる実践力を養います。

2013年度以前入学者

2014年度プログラム制導入に伴って、授業科目のリニューアルを行いました。従来のABC群に基づく必修単位数は変更ありませんが、履修の進め方についてはプログラム制を参考にしてください。ABC群とプログラム制の科目対応表は開講科目表に掲載しています。

また、4年間の個々の学習の成果をまとめる「卒業論文」は、アカデミック・アドバイザーのもとで作成します。「卒業論文」を選択しない学生は、それに代わる単位を修得します。

国際交流や研究にとって非常に大切な語学には、英語のほか初習外国語(フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語)の5言語にインテンシブ・コースが設けられ、少人数での徹底した語学教育が行われます。また、アジア、ヨーロッパ、オーストラリアにおける「現地実習」科目も用意されています。

履修の指針

重要なことは、できるだけ早いうちに自分が何を学びたいかを見つけ、遅くとも3年次からの「専門演習」に進む前までに、自分が研究したいテーマが何かを明確にすることです。そのためにも必修科目に留意しながら、自分が学びたいことを4年間に配分し、有機的かつ総合的に学習することが大切です。

その際に、以下の4点に注意してください。

1. 語学の選択（インテンシブ・コースかスタンダード・コースかを含む）

語学は専門科目の履修と密接な関係があります。1年次前期・後期の語学の履修は、慎重に考えましょう（『語学科目ハンドブック』を熟読してください）。

2. 「導入演習」「研究入門（国際交流学部での学び）」

1年次前期に履修する国際交流学部の学びの基礎を習得する科目です。

3. 「基礎演習」

1年次後期から2年次後期まで各学期1単位を履修します（同一教員のものである必要はありません）。

4. 上記以外の1・2年次の専門科目の履修

最初からたくさん履修するのではなく、自分の学習計画を十分に踏まえて目的に応じた選択をする必要があります。

2009～2013年度以前入学者

配当年次に従ってA・B・C群から合計32単位以上を修得しなければなりません。

2014年度以降入学者

(1) 基幹科目

1年次から2年次の間に学ぶ学科全体に共通する基礎知識を身につける科目で、合計12単位以上を修得しなければなりません。

(2) プログラム科目

2年次前期から3つのプログラムのいずれかに所属します。各プログラムの科目には推奨科目があり、推奨科目6単位以上含む合計20単位以上を修得しなければなりません。

(3) 実践科目

上記(1)(2)の他に、専門分野を英語で学ぶ科目、研究のための調査方法を学ぶ科目、海外実習を通して国際交流の理解を深める科目など、知識を社会で活用するために必要なスキルを身につける科目です。

5. 「専門演習」

3年次前期からひとつを選び履修します。専門演習一覧(p.116)や学科が配布する「専門演習履修の手引き」を熟読し、7分野に渡る「専門演習」から各教員の研究テーマを参考に自分の研究にはどの「専門演習」が適切であるかをあらかじめ検討しておくことが望まれます。

1年次生へ

新入生が、語学や専門分野を決めることは難しいかもしれません。そのような場合には、アカデミック・アドバイザー（1年次前期は「導入演習」、1年次後期および2年次は「基礎演習」担当者）に相談することもできます。

また、オリエンテーション時に配布される「くつきり、しっかり学びのレシピ～国際交流学部学修便覧～」を参考にして、体系的な履修になるよう心がけましょう。

4年間の国際交流学部での学生生活をとおして、自主的な学習に励み、幅広い知識を蓄積し、地球上で日々生起するさまざまな問題を地球市民の一員として考え、世界と未来に向けて平和のメッセージを発信する力を身につけましょう。それが国際交流の原点であるからです。

資格取得を目指す場合、学科専門科目と資格関連科目の時間割が重複し、履修できなくなる可能性も生じるので、1年次より計画的に履修する必要があります。

なお、学生生活や学びに必要な情報は FerrisPassport で確認することができます。また、登校時と下校時には必ず掲示板を見て、自分にとって必要な情報を得てください。

国際交流学科 カリキュラムマップ

★：推奨 *他のプログラムと重複する科目

標準履修年次*

1年次	2年次	3・4年次		
導入演習 研究入門(国際交流学科の学び) 研究入門(歴史からみる現代世界) 研究入門(時事問題を学ぶ)	基礎演習 国際交流への招待 国際関係論 政治学概論 近代国際関係史 戦後国際関係史 グローバル化する社会 グローバル化と労働* グローバル化と生活 人権保障と法 平和思想と運動 国際交流の歴史 現代社会を理解するためのジェンダー理論 日本史概説 A 日本史概説 B 日本の文化交流 横濱学概論 世界史概説 A 世界史概説 B ヨーロッパ近代史 ヨーロッパ現代史 歴史からみるフランス 歴史からみるドイツ 歴史からみるスペイン 語圏* 東アジア・東南アジアの近・現代史 A 東アジア・東南アジアの近・現代史 B 世界の宗教 地球環境 世界の人口問題 グローバル化と労働* グローバル経済 日本経済の歴史 現代の日本経済 社会学概論 A 社会学概論 B	専門演習 国際政治の基礎★ 近代グローバル経済の発展★ 近代日本と国際関係★ ヨーロッパ政治の基礎★ 国際開発の理論と実践★ 国際経済学★ 世界の格差と国際協力★ 比較人権論★ 環境と開発問題の平和学★ 国際社会と法★ 地域の国際交流・協力★* 朝鮮近代史・植民地期★*	専門演習 国際政治の見方 現代グローバル経済の発展 現代日本と国際関係 国際機構とグローバル・イシューズ 地域統合 ヨーロッパ統合論 日米関係史 開発援助論 南アジアの経済 東南アジアと日本の国際協力 途上国と開発経済学 市民社会の国際協力 アフリカを学ぶ 中東を学ぶ 比較政治制度論 国際経済と法 国際機構と国際平和 戦争と平和の学説史 平和構築 安全保障 安全保障政治思想史* 法でみる世界 フランスの政治 南アジアの労働* 朝鮮近代史・開国期* 中国近代史* 韓国現代史* アジアの国際関係 ユーラシアの国際関係* 北ヨーロッパの歴史* イギリスの政治と社会 A アメリカの政治と社会 A 現代アメリカ論 カナダの政治と社会 アジア現地実習(2)	卒業論文 グローバル・ビジネス 人権と世界政治 中国現代史* 北朝鮮現代史* イギリスの政治と社会 B アメリカの政治と社会 B 比較文化論から見た芸能 フランス現代史 ユーラシアの国際関係* 北ヨーロッパの歴史* ヨーロッパ地域論 イギリス史 A イギリスの思想・宗教 A イギリス文化論総説 A アメリカ史 アメリカの思想・宗教 A オーストラリア地域文化研究 A ヨーロッパ世界の芸術 翻訳と文化 朝鮮近代史・開国期* 中国現代史* 韓国現代史* アジア共同体研究 中国の近現代文学 中国の文化と芸術 中国社会の現状を考える 韓国の文化と社会 儒教と世界 前近代の中国思想 近現代中国思想と日本 仏教と世界 イスラームと世界 思想文化論 ヨーロッパ政治思想史* 比較スポーツ論 若者の文化と社会* 情報発信と世界* 環境教育の理念と実践* 住空間デザイン 英語で学ぶグリーン経済とエネルギー 農環境体験実習 海外環境フィールド実習 市民参加の社会形成 地域の国際交流・協力* 南アジアの労働* 横濱学実習★ 地方分権と市民社会 身体と生命の社会学 若者の労働環境 北ヨーロッパの福祉社会 格差社会とアイデンティティ グローバル化する仕事と家族 在日外国人 余暇と旅行 民族問題から見た世界情勢 国際交通ビジネス 国際ブランド・ビジネス ソーシャルラーニング演習 情報が世界を変える メディア文化と社会* 情報とシステムのセキュリティ 若者の文化と社会* Current Global Affairs Japan Studies 英語で学ぶグローバル問題 ヨーロッパ現地実習 オーストラリア現地実習
	文化交流論★ ヨーロッパの文化とジェンダー★ 日本文化の原風景★ ラテンアメリカの歴史と文化★ スペイン現代史 ヨーロッパの文学★ ラテンアメリカの文学★ 中国近代史★* ロシアと現代中国★ ヨーロッパ世界とキリスト教★ 現代思想論★ スポーツと国際社会★ メディア文化と社会★*	文化交流論★ ヨーロッパの文化とジェンダー★ 日本文化の原風景★ 現代社会に見る日本文化 フランス現代史 ユーラシアの国際関係* 北ヨーロッパの歴史* ヨーロッパ地域論 イギリス史 A イギリスの思想・宗教 A イギリス文化論総説 A アメリカ史 アメリカの思想・宗教 A オーストラリア地域文化研究 A ヨーロッパ世界の芸術 翻訳と文化 朝鮮近代史・開国期* 中国現代史* 韓国現代史* アジア共同体研究 中国の近現代文学 中国の文化と芸術 中国社会の現状を考える 韓国の文化と社会 儒教と世界 前近代の中国思想 近現代中国思想と日本 仏教と世界 イスラームと世界 思想文化論 ヨーロッパ政治思想史* 比較スポーツ論 若者の文化と社会* 情報発信と世界* 環境教育の理念と実践*	比較文化論から見た芸能 フランス現代史 ユーラシアの国際関係* 北ヨーロッパの歴史* ヨーロッパ地域論 イギリス史 B イギリスの思想・宗教 B イギリス文化論総説 B アメリカの思想・宗教 B オーストラリア地域文化研究 B 朝鮮近代史・植民地期* 北朝鮮現代史* 日本政治思想史	
	資源問題★ 環境教育の理念と実践★* 地域と食文化★ 観光文化論★ 現代家族と福祉★ 移住と文化の理論★ 企業と社会貢献★ Globalization Studies ★ 地誌★ 人文地理学 ソーシャルメディアの基礎知識★ 情報発信と世界★ 統計で学ぶ社会問題(基礎) 統計で学ぶ社会問題(応用) 英語で学ぶ社会科学 英語で学ぶ人文科学	自然地理学 都市生活の空間デザイン 環境共生型ライフスタイル 環境と社会運動 英語で学ぶグリーン経済と農業 地域ブランドの育て方 農環境体験実習 海外環境フィールド実習 市民参加の社会形成 地域の国際交流・協力* 南アジアの労働* 横濱学実習★ 北ヨーロッパの福祉社会 格差社会とアイデンティティ グローバル化する仕事と家族 在日外国人 余暇と旅行 民族問題から見た世界情勢 国際交通ビジネス 国際ブランド・ビジネス ソーシャルラーニング演習 情報が世界を変える メディア文化と社会* Current Global Affairs Japan Studies 英語で学ぶグローバル問題 ヨーロッパ現地実習 オーストラリア現地実習	住空間デザイン 英語で学ぶグリーン経済とエネルギー 農環境体験実習 海外環境フィールド実習 地方分権と市民社会 身体と生命の社会学 若者の労働環境 情報とシステムのセキュリティ 若者の文化と社会*	

標準履修年次*

学科が定める「履修が望ましい、または履修を開始できる年次」です。
履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。

国際交流学部 カリキュラム・マップ・履修の進め方

履修の進め方

専門科目の履修

2014年度以降入学者

国際交流学科では、2年次から国際協力、文化交流、人間環境の3つのプログラムから1つを選択し、選択したプログラムに沿って履修を進めていきますが、他の2つのプログラムの科目も履修することができます。

2013年度以前入学者

国際交流学科の専門科目は、A群：地球社会、B群：国際社会・文化、C群：国際社会基礎理論の3群によって構成されています。この3群は、コースではありません。したがって、どの群の授業科目も、自由に選択することができます。履修にあたっては、開講科目表（別冊）の「履修年次」「備考」及び「履修方法」欄の記載を確認してください。

必修科目の「導入演習」「研究入門」「基礎演習」「専門演習」については、次のとおり履修方法が定められています。

		必修科目			アカデミック・アドバイザー	
1年次	前期	「導入演習」 1単位必修	クラス指定	「導入演習」 「基礎演習」 担当者	*1 2013年度以前入学者は「研究入門(1)～(23)」の中から1科目を選択	
	後期	「研究入門」*1 2単位必修	「研究入門(国際交流学部での学び)」			
2年次	前期	「基礎演習」 1単位必修	1科目を選択	「基礎演習」 担当者	後期「基礎演習」担当者が3年次「専門演習」の選択・決定の指導を行います。	
	後期	「基礎演習」 1単位必修	1科目を選択			
3年次	前期	「専門演習」 1単位必修	1科目を選択	「専門演習」 担当者	同一教員が学生のアカデミック・アドバイザーとなり、授業科目履修及び研究の指導を行います。	
	後期	「専門演習」 1単位必修	1科目を選択			
4年次	前期	「専門演習」 1単位必修	「卒業論文」*2 (通年科目) 6単位必修	「専門演習」 担当者	*2 「卒業論文」のかわりにアカデミック・アドバイザーの指定する国際交流学科専門科目6単位によって代えられる場合があります。この場合、4年次の「専門演習」は選択となります。詳細は、p.117を確認してください。	
	後期	「専門演習」 1単位必修				

プログラム選択手続き及び「導入演習」「基礎演習」「専門演習」の履修について

プログラム選択及び演習科目の手続き、案内等はすべて学科が行い、窓口は国際交流学部共同研究室となります。

周知等については FerrisPassport、8号館掲示板に留意してください。必要な手続きを行わない学生は履修が認められません。

1. 専門演習の履修条件

「専門演習」の履修には、「基礎演習」を2単位以上修得している必要があります。
(ただし2年次編入学者を除く)

2. 留学等の理由による「基礎演習」及び「専門演習」の規定学期以外の履修

交換留学、認定留学及び学生交流により、規定された履修年次・学期に履修することができない場合、2つ並行して履修することが認められます。

詳細については学科の指示に従ってください。なお、卒業予定学期に留学することは認められません。

3. 「専門演習」の分野、テーマ一覧

国際交流学科には、次の「専門演習」が設けられます。オリエンテーション時に配布する「専門演習履修の手引き」と併せて、4年間の履修計画を立てる上での参考としてください。

分 野	教 員 名	2014年度テーマ	
1. 地球環境を学ぶ	佐藤 輝	環境問題	
	高雄 綾子	持続可能な開発のための学び	
2. 思想・文化を学ぶ	アジア	江上 幸子	中国の社会・文化・ジェンダー
		笥 雅博	日本文化（現代の日本社会の諸状況を含む）
		金 香男	韓国の社会と文化
	ヨーロッパ	大野 英二郎	フランスを中心とするヨーロッパと日本の交流の歴史
		田丸 理砂 (2014年度休講)	ドイツ語圏の文化とジェンダー
		寺尾 隆吉 (2014年度休講)	越境するポピュラー・カルチャー
		横山 安由美	フランスの文化と社会
3. 歴史・社会を学ぶ	アジア	鄭 浩瀾	近現代中国研究
		大西 比呂志	横浜を中心とする地域学
		並木 真人	朝鮮半島の歴史と社会～韓流を越えて
		福島 仁	中国社会近代化の理論
	ヨーロッパ	上原 良子	ヨーロッパ国際関係とフランス
		中塚 次郎	スペインの政治・社会・文化
		矢野 久美子	ヨーロッパの現代社会（ドイツを中心として）
アメリカ	ヒガ, マルセーロ	現代社会と移民：ラテンアメリカにおける人間の交錯	
4. 法を学ぶ	荒井 真	日本および世界における様々な法律問題を考察し、論じる。	
	常岡(乗本) せつ子	基本的人権や平和などの憲法問題 (諸外国との比較や外国の研究者による日本研究を含む)	
5. 国際関係を学ぶ	馬橋 憲男	グローバル問題と地球市民の取り組み	
	古内 洋平	現代国際社会の秩序	
6. 経済を学ぶ	木曾 順子	開発途上国の貧困と発展	
	八幡 清文	世界各国・地域の経済の動向 グローバル化と日本の経済・社会	
	齊藤 直	戦後の日本経済と経営	
7. 現代社会を学ぶ	高柳 彰夫	国際協力と市民社会	
	春木 良且	技術と社会 (プロジェクト学習で技術のトレンドをキャッチアップする。)	
	ベンヤミン・ミルトン	グローバル化する現代社会のさまざまな問題を社会学の観点から取り上げる。	
	横山 正樹	アジア太平洋地域における開発・環境問題の平和学	
	和田 浩一	スポーツと国際社会	

「卒業論文」又は「卒業論文」に代わる国際交流学科専門科目6単位について

4年次には卒業論文を執筆します。

ただし、卒業論文に代えて学科専門科目6単位を修得することができます。この場合は3年次後期の所定の期日（12月初旬）までに、3年次アカデミック・アドバイザー（「専門演習」担当者）と相談の上決定し、手続きを行ってください。なお、手続きの詳細については8号館掲示板で確認してください。

1. 卒業論文を執筆する場合

(1) 専門演習の履修

4年次の「専門演習」は選択ですが、「卒業論文」を提出しようとする者は、4年次に「専門演習」を履修しなければなりません。

(2) 履修手続き、提出方法

「卒業論文」（通年科目）は4年次、自動的に登録されます。提出方法については、p.35「卒業論文」を見てください。

2. 卒業論文に代わる学科専門科目6単位を選択する場合

(1) 科目の指定、指定対象除外科目

3年次アカデミック・アドバイザーが指定する国際交流学科専門科目6単位を、4年次の前期・後期にわたって履修しなければなりません。

ただし、「導入演習」「研究入門」「基礎演習」「専門演習」、現地実習科目、集中講義科目、履修者数制限科目、初回授業選抜科目は指定対象除外科目ですので指定できません。

(2) 科目指定手続き、履修登録方法

(1) で指定された科目を国際交流学部共同研究室に提出する必要があります。提出後、履修登録は各自で行います。

(3) 指定科目未修得時の再指定

4年次前期に指定科目の単位修得ができなかった場合は、9月アドバイザー面談でアカデミック・アドバイザーから再指定を受ける必要があります。再指定後の手続き等は(2)のとおりです。

(4) 1（卒業論文）から2（学科専門科目6単位選択）への変更

4年次前期、後期開始前に変更が可能です。変更を希望する場合には学科（国際交流学部共同研究室）に申し出て必要な手続きをとってください。

履修上の注意（卒業延期者対象）

卒業延期が確定した学生のうち、次に該当する者は、卒業予定学期開始時に教務主任（p.166）に申し出て指示を受けてください。追加登録または再指定が認められる場合があります。

- ① 卒業論文選択において「基礎演習」・「専門演習」の志望票未提出等の理由により履修登録が完了していない。
- ② 6単位選択において成績評価が不合格となった等の理由により指定科目が未修得。

「現地実習」科目

現地実習科目には、「アジア現地実習 (2)」「ヨーロッパ現地実習」、「オーストラリア現地実習」があります。履修の流れ、手続等は下記の表を参照してください。

現地実習科目

対象科目 (単位数)	「アジア現地実習 (2)」(2単位)	
実習先	フィリピン	
参加人数	5~10名程度	
参加資格	資格として要求しませんが、英語の理解・表現能力は重要となります。	
スケジュール	2014年4月中旬	説明会に参加。
	2014年4月中旬	「実習参加申し込み」を海外交流課に提出。 申し込み方法については、説明会及び掲示で指示します。 以後、数回にわたり実習先ごとの説明会を行います。
	2014年9月中	実習 (フィリピン)
履修登録	履修登録は大学側で行います。登録状況を確認してください。	

対象科目 (単位数)	「オーストラリア現地実習」(2単位)	
実習先	ボンド大学 (オーストラリア・ゴールドコースト市)	
参加人数	10~20名	
参加資格	資格として要求しませんが、次のとおり選考基準を設けます。 ①オーストラリアへの関心 ②国際交流学部生優先 ③学年 (上級生優先) ④語学力 ⑤ GPA	
スケジュール	2014年4月中旬	説明会に参加。
	2014年4月下旬	「実習参加申し込み」を海外交流課に提出。 申し込み方法については、説明会及び掲示で指示します。
	2014年8月~9月	現地実習 (オーストラリア)
履修登録	履修登録は大学側で行います。登録状況を確認してください。	

*「ヨーロッパ現地実習」は、2014年度休講。

音楽学部

音楽芸術学科

演奏学科

音楽学部の人材養成目的

西洋音楽の根幹であるキリスト教音楽を基盤として、音楽の領域に関する高度の教育研究を行い、専門的な知識・能力・技術を持ち、かつ音楽界を多様に支える素養を兼ね備えた人材を養成する。(学則第2条の2)

音楽芸術学科

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

音楽創造、音楽表現、音楽文化の領域における総合的な理解とともに、音楽で人と社会を結ぶための知識やスキルの修得を主眼とし、音楽のジャンルを越えた多彩な学びの中で、音楽と社会の接点を見すえ、幅広く社会で活躍する人材を育成する。

◆ディプロマ・ポリシー

音楽文化の創造や情報の発信、地域社会での音楽活動などに必要な幅広い知識やスキルを身に付け、音楽で人と社会を結び、社会に貢献できる能力をもつ者に「学士（音楽）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

音楽創造、音楽表現、音楽文化の基礎から実践まで、幅広い教育を展開し、共通科目を含めた多様な授業科目の中から、音楽と社会の接点を見出して、自分の能力を開発できる力を養う。

卒業に必要な単位数

科目区分		単位数	備 考	参照	
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1	
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1	
	語 学	8		*2	
専門	選択必修	1群 4	かつ合計 34単位 以上	1群から4単位以上	
		2群 2		2群から2単位以上	
		3群 -			
		4群 2		4群から2単位以上	
		5群 2		5群から2単位以上	
		6群 4		6群から4単位	
	卒業プロジェクト	6			
その他	72	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）			
合 計	124				

*1	「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から2単位、計4単位が必修です。
*2	語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。 なお、語学の履修方法は、pp.73～76をご覧ください。
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2012年度以降入学者</div> <p>1年次～4年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">2011年度以前入学者</div> <p>1年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに23単位を限度とします。 同じく2年次は、25単位とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。</p>
	外国人留学生は、上記の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細は p.140を参照してください。 ①「日本事情 A、B」から4単位 ②「留学生日本語」から10単位

3年次編入学者の卒業に必要な単位数

3年次編入学者は、編入学後2年の間に62単位を修得することが卒業要件となります。ただし、「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。(p.53「キリスト教科目」参照)

編入学者の卒業に必要な単位数

科目区分		単位数	備 考	参照
共通	基礎教養	4	「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から4単位	
	総合課題			
	語学	-		
専門			3、4年次配当の必修科目、選択必修科目	
	その他		次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：前頁*2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）	
	合 計	62		

カリキュラムの説明

音楽芸術学科では「音楽で人と社会を結ぶ」をテーマに、リベラルアーツ型の音楽教育カリキュラムが展開されています。

1) 新時代の音楽文化クリエイター、2) “For Others”を社会で実践する音楽コミュニケーション・リーダー、3) 新しいタイプの音楽教育者など、各自の目標を設定し、それにあったカリキュラムを組み立てます。カリキュラムは以下7つの群から構成されます。

第1群：音楽を学ぶ上で不可欠な基礎理論・基礎実技を学びます。

第2群：本学の建学の精神であるキリスト教についての理解を、音楽を通して深めます。

第3群：第1群で養った音楽性をさらにスキルアップ。

第4群：音楽の背景を、歴史・理論などの観点から深く学ぶための科目です。

第5群：社会実践コミュニケーションに関する科目群で、現代的な内容の多彩な科目から構成されます。

第6群及び第7群：おもに3～4年次のゼミ関連の科目です。所属ゼミで専門を深め、最終的に「卒業プロジェクト」を完成させます。

群ごとに、修得すべき単位数が「～単位以上選択必修」と示されていますが、これは「最低これだけは必要」という数を示したものにすぎません。本格的に勉強するためには、自分からすすんで、いろいろな科目を学んでください。

音楽芸術学科の演奏実技科目は、グループレッスンまたは演習形式で行われます。第1群の「基礎ピアノ」「基礎声楽」は、それぞれ1年間ずつ履修することができるグループレッスンです。さらに第3群の「即興演奏ワークショップ」「邦楽」「ジャズ・ヴォーカル・ワークショップ/ジャズ・ポップス実践ワークショップ」で演奏経験を広がられます。3～4年次に音楽コミュニケーション系のゼミを選択すれば、演奏関連の演習に参加できます。また、必要に応じて演奏学科の「PA 副科個人実技」を別料金で追加履修することもできます。

なお、教員免許の取得を希望する場合には、教育実習において実習校でピアノ他楽器等を演奏できる必要がありますので、計画的に準備を進めてください。

4年間の履修の指針

自由度の高いカリキュラムが特徴ですので、そのメリットをいかし、とくに1～2年次は幅広い分野に挑戦しましょう。音楽学部の専門科目だけでなく、共通科目（語学・基礎教養・総合課題）、他学部の専門科目なども積極的にチャレンジしてみてください。

緑園校舎でしか開講されない科目（とくに基礎教養や語学に関連した必修科目）は、1～2年次に履修しておきましょう。3～4年次になると、山手校舎で開講される科目が増えます。

1～2年次に、いろいろな分野にチャレンジしつつ自分の適性をみきわめたら、3～4年次には専門の学びを本格的に始めます。3～4年次は、いずれかの専門ゼミに所属し、ゼミ担当教員が専門とする分野について研究実践を深め、「卒業プロジェクト」を完成します。所属ゼミは、学生の希望に基づき、学科が選考・決定します。選考は2年次後期に行います。選考に際して、1～2年次の学修成果が問われることがあります。

卒業要件単位の124単位を4年間にバランスよく振り分けるように計画してください。4年間のうちには、留学・就職活動・教育実習・海外語学研修など、さまざまな予定も入ってきます。あらかじめ計画をたてて学習をすすめてください。

音楽芸術学科 カリキュラムマップ

標準履修年次*	1年次	2年次	3年次	4年次
1群 ミュージシャンシップを養う	音楽家の基礎知識 音楽基礎理論 合唱Ⅰ A 合唱Ⅰ B 基礎声楽 A 基礎声楽 B 基礎ピアノ A 基礎ピアノ B 和声Ⅰ A 和声Ⅰ B ソルフェージュⅠ A ソルフェージュⅠ B	ソルフェージュⅡ A ソルフェージュⅡ B		
2群 キリスト教音楽を体験する	賛美歌学	キリスト教音楽概論1 キリスト教音楽概論2	キリスト教音楽実践	
3群 ミュージシャンシップを高める	ジャズ・ポップス入門	合唱Ⅱ A 合唱Ⅱ B 和声Ⅱ A 和声Ⅱ B 伴奏法 A 伴奏法 B 作品分析 ポピュラー音楽理論 邦楽1 邦楽2	対位法 A 対位法 B 共演芸術 A 共演芸術 B 即興演奏ワークショップ ジャズ・ヴォーカル・ワークショップ	編曲のテクニック
4群 音楽の背景を知る	西洋音楽通史 日本音楽通史 音楽社会学	諸民族の音楽 A 諸民族の音楽 B ポピュラー音楽史 映画・舞台音楽論 映画舞台音楽論 (2) 現代音楽レパートリー 楽器法	西洋音楽史特殊講義1 西洋音楽史特殊講義2 日本音楽史特殊講義	
5群 社会実践コミュニケーション	医療と音楽 心と音楽	音楽情報論 マルチメディア著作権ビジネス メディア・アート コンピュータ音楽制作1 作・編曲法 音楽ジャーナリズム アート・マネージメント 舞台制作ワークショップ 身体表現ワークショップ1 身体表現ワークショップ2 音響機器ワークショップ 録音実技ワークショップ アナウンス・朗読 ミュージカル・ナンバーを歌う 日本歌曲・童謡を歌う 作曲を楽しもう A 作曲を楽しもう B バンドを楽しもう アンサンブルを楽しもう	コーラスリーダーワークショップA コーラスリーダーワークショップB 合奏 指揮法 A 指揮法 B コンピュータ音楽制作2 アニメ・ゲーム音楽制作 環境音楽デザイン 映像音楽制作ワークショップ 番組制作ワークショップ 音楽療法1 音楽療法2	
6群 専門を深める	基礎演習	応用演習 海外音楽研修	専門ゼミⅠ 専門ゼミⅡ 学外公开发表Ⅰ	専門ゼミⅢ 専門ゼミⅣ 学外公开发表Ⅱ
7群 専門を極める				卒業プロジェクト

標準履修年次* 学科が定める「履修が望ましい、または履修を開始できる年次」です。履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。

履修の進め方

専門科目の履修

1. 「基礎演習」「応用演習」

「基礎演習」は1年次、「応用演習」は2年次に全員が履修する科目です。

履修する学期については、学科が決定します。原則として変更は認められません。

「基礎演習」「応用演習」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度に再履修することになります。各自、学期始めの履修相談で学科教務教員の指示に従うこと。

2. 「専門ゼミⅠ～Ⅳ」について

(1) 「専門ゼミⅠ・Ⅱ」：3年次に履修

- ① 選考：所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考、決定します。選考は、2年次後期に行いますが、詳細は後期開始後に発表します。
- ② 再履修：「専門ゼミⅠ・Ⅱ」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に「専門ゼミⅢ・Ⅳ」と並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(2) 「専門ゼミⅢ・Ⅳ」：4年次に履修

- ① 所属ゼミは原則として3年次の「専門ゼミⅠ・Ⅱ」の担当者とし、その担当者のもとに卒業プロジェクトのための指導を受けることとなります。
- ② 再履修：「専門ゼミⅢ」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「専門ゼミⅣ」を重複して履修することが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(3) 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学、認定留学及び学生交流により、規定された履修年次・学期に「専門ゼミ」を履修することができない学生については、3年次履修分の「専門ゼミ」と4年次履修分の「専門ゼミ」を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

3. 海外・学外における演奏活動に対して単位が与えられる授業科目

海外・学外における演奏活動、論文や作品の発表、音楽療法、演奏会等の企画・制作・運営等の実習に対して単位が与えられる科目は次のとおりです。

履修する学生はシラバスを参照の上、手続を行うこと。

授業科目名	内 容	履修対象
「海外音楽研修」	海外における音楽コンクールや講習会、公開レッスン参加等	音楽芸術学科・演奏学科
「学外公开发表Ⅰ・Ⅱ」	学外におけるプロジェクト（作品・論文・演奏）の発表	音楽芸術学科3・4年次生

4. 卒業プロジェクト

卒業プロジェクトは、卒業する年度に提出することとします。「卒業プロジェクト」の単位認定は、卒業する年度に限ります。卒業論文等の題目提出時に、卒業論文もしくは卒業制作のうちいずれか一方を選択しなければなりません。また、原則として題目提出後の変更は認められません。卒業論文および卒業制作として認められるものには、それぞれ必要となる要件が定められています。要件などの詳細に関しては、掲示等に留意してください。

なお、「卒業プロジェクト」（通年科目）は4年次に自動的に登録されます。

演奏学科

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

キリスト教を基盤とする西洋伝統音楽の本質と文化的・歴史的な背景に対する理解を深め、確かな演奏技術と豊かな表現力を修得させ、広く社会に貢献する多彩な人材を育成する。

◆ディプロマ・ポリシー

西洋伝統音楽の本質と文化的・歴史的な背景に関する知識と教養、確かな演奏技術、豊かな表現力を身に付け、演奏及びそれを中心とした様々な音楽分野で社会に貢献できる能力をもつ者に「学士（音楽）」の学位を授与する。

◆カリキュラム・ポリシー

西洋伝統音楽に対する理解を深め、演奏技術と表現力の向上を図るための専門性の高い科目群と卒業後の将来を考えるための科目群によってカリキュラムを編成し、演奏及びそれを中心とした音楽活動に幅広く対応できる総合的な能力を養う。

卒業に必要な単位数

2014年度以降入学者

科目区分		単位数	備 考	参照	
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1	
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1	
	語 学	8		*2	
専門	必 修	1	「導入セミナー」		
		2	「2年次修了公開演奏」		
		4	「卒業公開演奏」		
	選択必修	39	1群から	24 単位	
			2群（「導入セミナー」を除く）から	6 単位	
			3群（「2年次修了公開演奏」「卒業公開演奏」を除く）から	1 単位	
			4群から	2 単位	
			5群から	2 単位	
		6群から	2 単位		
		7群から	2 単位		
そ の 他	66	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*2のとおり） ・選択必修科目として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件算入可能な科目（上限：8単位まで）			
合 計	124				

2011～2013年度入学者

科目区分		単位数	備 考	参照	
共通	基礎教養	2	「キリスト教Ⅰ」 2単位	*1	
	総合課題	2	「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から2単位	*1	
	語 学	8		*2	
専門	必 修	3	「2年次修了公開演奏」		
		6	「卒業公開演奏」		
	選択必修	46	「専攻実技科目」から	24 単位	
			「ソルフェージュ」群から	4 単位	
			「アンサンブル科目」群から	6 単位	
			「演奏研究」群から	8 単位	
			「キリスト教音楽」群から	2 単位	
		「からだエクササイズ」群から	2 単位		
そ の 他	57	次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。 ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで）			
合 計	124				

*1	「キリスト教Ⅰ」2単位、「キリスト教Ⅱ」及び「キリスト教Ⅲ」から2単位、計4単位が必修です。
*2	語学科目の修得単位は、必修単位も含め32単位まで卒業に必要な単位として認められます。 なお、語学の履修方法は、pp.73～76をご覧ください。
	<p>2012年度以降入学者</p> <p>1年次～4年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに24単位を限度とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。</p> <p>2011年度以前入学者</p> <p>1年次の各学期に履修登録できる単位数は、学期ごとに23単位を限度とします。 同じく2年次は、25単位とします。 この上限には、共通科目、専門科目、教職科目、単位互換も含まれます。</p>
	<p>外国人留学生は、左記の表にかかわらず、次のとおり必修科目が定められています。詳細は p.196を参照してください。</p> <p>①「日本事情 A、B」から4単位 ②「留学生日本語」から10単位</p>

3年次編入学者の卒業に必要な単位数

3年次編入学者は、編入学後2年の間に62単位を修得することが卒業要件となります。ただし、「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」に代えて「キリスト教」関連科目を履修することが認められます。(p.53「基礎教養科目」参照)

編入学者の卒業に必要な単位数

科目区分		単位数	備 考	参照
共 通	基礎教養	4	「キリスト教Ⅰ」、「キリスト教Ⅱ」、「キリスト教Ⅲ」から4単位	*1
	総合課題			
	語 学	-		*2
専 門			3、4年次配当の必修科目、選択必修科目	
	そ の 他		<p>次の科目は、卒業に必要な単位として認められます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必修として規定された以上に、共通科目から自由に選択した科目（上限：*2のとおり） ・選択必修として規定された以上に専門科目から選択した科目 ・他学部、他学科が開放する専門科目から自由に選択した科目 ・「教職に関する科目」のうち、卒業要件単位算入可能な科目（上限：8単位まで） 	
	合 計	62		

編入学者に適用されるカリキュラム

2013年度以降入学の3年次編入学者……………2011～2013年度入学者のカリキュラムが適用されます。

カリキュラムの説明

2014年度以降入学者

演奏学科の学習プログラムは8つのカテゴリーに分けられています。

1) 専攻実技個人レッスン

それぞれの担当教員が、学生のレベルに合った適切な個人指導を行い、各学期の終りには実技試験がおこなわれます。2年次の終りの試験は「2年次修了公開演奏」としてフェリスホールで行われ、学習成果を自分で感じ取り、また客観的にチェックするよい機会となるでしょう。4年間の学習の総括としては、「卒業公開演奏」を行います。

2) 基礎を身につけよう

学習を始めるにあたり、音楽全般のベースとなる重要なカテゴリーです。

「導入セミナー」では学びを始めるにあたり、大切な講義が全員を対象に行われますので履修ください。ソルフェージュは、プレースメントテストにより、初心者から上級者まで、レベル別のクラス分けを実施します。

3) ステージ経験をつもう

「2年次修了公開演奏」は1・2年での成果を公開形式で行うコンサートです。舞台上で聴衆を前に演奏する経験を元に3・4年での学びの指針を探求します。

4) アンサンブルを極めよう

アンサンブルは他者とのコミュニケーションのとり方について学ぶ重要な場です。共生の意識を体感・実践できる大切な機会でもあります。専攻実技ごとに必ず参加できるカリキュラムが設けられていますから、他者との響きを各ジャンルで創りあげていきましょう。

5) レパートリーを築こう

それぞれのカテゴリーでアンサンブル、ソロを含みながらより幅広いレパートリーが身につくように工夫されています。

6) 知識を深めよう

音楽を学ぶ上で重要な背景研究、また、キリスト教主義の本校で最も大切なキリスト教と音楽との関わりなど専攻実技のみならず大切な音楽的土台を作るカテゴリーです。

7) 教える技術を身につけよう

学ぶ立場から指導する立場に移行していく時、必須な授業が用意されています。

8) PA科目 表現の幅を上げよう

パフォーマンスアーツ科目の略語です。専攻外の実技を個人、グループサイズで学ぶことができ、また、第二専攻個人実技として主専攻実技につぐ学びをすることも可能です。新設のPA第2専攻グループ実技(バレエ)では、本格的なクラシックバレエを目指せるような指導を受けることも可能です。ただし、PA科目は実技料別納となります。

4年間の履修の指針

授業は1・2年生が緑園校舎、3・4年生が山手校舎で展開するよう配置されています。4年間を通して週1回の専攻実技レッスンを最も重要なものとして、レッスンに集中できる無理のない時間割を作成しましょう。特に、1・2年生は総合大学の特色を生かした授業の履修をすることができる時期ですので、音楽学部の専門科目だけでなく、共通科目（語学、基礎教養、総合課題）、また他学部の専門科目などにも積極的にチャレンジしましょう。2年次終了時に実施される専攻実技試験は「2年次修了公開試験」として一般聴衆の前での演奏となります。3・4年次では山手に移りより深く専攻実技にとりくめるように、1・2年次緑園での履修はあらかじめ計画性を持って行ってください。「卒業公開演奏」までに、大学院進学、留学、専門分野での就職、音楽分野での起業、一般就職など、学部卒業後の大事な人生設計の大まかな構図が描けるよう自身の適性を慎重に見つめてゆきましょう。

また、教職をめざす人は教職課程のページをまず熟読し、4年間を通しての綿密な履修計画を立てましょう。卒業要件単位124単位をバランスよく振り分けるよう計画しましょう。

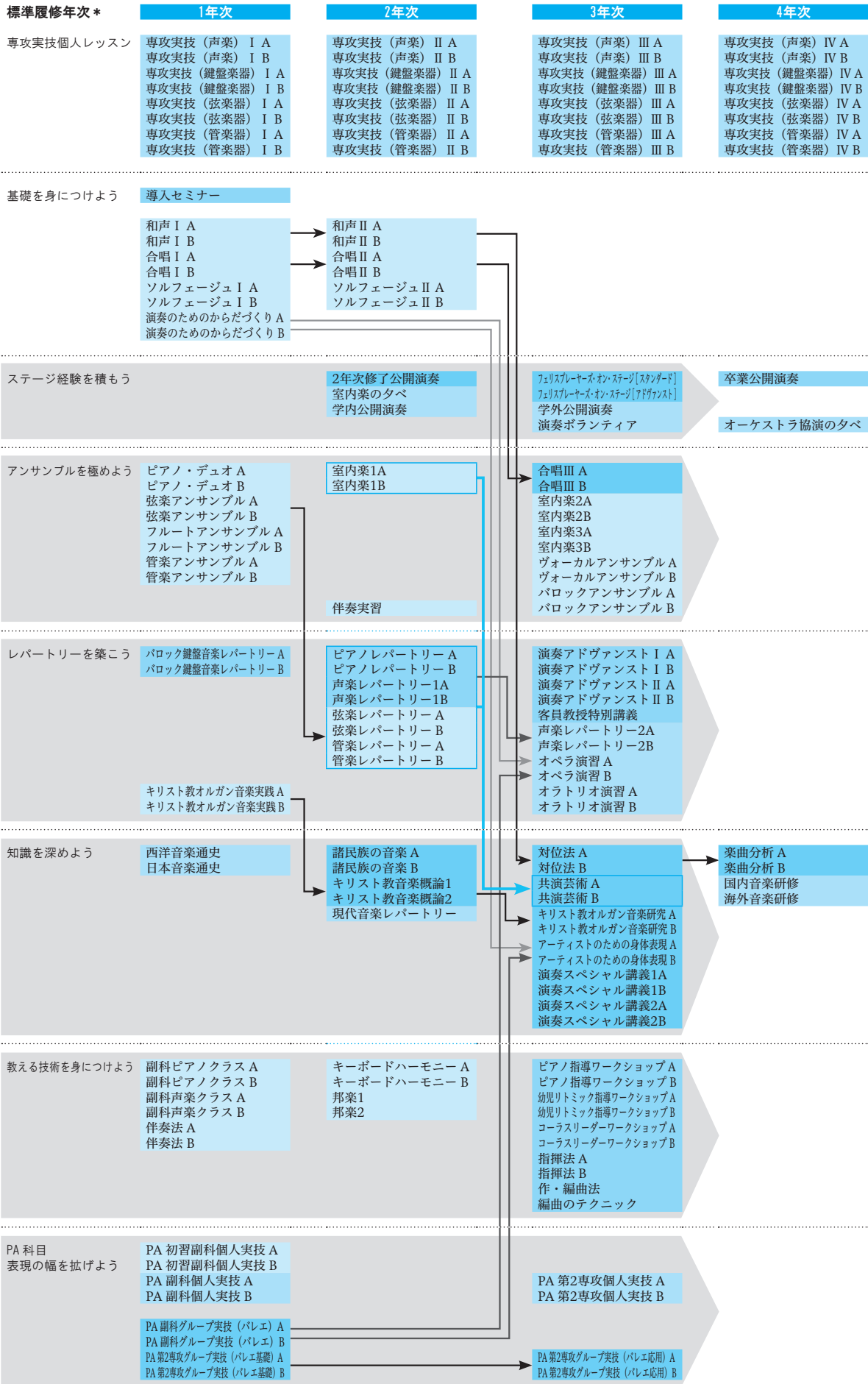
2011～2013年度入学者

2013年度学生要覧を参照してください。

2010年度以前入学者

2010年度学生要覧を参照してください。

演奏学科 カリキュラムマップ



標準履修年次* 学科が定める「履修が望ましい、または履修を開始できる年次」です。履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。

履修の進め方

専門科目の履修

2011年度、2014年度に演奏学科のカリキュラム改定があり、専門科目名の変更や、科目新設がなされました。このことに伴い、学生要覧上「カリキュラム表」「開講科目表」は、2014年度以降入学者、2011年度～2013年度入学者、2010年度以前入学者で異なります。

1. 実技レッスンについて

音楽学部演奏学科で開講されている実技レッスン科目は以下のとおりです。

(1) 必修

科目名	時間数	実技料	履修手続
専攻実技 I A～IV B (専攻実技 I～VIII)	45分×15回※	なし	申込時期：履修登録期間 FerrisPassport で履修登録。

再履修について

再履修の方法については、音楽学部教務委員の指示に従ってください。

なお、演奏学科生が「専攻実技 I A・B～IV A・B」または「専攻実技 I～VIII」を再履修する場合、再履修料として1科目につき100,000円を納入しなければなりません。

(2) 選択必修

科目名	時間数	実技料	履修手続
演奏プロフェッショナルスタディ A,B	15分×15回※	なし	申込時期：履修学期の前学期 受付場所：音楽学部共同研究室 詳細は掲示を確認。
専攻実技特別レッスン	45分×15回	なし	

(3) 選択

科目名	時間数	実技料	履修手続
PA 初習副科個人実技 A,B	15分×15回	50,000円	申込時期：履修学期の前学期 受付場所：音楽学部共同研究室 詳細は掲示を確認。
PA 副科個人実技 A,B (第2副科個人実技 A,B)	30分×15回	100,000円	
PA 第2専攻個人実技 A,B (第2専攻実技 V～VIII)	45分×15回※	150,000円	申込時期：2年次後期 後期実技試験期間にオーディションを実施。詳細は掲示を確認。
PA 副科グループ実技 A,B(バレエ) (第2副科実技(バレエ)A,B)	90分×15回	30,000円	申込時期：履修登録期間 詳細は掲示を確認。
PA 第2専攻グループ実技 (バレエ基礎)A,B	90分×30回	60,000円	
PA 第2専攻グループ実技 (バレエ応用)A,B	90分×45回	90,000円	

※ 授業回数15回の中に、実技試験も含まれます。

注) カッコ内は、2010年度以前入学者用カリキュラムの科目名です。

実技レッスンの出欠席について

① レッスン受講時

「レッスン受講票」の学生サイン欄に必ずサインを記入してください。

② レッスンをやむを得ず欠席する場合

必ず事前にレッスンの開講されている校舎の音楽学部副手室（緑園5号館）または音楽学部共同研究室（山手8号館）に連絡し、同時に担当教員にも連絡してください。

③ レッスンの休講

FerrisPassport に掲示されます。直接担当教員から連絡を受けて、休講掲示がない場合は、音楽学部共同研究室（山手8号館）又は教務課で確認してください。

2. 「導入セミナー」（2014年度以降入学者）

1年次前期に全員が履修する必修科目です。

「導入セミナー」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の前期に再履修することになります。

3. 2年次修了公開演奏（2011～2013年度入学者、2014年度入学者）

2年次後期に全員が履修する必修科目です。

(1) 2年次修了公開演奏は、後期の実技試験期間中に公開演奏会として行います。

(2) 2年次修了公開演奏に関わる日程は、掲示により通知します。

(3) 2年次修了公開演奏に関する諸事項は、「実技試験受験上の注意」に準じます。（p.136「実技試験」参照）

(4) 2年次修了公開演奏を修得できなかった場合には、「専攻実技ⅡB」の履修学期に再履修することとなります。再履修の方法については、音楽学部教務委員の指示に従ってください。

4. ステージ経験を積もう（2014年度以降入学者）

「ステージ経験を積もう」の科目は以下のとおりです。履修する学生はシラバスを参照の上、手続きを行ってください。

科目名	単位	対 象	履修年次
室内楽の夕べ	2	オーディションで選抜された者	234
オーケストラ協演の夕べ	3	オーディションで選抜された者	234
学内公開演奏	1	履修希望者	234
学外公開演奏	1	履修希望者	34
演奏ボランティア	1	履修希望者	234
フェリスプレーヤーズ・オン・ステージ [スタンダード]	2	「演奏アドヴァンストⅠA,B」「演奏アドヴァンストⅡA,B」履修者のうち、オーディションで選抜された者。	34
フェリスプレーヤーズ・オン・ステージ [アドヴァンスト]	3		34

5. 演奏活動に対して単位が与えられる授業科目

海外・学外における演奏活動、論文や作品の発表、音楽療法、演奏会等の企画・制作・運営等の実習に対して単位が与えられる科目です。

履修する学生はシラバスを参照の上、手続きを行ってください。

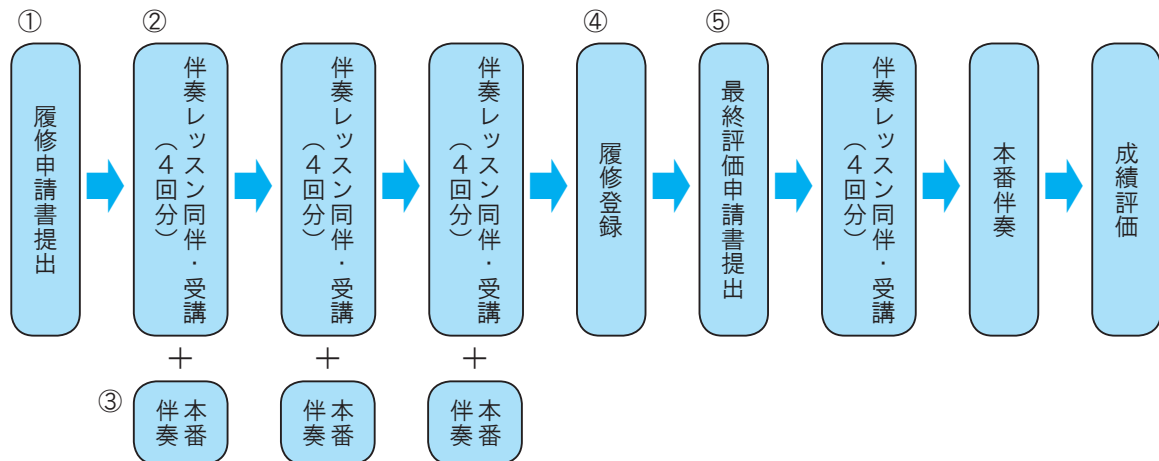
科目名	内 容	履修対象
「国内音楽研修」	国内における音楽コンクールや講習会、公開レッスン参加等	演奏学科
「海外音楽研修」	海外における音楽コンクールや講習会、公開レッスン参加等	音楽芸術学科・演奏学科
「学外公開演奏」	学外における演奏会等出演	演奏学科
「学外公開発表Ⅰ・Ⅱ」	学外におけるプロジェクト（作品・論文・演奏）の発表	音楽芸術学科3・4年次生

6. 学内演奏・学内ソロ・コンサート（2010年度以前入学者）

2013年度学生要覧を参照してください。

7. 「伴奏実習」

実技試験（専攻実技）、学内演奏、学内オーディション等において、計4回以上の本番伴奏を行うことにより単位が与えられる授業科目です。履修の流れは、原則として下図のとおりです。



① 「伴奏実習履修申請書」の提出

伴奏実習を開始する学期始めに、「伴奏実習履修申請書」を提出してください。履修申請は、履修可能な年次生でなければできません。

【「伴奏実習履修申請書」提出締切日】

	提出締切日	書類配布・提出窓口
前期	2014年4月17日（木）	音楽学部共同研究室（山手8号館） 音楽学部副手室（緑園5号館）
後期	2014年10月1日（水）	

② 伴奏レッスンの同伴・受講

本番伴奏を行うためには、同一学生・同一教員のもとで、専攻実技レッスン履修者の伴奏者として、4回分のレッスンに同伴し、受講しなければなりません。

1回のレッスン受講につき1枚の「伴奏実習受講カード」（音楽学部共同研究室（山手8号館）、音楽学部副手室（緑園5号館）備付）に、担当教員のサインを受け、その都度音楽学部共同研究室（山手8号館）あるいは音楽学部副手室（緑園5号館）に提出すること。

③ 本番伴奏

本番伴奏を行った後、学科主任の確認印を受けるための「伴奏実習受講カード」を当日中に音楽学部共同研究室（山手8号館）に提出すること。

※同一の実技試験、学内演奏、学内オーディション等において複数の本番伴奏を行った場合は1回と数えます。例えば、後期実技試験で声楽1名、器楽1名の伴奏を行う場合、「伴奏実習」としての伴奏対象者を1名に決定してレッスンを受けます。

④ 履修登録

4回目以降、本番伴奏予定学期の履修登録期間内に、各自、履修登録すること。前期、後期を問わず登録が可能です。また、実技試験以外の本番伴奏を含む場合、履修登録の時期が早まる場合があります。

⑤ 「最終評価申請書」の提出

4回目以降の本番伴奏において、最終評価を行います。ただし、最終評価は実技試験における伴奏のみが対象となります。「曲目提出届」提出期間内に、「最終評価申請書」を音楽学部共同研究室(山手8号館)に提出してください。提出がない場合、「H」評価となり、単位は修得できません。次学期以降に再度履修登録し、次回の実技試験において成績評価を受けることになります。

8. 演奏学科の専攻楽器等変更について

演奏学科の専攻楽器等変更を希望する場合は、所定用紙(「演奏学科専攻楽器等変更願」：教務課備付)をもって、所定の期日までに願い出なければなりません(提出窓口：教務課)。選考の上、専攻楽器等の変更が認められることがあります。ただし、願い出が可能な対象は次のとおりです。

選択楽器等	願い出提出時
ヴァイオリン→ヴィオラ ヴィオラ→ヴァイオリン	原則として1年次生または2年次生に限る
その他の選択楽器等変更	原則として2年次生に限る

【提出締切日】

2014年10月31日(金)

9. 卒業公開演奏

(1) 履修登録

「卒業公開演奏」は、通年科目です。出演する年度の前期履修登録期間に必ず自分で履修登録してください。

(2) 実施形態

卒業公開演奏は、「卒業試験公開演奏会」として行います。

(3) 注意事項

卒業公開演奏に関する諸事項は、「実技試験受験上の注意」に準じます。(p.136「実技試験」参照)ただし、担当教員が認めた場合、副手を伴奏者とすることができます。

(4) 成績評価

卒業公開演奏の評価が合格となっても、卒業判定の結果、卒業延期とされた場合、卒業公開演奏の評価は「保留」(「T」評価)となり、次年度に改めて履修登録を行う必要があります。

(5) 日程

「卒業公開演奏」曲目提出届 提出期間	2014年11月10日(月)～14日(金)
「卒業試験公開演奏会」日程	2015年1月29日(木)・30日(金)

なお、2014年度9月卒業を希望する者の実施期間は次のとおりです。

9月卒業希望者の「卒業公開演奏」日程	前期実技試験期間中(2014年7月30日(水)・31日(木)・8月1日(金))に実施
--------------------	--

実技試験等

1. 実技試験

実技試験の課題曲発表、試験順番発表等は掲示により行います。

(1) 実技試験該当科目

実技試験期間中に学期末試験を行う科目は、以下のとおりです。

区 分	科 目 名
必 修	専攻実技 I A・B～IV A・B 2年次修了公開演奏 卒業公開演奏
選択必修	副科声楽クラス A,B 演奏プロフェッショナル・スタディ A,B (2011～2013年度入学者) 演奏アドヴァンスト I A,B、演奏アドヴァンスト II A,B (2014年度入学者) PA 第2専攻個人実技 A,B

(2) 実技試験に関わる日程・手続き

【実技試験期間・会場】

	期 間	会 場
前期実技試験	2014年7月30日 (水)・31日 (木)・8月1日 (金)	山手校舎
卒業試験公開演奏会 (卒業公開演奏) 4年次対象 後期実技試験	2015年1月29日 (木)・30日 (金)	山手校舎
後期実技試験	2015年2月12日 (木)・13日 (金)・14日 (土)	山手校舎

実技試験実施までに①から⑥の手順を経ること。これらの日程は、前期5月下旬・後期11月下旬に掲示により通知します。

- ① 実技試験課題曲発表
- ② 「曲目提出届」用紙配布
- ③ 実技試験時間割発表
- ④ 実技試験演奏順番発表
- ⑤ 「実技試験曲目提出届」の提出 (提出方法、提出先は掲示により確認すること。)
- ⑥ 実技試験実施

(3) 演奏曲目提出

- ① 実技試験の演奏曲目
「実技試験曲目提出届」(以下「曲目提出届」)に記入の上、「レッスン受講票」とともに担当教員のサインを受け、必ず指定された期日までに提出すること。
- ② 指定された期日までに曲目提出がなかった場合、又は記載に不備があった場合
受験を不許可とすることがあります。
- ③ 「曲目提出届」記載内容の変更
原則として認めません。

(4) 実技試験受験上の注意

- ① 実技試験の当日、演奏順番に遅れた場合
当日の受験は認めません。ただし、特別な事情により遅刻した者について、学科主任が遅刻理由を正当と認めた場合、当日の受験を許可することがあります。
- ② 追試験許可理由 (p.29「追試験許可理由」参照) に準ずる理由により実技試験を欠席する場合
必ず事前に教務課に連絡すること。

③ 試験時間が他の試験科目と重複している場合

事前に音楽学部副手室（緑園5号館）または音楽学部共同研究室（山手8号館）に申し出て、指示を受けること。

④ 試験において伴奏者を必要とする場合

原則として学生が担当教員の了解の上で交渉し、決定するものとします。ただし、本学教員及び副手を伴奏者とすることはできません。

伴奏者の氏名等は曲目提出届に必ず記入してから担当教員のサインを得ることになりますが、やむを得ない理由により後から伴奏者を変更する場合は、事前に必ず書面にて、音楽学部共同研究室（山手8号館）・音楽学部副手室（緑園5号館）に届け出ること。

(5) 受験保留者

レッスン回数が規定の回数を満たしていない場合、受験を保留とすることがあります。

2. 実技追試験

病気、その他やむを得ない理由により実技試験を受けられなかった学生は、追試験許可理由のいずれかに該当し、受験資格があると認められた場合に限り、願い出によって追試験を受けることができます。（実技以外の科目の追試験については、pp.28～29「追試験」参照。）

なお、提出書類は、当該科目試験日に受験できなかったことを証明するものでなければなりません。

(1) 実技追試験許可理由

①～⑦ p.29「追試験許可理由」参照

⑧ 国内外の音楽講習会への参加（当該講習会のプログラム、参加を証明する書類及び関係教員の承諾書を提出）。

(2) 受験手続

実技追試験受験を希望する場合は、次の期日までに「追試験願」（教務課・山手事務室備付）に受験料（証紙購入）及び証明書類を添えて、教務課・山手事務室に提出しなければなりません。この期日に遅れると、一切受理されません。（代理人による手続も認めるので、必ずこの期日までに手続を行ってください。）実技追試験時間割発表日は、手続締切日の翌日となります。

なお、追試験の許可が得られなかった場合や担当者が追試験を実施しないと判断した場合には、実技追試験許可者発表日以降に受験料を返還します。

【実技追試験手続締切日】

前期	2014年8月8日（金）
後期（4年次生）	2015年2月6日（木）
後期（1～3年次生）	2015年2月19日（木）

受験料：1科目につき1,000円（p.29「追試験許可理由」②の場合は受験料は不要です。）

(3) 追試験日程等

- ① 実技科目追試験の詳細は、追試験許可者発表時に掲示します。
- ② 追試験の成績評価は、2割減点されます。
- ③ 追試験の実施は、定められた期日1回限りとします。

【追試験日程・会場】

	期 間	会 場
前期	2014年8月27日（水）	山手校舎
後期（4年次生）	2015年2月12日（木）・13日（金）・14日（土）の期間中に実施。	山手校舎
後期（1～3年次生）	2015年3月3日（火）	山手校舎

3. 実技再試験

音楽学部専門科目のうち、実技試験期間中に実施する必修・選択必修レッスン科目の試験を受けて不合格（評価「F」）とされた学生は、願い出て認められた場合に、改めて試験を受けることができます。

(1) 再試験実施要領

- ① 評価は「C」を超えない。
- ② 再試験の不合格者に対する、再試験は行わない。また、再試験について、追試験は行わない。
- ③ 追試験については、再試験を行わない。

(2) 受験手続

再試験受験資格者は、「再試験願」（教務課・山手事務室備付）に受験料（証紙購入）を添えて、教務課・山手事務室に提出しなければなりません。（実技再試験許可者発表は、手続締切日の翌日となります。）

【再試験手続日程】

	再試験該当者発表日	再試験手続締切日
前期	2014年8月4日（月）	2014年8月8日（金）
後期（4年次生）	2015年2月2日（月）	2015年2月5日（木）
後期（1～3年次生）	2015年2月16日（月）	2015年2月19日（木）

*日程等詳細は、「実技試験に関わる日程」発表時に確認してください。

*8月中の事務取扱い時間は、9:00～15:00です。

*8月中旬の閉鎖期間（事前に掲示で告知）は事務取扱いを行いません。

【再試験日程・会場】

	期 間	会 場
前期	2014年8月27日（水）	山手校舎
後期（4年次生）	2015年2月12日（木）・13日（金）・14日（土）の期間中に実施。	山手校舎
後期（1～3年次生）	2015年3月3日（火）	山手校舎

受験料：1科目につき3,000円

外国人留学生

外国人留学生の履修

外国人留学生の必修科目

外国人留学生*の教育課程は、基本的には一般学生のものと同じです。基礎教養科目と語学科目において一部異なっている部分があるので、以下の指示にしたがって履修をすすめてください。

日本語科目	外国人留学生の日本語運用能力を高めることを目的として設けられています。修得単位は、語学科目の単位となります。
日本事情に関する科目	外国人留学生の日本に対する理解を深めることを目的として設けられています。修得単位は、基礎教養科目の単位となります。

必修科目及び単位数

(1) 文学部英語英米文学科／英文学科

科目	必修単位数
留学生日本語	10単位**
英語科目	2か国語履修コース 12単位 または 英語インテンシブ・コース 20単位
日本事情 A,B	4単位

(2) 文学部日本語日本文学科／日本文学科、コミュニケーション学科、国際交流学部、音楽学部

科目	必修単位数
留学生日本語	10単位**
日本事情 A,B	4単位

* 外国人留学生

ここでは、大学教育を受ける目的をもって入国し、本学1年次に入学した外国人学生（私費留学生）を指します。本学が外国の協定校から一定期間受け入れている学生（受入交換留学生）の履修については p.145 を見てください。

** 日本語能力が非常に高い場合の特別措置

留学生の日本語能力が非常に高いと留学生科目委員会が認めた場合、必修単位のうち2単位を他の科目で読み替えることができます。該当者には、1年次後期以降の学期末に通知がありますので、手続きを行ってください。

日本語科目の履修方法

2013年度以降入学者

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		必修単位
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
留学生日本語	2	2	2	2	2				10

[]内の数は、単位数

1年次		2年次	
前期	後期	前期	後期
アカデミック・ライティング (小説文・要約の基礎) [1]	アカデミック・ライティング (文章表現) [1]	アカデミック・ライティング (レポート作成演習) [1]	アカデミック・ライティング (論説文読解・要約) [1]
聴解・発表 (講義聴解・ ノートテイキング) [1]	読解 (読解ストラテジー 養成) [1]	聴解・発表 (プレゼンテーション) [1]	会話 (コミュニケーション 能力養成) [1]
4単位		4単位	

3年次		4年次		必修単位
前期	後期	前期	後期	
読解 (新聞を読む) [1]				10単位
会話 (ビジネス日本語) [1]				
2単位				

2010～2012年度入学者

「留学生日本語」必修10単位（＊2）のうち、1年次前期に4単位、1年次後期に4単位、計8単位を必ず履修してください。

[]内の数は、単位数

1年次	2年次	3年次	4年次	必修単位
アカデミック・ライティング [2,2]				4単位
聴解・発表 [1,1]	読解 [1,1]			6単位
会話 [1,1]				
		総合 [1,1]		10単位

日本語以外の語学科目

文学部英語英米文学科／英文学科

英語科目必修12単位（2か国語履修コース）または20単位（英語インテンシブ・コース）を修得します。2年次以降は、一般学生に準じて「語学履修コース・言語選択届」の提出等必要な手続きを行なってください。

1. 英語科目の履修

外国人学生は、次のとおり英語科目を履修することができます。

入学年度	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
2014年度	○	○	○	○	○	○	○	○
2013年度	○	×	○	○	○	○	○	○
2012年度以前	×	×	○	○	○	○	○	○

履修の時期	必要な手続き等
1年次前期	【2013年度以降入学者】 英語スタンダード科目を履修することができます。履修クラスはオリエンテーション時に実施するアンケートに基づいて指定されます。
1年次後期	【2014年度以降入学者】 履修を希望する場合は、「英語科目履修申込書」*を提出し、1年次6月に英語プレイスメント・テストを受験してください。履修クラスは英語プレイスメント・テストの結果に基づいて指定されます。
2年次前期	履修クラスは語学責任者との履修相談に基づいて指定されます。
2年次後期	2年次6月に英語プレイスメント・テストを必ず受験してください。履修クラスは英語プレイスメント・テストの結果に基づいて指定されます。

→英語プレイスメント・テストについてはp.58

英語インテンシブ・コースの修了要件

外国人留学生が次頁の表①のとおり、必修相当として定められた語学科目すべてを本学で履修し、単位を修得した場合、英語インテンシブ・コース修了とします。修了判定は4年次前期までの修得状況に基づいて行われ、4年次後期（9月）に交付される成績通知書から記載されます。その他の取扱いについては、一般学生と同じとします。

なお、1年次でスタンダード科目を履修した場合も、インテンシブ科目の履修が認められるのは2年次以降となります。

「英語科目履修申込書」* について【2014年度以降入学者】

1年次後期に履修を希望する場合は、1年次6月に「英語科目履修申込書」を以下のとおり提出してください。

期 間	提出先
2014年6月4日（水）～6日（金）	言語センター

① 英語インテンシブ・コース

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語			【英語スタンダード科目】 英語I s (読む・書く) [1] 英語I s (聞く・話す) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語II i (Reading) [1] 英語II i (Writing) [1] 英語II i (Listening) [1] 英語II i (Speaking) [1] 英語II i (Language Development) [1] 英語II i (講読) [1]
言語	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
英語	【英語インテンシブ科目】 英語III i (Reading) [1] 英語III i (Writing) [1] 英語III i (Listening) [1] 英語III i (Speaking) [1] 英語III i (Language Development) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語IV i (Reading) [1] 英語IV i (Writing) [1] 英語IV i (Listening) [1] 英語IV i (Speaking) [1] 英語IV i (講読) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語V i (Reading) [1] 英語V i (Speaking) [1]	

② 2か国語履修コース

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語			【英語スタンダード科目】 英語I s (読む・書く) [1] 英語I s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語II s (読む・書く) [1] 英語II s (聞く・話す) [1]
言語	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語III s (読む・書く) [1] 英語III s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語IV s (読む・書く) [1] 英語IV s (聞く・話す) [1]		

上記の他に英語e科目を2年次前期から4年次前期までの間に、4単位追加選択履修が必要。

文学部日本語日本文学科／日本文学科、コミュニケーション学科、国際交流学部、音楽学部

日本語以外の語学を履修する場合、一般学生に準じて「語学履修コース・言語選択届」の提出等必要な手続きを行ってください。

1. 英語科目の履修を希望する場合

外国人学生は、次のとおり英語科目を履修することができます。

入学年度	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
2014年度	○	○	○	○	○	○	○	○
2013年度	○	×	○	○	○	○	○	○
2012年度以前	×	×	○	○	○	○	○	○

履修の時期	必要な手続き等
1年次前期	【2013年度以降入学者】 英語スタンダード科目を履修することができます。履修クラスはオリエンテーション時に実施するアンケートに基づいて指定されます。
1年次後期	【2014年度以降入学者】 履修を希望する場合は、「英語科目履修申込書」*を提出し、1年次6月に英語プレイスメント・テストを受験してください。履修クラスは英語プレイスメント・テストの結果に基づいて指定されます。
2年次前期	履修クラスは語学責任者との履修相談に基づいて指定されます。
2年次後期	後期も引き続き履修を希望する場合は、2年次6月に英語プレイスメント・テストを必ず受験してください。

→英語プレイスメント・テストについてはp.58

2. 初習外国語の履修を希望する場合
2年次前期以降、初習外国語の履修を希望する場合は、あらかじめ語学責任者に相談してください。

2014年度以降入学者

言語	1年次		2年次	3年次	4年次
	前期	後期			
日本語以外の言語	英語 I s (読む・書く) 英語 I s (聞く・話す)	英語 II s (読む・書く) 英語 II s (聞く・話す)	初習外国語を履修する場合は 2年次以降		

2013年度入学者

言語	1年次	2年次	3年次	4年次
日本語以外の言語	前期に履修可 英語 I s (読む・書く) 英語 I s (聞く・話す)	初習外国語を履修する場合は2年次以降		

2010～2012年度入学者

言語	1年次	2年次	3年次	4年次
日本語以外の言語	/	履修する場合は2年次以降		

3. 母語の履修

外国人留学生が母語を語学科目の履修言語として選択することは、原則としてできません。特別な事情により履修を希望する場合には、当該言語の語学責任者、指導教員に申し出て、指示にしたがってください。

専門科目の履修方法

専門科目の履修方法については、すべて一般学生と同一です。不明な点がある場合には学科教務委員に相談してください。3・4年次演習（ゼミ）科目は、あらかじめ『履修が望ましい、あるいは必須の語学科目・コース』を定めている場合があります。

受入交換留学生の履修

受入交換留学生は、原則としてすべての共通科目（基礎教養科目、総合課題科目、語学科目）及び専門科目を履修できます。不明な点は、教務課にお問い合わせください。

(1) GPA 制度及び履修登録科目の取り消し制度

受入交換留学生は、この制度は適用されません。

(2) 履修者数制限科目

通常科目の登録期間より早い時期に設定された受付期間に手続きを行う必要があります。許可された科目の変更及び取り消しはできません。p.24を参照してください。

(3) 語学科目

履修相談で履修する科目・クラスの指定を受けてください。ただし、英語科目は、原則として「英語 e」に限るものとします。

(4) 学科選抜科目

あらかじめ履修相談を受けてください。p.24を参照してください。

(5) 日本語科目（「留学生日本語 I・II」）及び日本事情に関する科目（「日本事情 A, B」）

受入交換留学生にも配慮して開講されているので、開講科目表を参照の上、積極的に履修してください。日本語科目の履修を希望する場合、必ず日本語プレイスメント・テストを受験してください。

日本語プレイスメント・テストの実施について

日本語プレイスメント・テストは、日本語科目のクラス編成（習熟度別）を行うために実施されます。対象者は次のとおりです。必ず受験してください。日程及び詳細は個別に通知します。

【日本語プレイスメント・テスト実施日程】

日 程	対象者（私費留学生）
2014年3月26日（水）	1年次生（新入生）

単位認定・単位互換

単位の認定

本学への入学以前・入学後在籍中に他大学等で修得した単位及び「実用英語技能検定」等の技能審査に合格した場合は、一定の基準に基づき本学において修得した卒業に必要な単位として認定されます。

認定される単位の上限

学部等	単位認定の上限
文学部・国際交流学部・音楽学部 (編入者を除く)	下記の①・②を合わせて60単位まで ①入学前：他大学等で修得した単位＋技能審査 ②入学後：他大学等で修得した単位(含む単位互換、留学)＋技能審査
2年次編入者	編入学時の一括認定30単位とは別に①を30単位まで ①編入学後：他大学等で修得した単位(含む単位互換、留学)＋技能審査
3年次編入者	編入学時の一括認定62単位とは別に①を30単位まで ①編入学後：他大学等で修得した単位(含む単位互換、留学)＋技能審査

他大学等で修得した単位の認定基準

他大学等で修得した科目の内容を勘案し、これと同等とみなされる科目区分(基礎教養科目・総合課題科目(キリスト教科目を含む)、語学科目、専門科目(必修・選択必修・選択)、教職科目のいずれか)として認定されます。

ただし、単位認定の種類によって認定除外科目があるので、十分確認してください。

入学後に他大学等で修得した単位の認定

入学後在籍中に他大学等での科目等履修によって修得した単位及び技能審査の合格について、単位認定を希望する者は、所定の手続にて申請してください。教授会で審議の上、認定の可否を決定します。

1. 技能審査の合格による単位認定

認定基準	別表のとおり (p.153参照)	
申請先	教務課 (緑園)	
申請方法	所定用紙 (「単位認定 (技能審査等) 申請書」: 教務課にあります) に記入し、次の書類を添付して提出してください。 添付書類: 「合格証書」または「スコア・レコード」	
申請期間	2014年度前期分	2014年7月14日 (月) ~7月18日 (金)
	2014年度後期分	2015年1月13日 (火) ~1月19日 (月)
注意	<p>① 公開テストで取得したスコアに限ります。(TOEFL-ITP 及び TOEIC-IP テストは認定対象外です。)</p> <p>② 取得時期は、入学後かつ申請日からさかのぼって1年以内のものに限ります。</p> <p>③ 一度認定された言語について、あらためて同じ級 (又は同レベルのスコア) を取得しても、再び認定はされません。ただし、上位の級 (又は上位のスコア) を取得した場合には、すでに認定された分を除いた単位が認定されます。</p>	

2. 他大学等における科目等履修による単位認定

認定除外科目	基礎教養科目	「キリスト教Ⅰ」「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」の単位
	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」、必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分としての単位
	国際交流学部専門科目	「卒業論文」、必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分としての単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業演奏」「卒業公開演奏」「学内ソロ・コンサート」の単位
申請先	教務課 (緑園)	
申請方法	<p>次の①→②の順序で手続が必要です。</p> <p>① 履修許可願 (履修開始前) 所定用紙 (「他大学等における科目等履修願」: 教務課にあります) に記入し、次の書類を添付して提出してください。提出後に教務委員との面談を行います。 添付書類: 科目等履修を行う大学等の履修要項、シラバス等授業内容を示す書類のコピー</p> <p>② 単位認定申請 (履修後) 上記①の手続により、履修許可を受け、科目等履修を行った上で所定用紙 (「単位認定申請書」: 教務課にあります) に記入し、次の書類を添付して提出してください。 提出後に教務委員との面談を行います。 添付書類: 成績証明書、履修要項、シラバス等授業内容を示す書類のコピー</p>	
①の申請期間	2014年度後期履修分	原則として履修開始の2か月前まで *新入生の申請期間については、教務課に問い合わせてください。 *卒業予定学期における履修は認められません。
	2015年度前期・後期履修分	原則として履修開始の2か月前まで
②の申請期間	教務課に問い合わせてください。	

3. 海外の大学への交換・認定留学、セメスター・アブロードによって修得した単位の認定

入学後在学中に交換・認定留学、セメスター・アブロードによって海外の大学等において修得した単位は、本学において修得した単位とみなすことができます。単位認定を希望する者は、所定の手続にて申請してください。教授会で審議の上、認定の可否を決定します。

認定除外科目	基礎教養科目	「キリスト教Ⅰ」の単位
	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」の単位
	国際交流学部専門科目	「導入演習」及び「研究入門」「基礎演習」「専門演習」「卒業論文」の単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業演奏」「卒業公開演奏」「学内ソロ・コンサート」の単位
申請先	教務課（緑園）	
申請方法	教務課に問い合わせてください。	

4. 単位互換制度により修得した単位の認定

次の単位互換制度により修得した単位は、本学以外で修得したその他の単位等の認定とあわせて本学において修得した卒業に必要な単位とみなすことができます。

なお、単位互換制度を利用して履修する単位数は、各自定められた履修登録単位数の上限に含まれます。

(1) 同志社女子大学において修得した単位の認定

学生交流に関する協定に基づき交流学生として同志社女子大学において修得した単位は、本学において修得した単位とみなすことができます。単位認定を希望する者は、所定の手続にて申請してください。教授会で審議の上、認定の可否を決定します。

単位認定について	履修単位数の上限	各学期 24単位	
	認定除外科目	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」の単位
		国際交流学部専門科目	「卒業論文」の単位
		音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業演奏」「卒業公開演奏」「学内ソロ・コンサート」の単位
	申請先	教務課（緑園）	
	申請方法・期限	所定用紙（「単位認定申請書」：教務課にあります）に記入し、次の書類を添付して提出してください。 添付書類：成績証明書、シラバス等授業内容を示す書類のコピー	
申請期間	教務課に問い合わせてください。		

(2) 放送大学において修得した単位の認定

単位互換に関する協定に基づき、放送大学の特別聴講学生として履修することができます。

履修・単位認定申請の条件は、次のとおりです。

単位認定を希望する者は、所定の手続にて申請してください。教授会で審議の上、認定の可否を決定します。

制度利用にあたり 注意事項		<ul style="list-style-type: none"> ・入学（編入学）した学期は履修できません。 ・卒業予定学期は履修できません。また、卒業予定学期に、放送大学が実施する「再試験」制度を利用して合格しても、単位認定対象から除外されます。 ・申請の際、本学に納入する授業料とは別に、放送大学での授業料（1科目：11,000円）が必要です。 ・放送大学での履修単位数は、各自に定められた1学期の履修登録単位数の上限に含まれます。 ・詳細は、教務課に問い合わせてください。 	
履修申請方法		<p>次の①→②の順序で手続が必要です。</p> <p>①所定用紙（「放送大学科目履修・単位認定申請書」：教務課にあります）を教務課（緑園）に提出してください。 放送大学での履修希望科目について、大学側で認定科目の対応の事前審査を行います。</p> <p>↓</p> <p>②上記①の事前審査により履修許可を受けた科目について、次の2点を教務課（緑園）に提出してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙（「放送大学特別聴講学生出願票」：教務課にあります） ・放送大学での授業料（1科目：11,000円） 	
手続 期間	2014年度後期	①	2014年6月27日（金）まで
		②	2014年7月4日（金）～11日（金）
	2015年度前期	①	2015年1月7日（水）まで
		②	2015年1月14日（水）～20日（火）

(3) 横浜市内単位互換制度履修申請方法及び修得した単位の認定

単位互換に関する協定に基づき、横浜市内単位互換制度参加大学の「単位互換履修生」として履修することができます。履修申請・単位認定については、次のとおりです。

履修を希望する学生は、所定の手続にて申請してください。

履修可能学期	卒業予定学期は履修できません。
履修申請単位数の上限	履修申請できる単位数は、1年間（前期・後期合わせて）8単位を上限とします。また、この申請単位は各自に定められた履修登録単位数の上限に含まれます。
履修申請先	教務課（緑園）
履修申請方法・期限	前期および通年開講科目は4月に、後期開講科目は6月にそれぞれ教務課で履修申請を受け付けます。詳細は掲示で通知します。
単位認定方法	他大学で合格評価を受けた科目は、教授会で審議の上、認定の可否を決定します。（単位認定についての申請は必要ありません）
単位認定区分	すべて「専門科目（選択）」として認定されます。
2014年度参加大学 （12大学）	神奈川大学、関東学院大学、國學院大学、鶴見大学、桐蔭横浜大学、東洋英和女学院大学、フェリス女学院大学、東京都市大学（旧武蔵工業大学）、明治学院大学、横浜国立大学、横浜商科大学、横浜市立大学

入学前に他大学等で修得した単位の認定

1年次対象

本学への入学以前に他大学等で修得した単位及び技能審査の合格について、単位認定を希望する者は、所定の手続にて申請してください。教授会で審議の上、認定の可否を決定します。

(1) 技能審査の合格による単位認定

認定基準	別表のとおり (p.153参照)
申請先	教務課 (緑園)
申請方法	所定用紙 (「単位認定 (技能審査等) 申請書」: 教務課にあります) に記入し、次の書類を添付して提出してください。 添付書類: 「合格証書」または「スコア・レコード」
申請期間	2014年7月14日 (月) ~ 7月18日 (金)
注 意	公開テストで取得したスコアに限ります。(TOEFL-ITP 及び TOEIC-IP テストは対象外です。)

(2) 他大学等における履修による単位認定

認定除外科目	基礎教養科目	「キリスト教Ⅰ」
	総合課題科目	「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」
	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」、必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分としての単位
	国際交流学部専門科目	「卒業論文」、必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分としての単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業演奏」「卒業公開演奏」「学内ソロ・コンサート」の単位
申請先	教務課 (緑園)	
申請期間	2014年4月2日 (水) まで 入学年度前期に限って受け付けます。	

2年次編入・3年次編入学者対象

(1) 技能審査の合格による単位認定

2年次編入・3年次編入学者は、編入学前の技能審査の合格による単位認定の対象外です。

(2) 他大学における履修による単位認定

2年次編入・3年次編入学者は、編入学前の修得単位は一括して認定されるので、申請の必要はありません。

キリスト教科目の単位認定

2年次編入・3年次編入学者が本学入学以前に他大学等において修得した「キリスト教」関連科目は、本学における必修相当としては単位認定の対象外です。

キリスト教科目関連科目の履修

3年次編入学者は、「キリスト教Ⅰ」「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」に代えて、本学が指定する「キリスト教」関連科目を履修することが認められます (p.53参照)。2年次編入学者にこの措置はありません。

別表

技能審査の合格による単位認定

言語	検定等の種類		相当する単位				
			10単位	9単位	8単位	6単位	4単位
英語	実用英語技能検定（日本英語検定協会）				1級	準1級	
	TOEFL （国際教育交 換協議会）	Paper-based Test			580点 以上	550～ 579点	500～ 549点
		Internet-based Test			92点 以上	80～ 91点	61～ 79点
	TOEIC （国際ビジネスコミュニケーション協会）				900点 以上	730～ 899点	650～ 729点
フランス語	実用フランス語技能検定 （フランス語教育振興協会）		1級	準1級	2級	準2級	3級
ドイツ語	ドイツ語技能検定 （ドイツ語文学振興会）		1級		準1級	2級	3級
スペイン語	スペイン語技能検定 （日本スペイン協会）		1級		2級		3級
中国語	中国語検定試験 （日本中国語検定協会）		1級		準1級	2級	3級
朝鮮語	「ハングル」能力検定 （「ハングル」能力検定協会）		1級		2級	準2級	3級

「教職課程」「日本語教員養成講座」としての単位認定

本学への入学前または入学後在籍中に他大学等で修得した単位は、教育職員免許状の取得または日本語教員養成講座の修了のための単位として認定されることがあります。この場合の単位認定については、別冊の「教職課程 日本語教員養成講座」を参照してください。

学籍

学 籍

修業年限及び在学期間

修業年限とは、学部の教育課程修了に必要な期間のことで、休学期間を除き4年（8学期）です。また、在学期間とは、学生として在籍することのできる期間のことで、休学期間を除き8年を超えることはできません。（大学学則第9条参照。）

2年次編入学者の修業年限は、休学期間を除き3年（6学期）です。在学期間は休学期間を除き6年を超えることはできません。

3年次編入学者の修業年限は、休学期間を除き2年（4学期）です。在学期間は休学期間を除き4年を超えることはできません。

休 学

病気その他やむを得ない理由により修学することができない場合は、次の期日までに所定用紙（「休学願」：教務課にあります。）をもって休学を願い出ることができます。 [→大学HP 大学学則第29条・第30条参照](#)

休学期間は、前期若しくは後期の1学期、又は1年を区分とし、休学期間は通算して4年を超えることはできません。また、休学期間を修業年限及び在学期間に算入することはできません。

前期又は後期の1学期のみ休学した学生は、翌年4月に自動的に1学年進級します。ただし、4年次生になっても、休学期間を除いた在学期間が修業年限を満たさないと卒業はできません。1年間継続して休学した場合は、年次が原級にとどまります。

休学者は、学期ごとに授業料及び実習費のそれぞれ半額を在籍料として納入しなければなりません。ただし、施設設備費については、休学中も大学学則第36条の2第2項の規定に従って納入しなければなりません。

【休学願の提出期限】

前期（又は前期から1年間）休学する場合	2014年5月30日（金）まで
後期（又は後期から1年間）休学する場合	2014年11月28日（金）まで

復 学

届け出た休学期間が過ぎると、自動的に復学となります。ただし、健康上の理由で休学した場合は、復学後の学生生活が支障なく再開可能かの確認を含めて、校医との面談を行います。

更に続けて休学を希望する場合又は退学を希望する場合は手続きが必要です。休学期間が終了する前に教務課に問い合わせてください。

退 学

事情により退学を希望する場合は、次の期日までに所定用紙（「退学願」：教務課にあります）をもって願出しなければなりません。この場合、退学する日を含む学期の授業料等学納金を納入していなければ、退学は認められません。

→大学HP 大学学則第33条

【退学願の提出期限】

前期末に退学する場合	2014年9月30日(火)まで
後期末に退学する場合	2015年3月31日(火)まで

除 籍

学生が次のいずれかに該当する場合には、除籍されることがあります。（大学学則第34条参照）

- (1) 在学期間を超えて卒業資格を得られない場合
- (2) 授業料等学納金の納入を怠った場合
- (3) 通算4年の休学期間を超えて、なお復学できない場合
- (4) 死亡した場合
- (5) 長期間にわたり行方不明の場合

留 学

交換留学又は認定留学の許可を受けた学生は、1年を限度としてその留学期間を、大学学則第9条に定める在学期間として扱います。ただし、本学の規定の適用を受けず、休学して留学した場合はこの限りではありません。

→大学HP 大学学則第28条の2

→pp. 38～43 留学・海外研修・国内留学

転学部・転学科

転学部・転学科を志願する場合は、次の期日までに所定用紙（「転学部・転学科願」：教務課にあります）をもって願出しなければなりません。選考の上、転学部・転学科を認めることがあります。

転学部・転学科した学生の在学期間は、転学部・転学科以前の在学期間と合わせて8年（2年次編入学生は6年、3年次編入学生は4年）を超えることはできません。

→大学HP 大学学則第31条

【転学部・転学科願の提出期限】 2014年10月3日（金）まで

→転学部・転学科内規

再入学

本学を退学した者又は除籍を受けた者が、在籍していた学科への再入学を志願する場合は、原則として退学又は除籍日を含む年度の末日から2年以内に、所定の手続によって願い出なければなりません。教授会の議を経て、再入学を許可することがあります。

なお、再入学の時期は、学年又は学期の始めとします。

→大学HP 大学学則第34条の2

→大学HP 再入学に関する内規

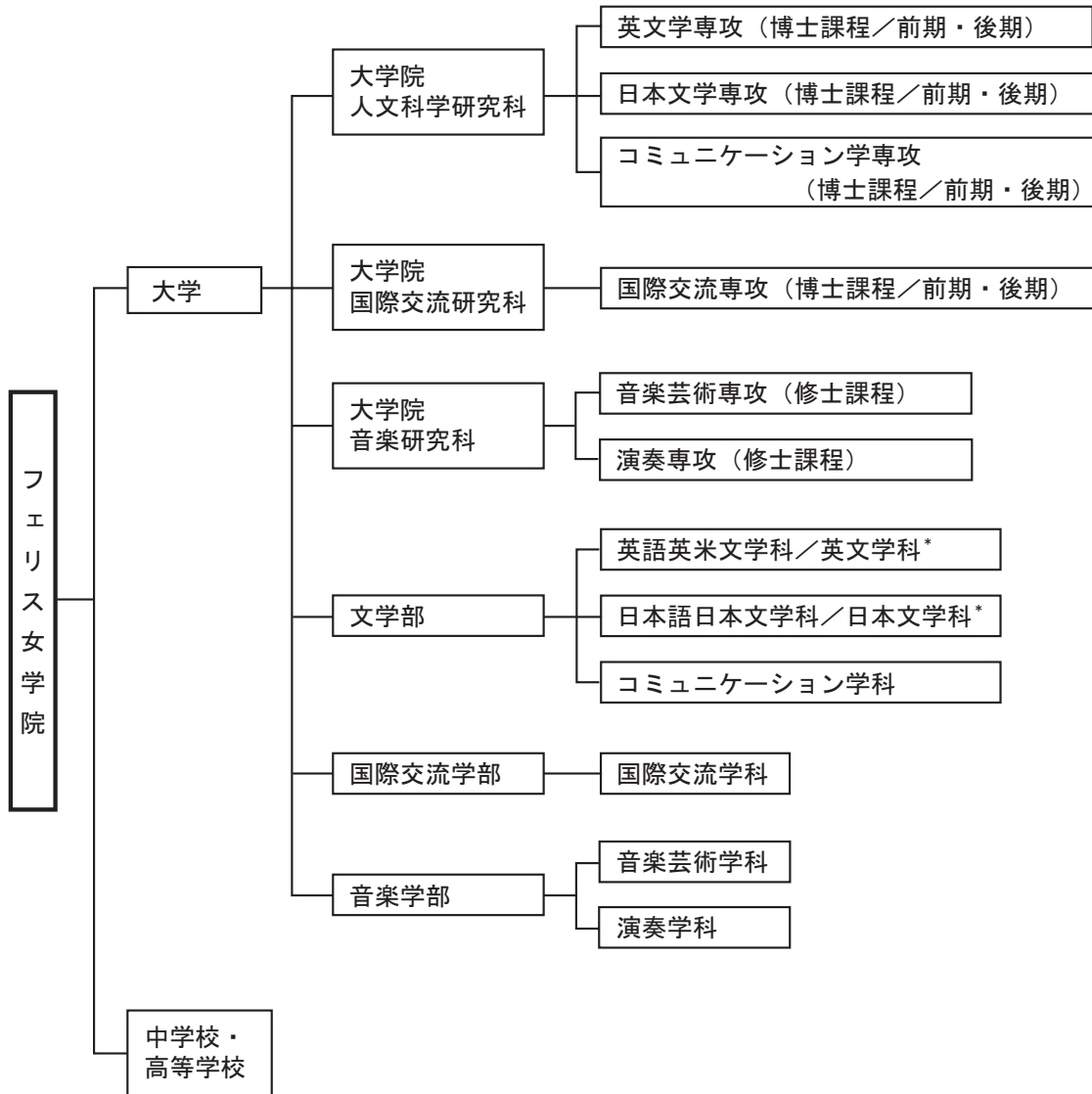
【再入学願の提出期限・提出先】

前期から再入学する場合	1月末
後期から再入学する場合	7月末
提出先	教務課

資料編

資料編

組織



*2014年度から、学科名称を次のとおり変更しました。

新学科名称が適用されるのは2014年度以降入学者です。

2013年度以前入学者は、卒業するまで旧学科名称を用いることとしています。

英文学科	→	英語英米文学科
日本文学科	→	日本語日本文学科

フェリス女学院大学の沿革

本学の源流は、1870（明治3）年に米国改革教会の宣教師、メアリー・E・キダーが始めた私塾にさかのぼります。これは、ローマ字や医療事業等で知られる長老教会宣教師ヘボン博士のクララ夫人が、1863（文久3）年に開いた家塾を引き継いだもので、キダーは1871年にこれを女子だけの学校としました。そして、1875年、山手の外国人居留地に校舎を建て、校名をフェリス・セミナリーとして寄宿学校を開校するに至りました。「フェリス」の名は、キダーを派遣し、その教育を支えた改革教会伝道局主事フェリス博士父子を記念するものです。

本学は、敬虔な人格と優れた教養によって、創造的に人類社会に貢献する女性の育成を求め続けて、今日に至っています。

- 1870（明治 3）年 メアリー・E・キダー、ヘボン施療所で授業開始。（フェリス女学院の発祥）
- 1875（ 8）年 山手178番に校舎落成。この頃「フェリス・セミナリー」と名づける。
- 1887（ 20）年 高等科設置。校舎拡張。
- 1889（ 22）年 校名を「フェリス和英女学校」とする。講堂「ヴァン・スカイック・ホール」完成。
- 1899（ 32）年 私立学校令により認可。特別科（高等科に替えて）設置。
- 1903（ 36）年 特別科を文学科・聖書研究科の2科（18～21歳）とする。英語師範科（16～19歳）設置。
- 1908（ 41）年 特別科を高等科（英文学部・神学部）に改める。
- 1919（大正 8）年 東京女子大学創立に協力し高等科廃止。
- 1923（ 12）年 関東大震災により校舎倒壊焼失。カイパー校長殉職。
- 1927（昭和 2）年 「専門学校入学者検定規定」による指定認可。
- 1929（ 4）年 新校舎・カイパー記念講堂竣工。
- 1930（ 5）年 高等部（英文科・家政科、17～19歳）設置。
- 1939（ 14）年 戦時下、米国伝道局経営の社団法人から日本の財団法人となる。
- 1941（ 16）年 校名を「横浜山手女学院」に変更。
- 1947（ 22）年 専門学校（旧制）3年（英文科・家政科・音楽科）設置。
- 1950（ 25）年 校名を「フェリス女学院」と改称。新学制により専門学校から短期大学（英文科・家政科・翌年に音楽科）開設。
- 1965（ 40）年 大学開学。短期大学（英文科）を発展改組し、大学文学部（英文学科・国文学科）開設。
- 1970（ 45）年 学院創立100周年。
- 1988（ 63）年 短期大学（家政科）を発展改組し、文学部に国際文化学科開設。大学緑園キャンパス開設。
- 1989（平成 1）年 短期大学（音楽科）を発展改組し、大学音楽学部（声楽学科・器楽学科・楽理学科）開設。フェリスホール竣工。
- 1991（ 3）年 大学院人文科学研究科修士課程（英文学専攻・日本文学専攻）開設。
- 1992（ 4）年 大学院人文科学研究科修士課程地域文化専攻開設。
- 1993（ 5）年 文学部国文学科を日本文学科に名称変更。
- 1995（ 7）年 大学院人文科学研究科を博士課程前期・後期に改組。
大学院人文科学研究科博士後期課程（英文学専攻・日本文学専攻）開設。
- 1997（ 9）年 文学部国際文化学科を発展改組し、国際交流学部（国際交流学科）開設。

- 1998 (平成10) 年 大学院音楽研究科修士課程 (声楽専攻・器楽専攻・創作表現専攻) 開設。
国際学生交流会館開設 (～2008年3月)
- 2001 (13) 年 大学院国際交流研究科博士前期課程・博士後期課程 (国際交流専攻) 開設。
緑園キャンパス施設拡充 (文学部棟、キダーホール・緑園、図書館竣工)。
- 2002 (14) 年 中高新校舎・新カイパー記念講堂竣工。
- 2004 (16) 年 文学部コミュニケーション学科開設。
音楽学部楽理学科を音楽芸術学科に、大学院音楽研究科創作表現専攻を音楽芸術専攻に
名称変更。
- 2005 (17) 年 音楽学部演奏学科 (声楽学科・器楽学科の改組) 開設。
- 2008 (20) 年 大学院人文科学研究科コミュニケーション学専攻 (博士前期課程) 開設。
- 2009 (21) 年 大学院音楽研究科修士課程演奏専攻 (声楽専攻・器楽専攻の改組) 開設。
- 2010 (22) 年 学院創立140周年。大学院人文科学研究科コミュニケーション学専攻博士後期課程開設。
- 2014 (26) 年 文学部英文学科を英語英米文学科に、文学部日本文学科を日本語日本文学科に名称変更。
- 2015 (27) 年 大学開学50周年。

専任教員一覧〔学部〕

学 長

教 授	秋 岡 陽
-----	-------

文学部

英語英米文学科／英文学科

教 授	梅 崎 透 (2014年度特別研修)
教 授	近 藤 存 志
教 授	中 川 正 紀
教 授	富 樫 剛
教 授	デイヴッド バーレイ David BURLEIGH
教 授	福 永 保 代
教 授	藤 本 朝 巳
教 授	向 井 秀 忠
教 授	由 井 哲 哉
教 授	饒平名 尚 子
教 授	渡 辺 信 二
准教授	大 畑 甲 太
講 師	ラサミ チャイクル Rasami CHAIKUL
講 師	豊浦 アマンダレネー TOYOURA, Amanda RENEE
講 師	佐 藤 明 可
講 師	サムエル ギデオンのギルダート Samuel Gideon GILDART
講 師	スコット ウィリアム スミス Scott William SMITH
客員准教授	アン レイン Ann LANE

日本語日本文学科／日本文学科

教 授	勝 田 耕 起
教 授	佐 藤 裕 子
教 授	島 村 輝
教 授	竹 内 正 彦
教 授	谷 知 子
教 授	松 田 浩
准教授	田 中 里 奈

コミュニケーション学科

教 授	井 上 恵美子
教 授	大 倉 一 郎
教 授	齋 藤 孝 滋
教 授	潮 村 公 弘
教 授	高 田 明 典
教 授	諸 橋 泰 樹
教 授	渡 辺 浪 二
准教授	相 澤 一
准教授	高 橋 京 子

国際交流学部

国際交流学科

教授	荒井 真
教授	上原 良子
教授	馬橋 憲男
教授	江上 幸子
教授	大西 比呂志
教授	大野 英二郎
教授	笥 雅博
教授	木曾 順子
教授	佐藤 輝
教授	高柳 彰夫
教授	田丸 理砂 (2014年度特別研修)
教授	常岡 (乗本) せつ子
教授	中塚 次郎
教授	並木 真人
教授	春木 良且

教授	ヒガ, マルセーロ HIGA, Marcelo G.
教授	ベンヤミン D. ミドルトン Benjamin Dugald MIDDLETON
教授	矢野 久美子
教授	八幡 清文
教授	横山 安由美
教授	横山 正樹
教授	和田 浩一
准教授	金 香男 キム ヒン ナム
准教授	齊藤 直
准教授	鄭 浩瀾 テイ コウ ラン
准教授	寺尾 隆吉 (2014年度特別研修)
准教授	福島 仁
准教授	古内 洋平
講師	高雄 綾子
客員講師	朱 文韜 シュ フン トウ

音楽学部

音楽芸術学科

教授	立神 粧子
教授	星野 聡
准教授	川本 聡胤
准教授	瀬藤 康嗣
准教授	たかの 舞俐
准教授	谷口 昭弘
講師	船場 ひさお

演奏学科

教授	落合 敦
教授	蔵田 雅之
教授	黒川 浩
教授	戸田 弥生
教授	堀 由紀子
教授	宮本 とも子
准教授	土屋 広次郎
講師	井出 朋子
講師	西 由起子
客員教授	ローナン マギル Ronan MAGILL

センター

留学生センター

講師	筒井 千絵
講師	奈良 夕里枝

情報センター

講師	内田 奈津子 (IT コーディネーター)
----	----------------------

役職者

学院長	大塩 武
-----	------

学長	秋岡 陽
副学長	荒井 真
附属図書館長	江上 幸子
大学院委員・大学評議員	大西 比呂志
大学院委員・大学評議員	並木 真人
大学院委員・大学評議員	島村 輝
大学院委員・大学評議員	由井 哲哉
大学院委員・大学評議員	蔵田 雅之
大学院委員・大学評議員	星野 聡
情報センター長	春木 良且
山手総括主事	立神 粧子
宗教主任	相澤 一
教職課程主任	渡辺 浪二
教務部長	藤本 朝巳
学生部長	井上 恵美子
海外交流部長	矢野 久美子
入試部長	向井 秀忠
就職部長	上原 良子
企画・広報部長	荒井 真
留学生センター長	矢野 久美子
言語センター長	藤本 朝巳
宗教センター長	相澤 一
ボランティアセンター長	高柳 彰夫

人文科学研究科

研究科長	谷 知子
英文学専攻主任	由井 哲哉
日本文学専攻主任	佐藤 裕子
コミュニケーション学専攻主任	諸橋 泰樹
教務責任者	竹内 正彦
入試責任者	近藤 存志

国際交流研究科

研究科長	大野 英二郎
国際交流専攻主任	大西 比呂志
教務責任者	木曾 順子
入試責任者	佐藤 輝

音楽研究科

研究科長	立神 粧子
音楽芸術専攻主任	星野 聡
演奏専攻主任	蔵田 雅之
教務責任者	落合 敦
入試責任者	黒川 浩

文学部

学部長	谷 知子
教務主任	竹内 正彦
入試主任	近藤 存志
英語英米文学科/英文学科主任	由井 哲哉
日本語日本文学科/日本文学科主任	佐藤 裕子
コミュニケーション学科主任	諸橋 泰樹

国際交流学部

学部長	大野 英二郎
教務主任	木曾 順子
入試主任	佐藤 輝
国際交流学科主任	大西 比呂志

音楽学部

学部長	立神 粧子
教務主任	落合 敦
入試主任	黒川 浩
音楽芸術学科主任	星野 聡
演奏学科主任	蔵田 雅之

教務主任・教務委員、教務責任者、科目責任者・語学責任者

履修計画を立てるにあたり、下記の教員が相談に応じます。

【教務主任・教務委員】：各学部・学科の専門科目に関すること、所属学部・学科学生の履修計画全般に関すること。

文 学 部	竹内 正彦 教務主任 富樫 剛 (英語英米文学科/英文学科) 島村 輝 (日本語日本文学科/日本文学科) 高田 明典 (コミュニケーション学科)
国 際 交 流 学 部	木曾 順子 教務主任
音 楽 学 部	落合 敦 教務主任 谷口 昭弘、星野 聡 (音楽芸術学科) 堀 由紀子 (演奏学科)

【教務責任者】

人 文 科 学 研 究 科	竹内 正彦
国 際 交 流 研 究 科	木曾 順子
音 楽 研 究 科	落合 敦

【科目責任者・語学責任者】：次の各科目に関すること。

基礎教養・総合課題科目	和田 浩一 (全般) 相澤 一 (キリスト教) 春木 良且 (情報リテラシー) 和田 浩一 (健康・スポーツ)
教 職 課 程	渡辺 浪二
日 本 語 教 員 養 成 講 座	田中 里奈
留学生日本語・日本事情科目	筒井 千絵、奈良夕里枝

英 語	デイヴィッド バーレイ
フ ラ ン ス 語	横山 安由美
ド イ ツ 語	高雄 綾子
ス ペ イ ン 語	ヒガ, マルセーロ
中 国 語	鄭 浩瀾
朝 鮮 語	金 香男

古 典 ギ リ シ ア 語	
ラ テ ン 語	鄭 浩瀾
イ タ リ ア 語	
日 本 語 (日本語 I, II)	田中 里奈

饒平名 尚子

2014年度の主な制度変更〔学部関連〕

組織に関すること

文学部英文学科、日本文学科の学科名称変更

学科名称を次のとおり変更しました。新学科名称が適用されるのは2014年度以降入学者です。

2013年度以前入学者は、卒業するまで旧学科名称を用いることとしています。

英文学科 → 英語英米文学科

日本文学科 → 日本語日本文学科

カリキュラムに関すること

1. 基礎教養・総合課題科目のキャリア科目カリキュラム改革

「キャリア形成の理解」「キャリア系知識を深める」「社会人基礎力の修得・実践」と段階的に理解を進め、実践的な学びを通じて社会で求められる力を修得できるように編成しました。

→p. 52「キャリアに関する学び」

2. 国際交流学科のカリキュラム改革

専門科目 A 群（地球社会）、B 群（国際社会・文化）、C 群（国際社会基礎理論）から各自の関心に応じて選択する自由度の高い履修方法を見直し、自らの特性や志向に合わせて体系的に学べるプログラム制を導入しました。1年次は基幹科目により学ぶ基礎を固め、2年次に3プログラム（国際協力・文化交流・人間環境）のいずれかを選択します。

3. 音楽学部演奏学科のカリキュラム改革

1年次前期は「導入セミナー」を必修とします。複数教員による多面的な指導とサポートを行います。声楽、弦楽器、管楽器など多様な小編成アンサンブル科目を充実させました。「教える技術を身につけよう」科目群では、卒業後の進路、社会との接点を見据えた科目を展開します。

履修方法に関すること

1. 集中講義期間の拡充

学生の学修機会を増やし、選択の幅を広げるため、前期、後期ともに各2ターム（1ターム：5日間）を設けました。

→p. 22「集中講義科目の履修」

2. 一部の科目について、登録時期と登録単位数上限の扱いを変更

(1) 履修登録期間の区別

集中講義科目や海外研修など、休業期間を利用した授業科目の履修登録期間は、通常の科目と区別して設定しました。一般の学生のほか、派遣留学生にとっては海外留学終了後にその学期の集中講義科目等を履修登録でき、帰国後の期間を有効に利用できるというメリットがあります。この場合、全

授業日程に出席可能であることを条件とします。

→p. 24「履修登録」

(2) 履修登録できる単位数の上限から除外

上記の集中講義等は、各学期に履修登録可能な単位数の上限には含まれません。
学生は、各学期に定められた上限に関わらず、履修登録できるようになります。

→p. 17「登録できる単位数のルール」

3. 卒業要件算入単位の上限撤廃

基礎教養・総合課題科目のうち、次の科目については、従来の8単位という上限を廃止しました。修得した単位はすべて卒業要件に算入できるようになります。

また、この変更は全ての在學生に適用されます。

- ・「キリスト教」科目
- ・「ボランティア活動実習1,2,3」
- ・「健康・スポーツ」科目
- ・「キャリア実習」科目

→各学部・学科の「卒業に必要な単位数」

4. 編入学者の「キリスト教」科目履修方法

2014年度以降の2年次編入学者、3年次編入学者からは、本学の入学前に修得した「キリスト教」関連科目を必修相当の単位として認定することはできなくなります。

また、必修相当の「キリスト教Ⅰ」「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」に代えて、キリスト教関連科目を履修できるのは、3年次編入学者のみとなります。

→p. 53「キリスト教科目」

5. 卒業論文の執筆計画をシラバスで明示

文学部では、「卒業論文」作成に求められる内容・水準、指導内容・方法を明らかにするためにシラバスを作成しました。

学習指導に関すること

1. SA（スチューデント・アシスタント）制度の導入

きめ細かい指導の実現を目的として、授業時の各種サポートを行う SA 制度を導入します。SA は、授業担当者の指示にしたがって、資料の配布、回収、教育機材操作、出席管理などの補助を担当します。学部2～4年次生を対象として募集され、選考を経て採用されます。

募集の時期は、前期科目：4月、後期科目：9月（予定）です。

関心のある学生は、募集掲示等を確認の上、教務課にお問い合わせください。

2. TA（ティーチング・アシスタント）制度の拡充

TA は、学部の授業科目運営を補助するほか、学生の理解度促進のための指導や支援も担当します。従来の制度では、応募資格を博士後期課程の在學生に限定していましたが、博士前期課程（修士課程）まで拡大しました。

3. オフィス・アワー制度の導入

学生と教員とのコミュニケーションをより充実したものとするため、学生が専任教員の個人研究室を訪ねて学習上の質問をしたり、進路等について相談できるオフィス・アワー制度を導入します。各教員のオフィス・アワーは、FerrisPassport で確認してください。

その他

1. 入学定員、収容定員の変更

音楽学部演奏学科の入学定員及び収容定員を変更しました。

入学定員	50名	⇒	30名
収容定員	200名	⇒	120名

2. 学生要覧の分冊化

学生にとっての検索性を高め、より使いやすいものとするため学生要覧を次の(1)～(3)に分割しました。(1)、(2)は従来どおり学生全員に、(3)は1年次生及び課程、講座履修者に配布します。

- (1) 学生要覧 (本冊)
- (2) 学生要覧別冊 開講科目表
- (3) 学生要覧別冊 教職課程・日本語教員養成講座

授業科目の改廃 (別冊「学部開講科目表」参照)

() 内は単位数

1 基礎教養科目

新設

民法 (家族法A)	(2)
民法 (家族法B)	(2)
消費者関連法A	(2)
消費者関連法B	(2)
経済学入門A	(2)
経済学入門B	(2)

廃止

民法 (家族法)	(2)
消費者関連法	(2)
経済学入門	(4)
女性のエクササイズパフォーマンス	(2)

2 総合課題科目

新設

キャリア形成の理解	(2)
キャリア系の知識を深める	(2)
社会人基礎力の修得と実践	(2)

廃止

私のキャリアを考える	(2)
ビジネス・スキルを高める	(2)

3 語学科目

新設

英語 e(TOEFL-iBT Preparation II :Listening / Speaking)	(1)
英語 e(TOEFL-iBT Preparation II :Reading / Writing)	(1)

4 文学部英語英米文学科／英文学科専門科目

新設

Global Issues A	(2)
Global Issues B	(2)

廃止

Global Issues	(4)
---------------	-----

5 文学部日本語日本文学科／日本文学科専門科目

新設

日本語教育資料を読む	(4)
映画・映像を読み解く	(2)
俳句創作を学ぶ	(2)

6 文学部コミュニケーション学科専門科目

新設

コミュニケーション学探求11	(2)
「日本におけるアジア」とのネットワーキング	(2)
ファシリテーターの理論と実践A	(2)
ファシリテーターの理論と実践B	(2)
聴覚障害の理解と手話の技法A	(2)
聴覚障害の理解と手話の技法B	(2)
身体表現論	(2)

日本語コミュニケーション学概説A	(2)
日本語コミュニケーション学概説B	(2)
文体と語法の日本語コミュニケーション学	(2)
形態と構文の日本語コミュニケーション学	(2)
日本語コミュニケーションの歴史A	(2)
日本語コミュニケーションの歴史B	(2)
日本語コミュニケーション：意味と語彙	(2)
日本語敬語コミュニケーション	(2)
社会・文化と英語コミュニケーション	(2)
英語コミュニケーション学概説	(2)
第二言語習得の英語コミュニケーション学	(2)

廃止

コミュニケーション学探求9	(4)
アジアとのネットワークング	(2)
ファシリテーターの理論と実践	(2)
聴覚障害の理解と手話の技法	(2)
身体表現の技法	(4)

7 国際交流学部国際交流学科専門科目

新設（2013年度以前入学者）

研究入門（国際交流学部での学び）	(2)
研究入門（時事問題を学ぶ）	(2)
研究入門（歴史から見る現代世界）	(2)
平和構築	(2)
人権と世界政治	(2)
現代社会を理解するためのジェンダー理論	(2)
都市生活の空間デザイン	(2)
住空間デザイン	(2)
北ヨーロッパの福祉社会	(2)
地域ブランドの育て方	(2)
国際ブランド・ビジネス	(2)
近代日本と国際関係	(2)
現代日本と国際関係	(2)
日本文化の原風景	(2)
現代社会に見る日本文化	(2)
横浜学総論	(2)
横浜学実習	(2)
朝鮮近代史・開国期	(2)
朝鮮近代史・植民地期	(2)
中国近代史	(2)
中国現代史	(2)
韓国現代史	(2)
北朝鮮現代史	(2)
東南アジアと日本の国際協力	(2)
南アジアの経済	(2)
南アジアの労働	(2)
儒教と世界	(2)
前近代の中国思想	(2)
ヨーロッパ近代史	(2)
ヨーロッパ現代史	(2)

ヨーロッパ政治の基礎	(2)
ヨーロッパ統合論	(2)
フランスの政治	(2)
フランス現代史	(2)
ヨーロッパ地域論	(2)
スペイン現代史	(2)
ラテンアメリカの歴史と文化	(2)
国際交流の歴史	(2)
歴史からみるスペイン語圏	(2)
文化交流論	(2)
比較文化論から見た芸能	(2)
翻訳と文化	(2)
歴史からみるフランス	(2)
歴史からみるドイツ	(2)
中国社会の現状を考える	(2)
韓国の文化と社会	(2)
思想文化論	(2)
比較人権論	(2)
比較政治制度論	(2)
国際政治の基礎	(2)
国際政治の見方	(2)
国際機構と国際平和	(2)
国際機構とグローバル・イシューズ	(2)
環境と開発問題の平和学	(2)
国際経済学	(2)
途上国と開発経済学	(2)
近代グローバル経済の発展	(2)
現代グローバル経済の発展	(2)
開発援助論	(2)
国際開発の理論と実践	(2)
戦争と平和の学説史	(2)
国際交流への招待	(2)
英語で学ぶ人文科学	(2)
市民参加の社会形成	(2)

新設（2014年度以降入学者）

導入演習	(1)
研究入門（国際交流学部での学び）	(2)
研究入門（時事問題を学ぶ）	(2)
研究入門（歴史から見る現代世界）	(2)
基礎演習	(1)
国際交流への招待	(2)
国際関係論	(2)
人権保障と法	(2)
政治学概論	(2)
近代国際関係史	(2)
戦後国際関係史	(2)
グローバル化と労働	(2)
グローバル化と生活	(2)
社会学概論A	(2)
社会学概論B	(2)

グローバル化する社会	(2)
グローバル経済	(2)
国際交流の歴史	(2)
世界史概説A	(2)
世界史概説B	(2)
世界の宗教	(2)
日本史概説A	(2)
日本史概説B	(2)
日本の文化交流	(2)
日本経済の歴史	(2)
現代の日本経済	(2)
東アジア・東南アジアの近・現代史A	(2)
東アジア・東南アジアの近・現代史B	(2)
ヨーロッパ近代史	(2)
ヨーロッパ現代史	(2)
横浜学総論	(2)
現代社会を理解するためのジェンダー理論	(2)
地球環境	(2)
世界の人口問題	(2)
平和思想と運動	(2)
Current Global Affairs	(2)
Japan Studies	(2)
英語で学ぶグローバル問題	(2)
英語で学ぶ社会科学	(2)
英語で学ぶ人文科学	(2)
統計で学ぶ社会問題(基礎)	(2)
統計で学ぶ社会問題(応用)	(2)
ヨーロッパ現地実習	(2)
オーストラリア現地実習	(2)
比較人権論	(2)
比較政治制度論	(2)
国際政治の基礎	(2)
国際政治の見方	(2)
国際機構と国際平和	(2)
国際機構とグローバル・イシューズ	(2)
環境と開発問題の平和学	(2)
国際経済学	(2)
途上国と開発経済学	(2)
近代グローバル経済の発展	(2)
現代グローバル経済の発展	(2)
開発援助論	(2)
国際開発の理論と実践	(2)
戦争と平和の学説史	(2)
国際社会と法	(2)
国際経済と法	(2)
法でみる世界	(4)
地域統合	(2)
日米関係史	(2)
ヨーロッパ政治思想史	(2)
グローバル・ビジネス	(2)
世界の格差と国際協力	(2)

市民社会の国際協力	(2)
地域の国際交流・協力	(2)
近代日本と国際関係	(2)
現代日本と国際関係	(2)
南アジアの経済	(2)
ヨーロッパ政治の基礎	(2)
ヨーロッパ統合論	(2)
フランスの政治	(2)
歴史からみるスペイン語圏	(2)
南アジアの労働	(2)
朝鮮近代史・開国期	(2)
朝鮮近代史・植民地期	(2)
中国近代史	(2)
中国現代史	(2)
韓国現代史	(2)
北朝鮮現代史	(2)
アジアの国際関係	(2)
東南アジアと日本の国際協力	(2)
アジア現地実習	(2)
ユーラシアの国際関係	(2)
北ヨーロッパの歴史	(2)
イギリスの政治と社会A	(2)
イギリスの政治と社会B	(2)
アメリカの政治と社会A	(2)
アメリカの政治と社会B	(2)
現代アメリカ論	(4)
カナダの政治と社会	(4)
アフリカを学ぶ	(2)
中東を学ぶ	(2)
平和構築	(2)
人権と世界政治	(2)
安全保障	(2)
日本政治思想史	(2)
日本文化の原風景	(2)
現代社会に見る日本文化	(2)
儒教と世界	(2)
前近代の中国思想	(2)
フランス現代史	(2)
ラテンアメリカの歴史と文化	(2)
文化交流論	(2)
比較文化論から見た芸能	(2)
翻訳と文化	(2)
歴史からみるフランス	(2)
歴史からみるドイツ	(2)
アジア共同体研究	(2)
メディア文化と社会	(2)
若者の文化と社会	(2)
情報発信と世界	(2)
仏教と世界	(2)
イスラームと世界	(2)
中国の近現代文学	(2)

中国の文化と芸術	(2)
中国社会の現状を考える	(2)
韓国の文化と社会	(2)
ヨーロッパの文化とジェンダー	(2)
ヨーロッパ地域論	(2)
スペイン現代史	(2)
ヨーロッパ世界とキリスト教	(2)
現代思想論	(2)
思想文化論	(2)
ヨーロッパ世界の芸術	(2)
ヨーロッパの文学	(2)
ラテンアメリカの文学	(2)
イギリス史A	(2)
イギリス史B	(2)
イギリスの思想・宗教A	(2)
イギリスの思想・宗教B	(2)
イギリス文化論総説A	(2)
イギリス文化論総説B	(2)
アメリカ史	(4)
アメリカの思想・宗教A	(2)
アメリカの思想・宗教B	(2)
オーストラリア地域文化研究A	(2)
オーストラリア地域文化研究B	(2)
環境教育の理念と実践	(2)
ロシアと現代中国	(2)
近現代中国思想と日本	(2)
スポーツと国際社会	(2)
比較スポーツ論	(2)
市民参加の社会形成	(2)
Globalization Studies	(2)
企業と社会貢献	(2)
国際交通ビジネス	(2)
ソーシャルメディアの基礎知識	(2)
ソーシャルラーニング演習	(1)
情報が世界を変える	(2)
情報とシステムのセキュリティ	(1)
横浜学実習	(2)
地方分権と市民社会	(2)
人文地理学	(2)
自然地理学	(2)
地誌	(2)
都市生活の空間デザイン	(2)
住空間デザイン	(2)
環境共生型ライフスタイル	(2)
環境と社会運動	(2)
資源問題	(2)
身体と生命の社会学	(2)
現代家族と福祉	(2)
北ヨーロッパの福祉社会	(2)
格差社会とアイデンティティ	(2)
若者の労働環境	(2)

英語で学ぶグリーン経済と農業	(2)
英語で学ぶグリーン経済とエネルギー	(2)
地域ブランドの育て方	(2)
地域と食文化	(2)
農環境体験実習	(2)
海外環境フィールド実習	(2)
グローバル化する仕事と家族	(2)
在日外国人	(2)
余暇と旅行	(2)
観光文化論	(2)
民族問題から見た世界情勢	(2)
移住と文化の理論	(2)
国際ブランド・ビジネス	(2)
専門演習	(1)
卒業論文	(6)

廃止（2013年度以前入学者）

研究入門	(2)
南北問題	(2)
外国人関係諸法A	(2)
外国人関係諸法B	(2)
地球社会現地実習	(2)
紛争と平和構築	(4)
地域社会研究A	(2)
現代文化論B	(2)
日本政治外交史	(4)
日本文化論	(4)
日本の行政・地方自治法B	(2)
横浜学	(4)
アジア近・現代史	(4)
アジアと日本（日朝・日中）	(4)
アジアの政治と社会1（中国研究）	(4)
アジアの政治と社会2（朝鮮研究）	(4)
アジアの政治と社会3（東南アジア研究1）	(4)
アジアの政治と社会4（東南アジア研究2）B	(2)
アジアの政治と社会5（南アジア研究1）	(4)
アジアの思想・宗教1（仏教）B	(2)
アジアの思想・宗教2（儒教）	(4)
アジアの文化2（芸術）B	(2)
ヨーロッパ世界の近・現代史	(4)
ヨーロッパ統合	(4)
ヨーロッパ世界の政治と社会1（西欧研究）	(4)
ヨーロッパ世界の政治と社会2（南欧研究）	(4)
ヨーロッパ世界の政治と社会3（ロシア・東欧研究）B	(2)
ヨーロッパ世界の政治と社会4（北欧研究）B	(2)
ヨーロッパ世界の文化1（文学）	(4)
ヨーロッパ世界の文化2（芸術）B	(2)
ラテンアメリカ地域文化研究	(4)
比較憲法	(4)
国際政治学	(4)

国際政治学 A	(2)
国際政治学 B	(2)
国際機構論	(4)
国際平和論	(4)
現代外交論	(2)
統治機構・人権論	(4)
統治機構・人権論 A	(2)
統治機構・人権論 B	(2)
日本社会思想史	(4)
国際環境政治論	(2)
国際経済論	(4)
国際経済史	(4)
国際ビジネス論 B	(2)
国際開発論	(4)
国際NGO論	(4)
余暇社会学	(2)
社会経済思想史	(4)

8 音楽学部音楽芸術学科専門科目

新設（2010年度以前入学者）

ソルフェージュ I A	(1)
ソルフェージュ I B	(1)
ソルフェージュ II A	(1)
ソルフェージュ II B	(1)

新設（2011年度以降入学者）

教職のためのピアノ A	(1)
教職のためのピアノ B	(1)
ソルフェージュ I A	(1)
ソルフェージュ I B	(1)
ソルフェージュ II A	(1)
ソルフェージュ II B	(1)

9 音楽学部演奏学科専門科目

新設（2010年度以前入学者）

声楽レパートリー1 A	(1)
声楽レパートリー1 B	(1)
声楽レパートリー2 A	(1)
声楽レパートリー2 B	(1)
弦楽アンサンブル A	(2)
弦楽アンサンブル B	(2)
フルートアンサンブル A	(1)
フルートアンサンブル B	(1)
管楽アンサンブル A	(2)
管楽アンサンブル B	(2)
弦楽レパートリー A	(2)
弦楽レパートリー B	(2)
管楽レパートリー A	(2)
管楽レパートリー B	(2)

新設（2011年度～2013年度入学者）

弦楽アンサンブル A	(2)
弦楽アンサンブル B	(2)
フルートアンサンブル A	(1)
フルートアンサンブル B	(1)
管楽アンサンブル A	(2)
管楽アンサンブル B	(2)
声楽レパートリー1 A	(1)
声楽レパートリー1 B	(1)
声楽レパートリー2 A	(1)
声楽レパートリー2 B	(1)
弦楽レパートリー A	(2)
弦楽レパートリー B	(2)
管楽レパートリー A	(2)
管楽レパートリー B	(2)

単位数の変更（2014年度以降入学者）

弦楽アンサンブル A	(1)→(2)
弦楽アンサンブル B	(1)→(2)
管楽アンサンブル A	(1)→(2)
管楽アンサンブル B	(1)→(2)
演奏アドヴァンス I A	(1)→(2)
演奏アドヴァンス I B	(1)→(2)
演奏アドヴァンス II A	(1)→(2)
演奏アドヴァンス II B	(1)→(2)
弦楽レパートリー A	(1)→(2)
弦楽レパートリー B	(1)→(2)
管楽レパートリー A	(1)→(2)
管楽レパートリー B	(1)→(2)

索引

あ

アカデミック・アドバイザー制度	16
英語プレイズメント・テスト	58
インテンシブ・コース修了	60
オフィス・アワー	168

か

海外音楽研修	133
海外短期研修	38
外国人留学生	140
学位	35
学生提案科目	51
学籍	156
カリキュラム・マップ	50,55,85,92,102,113,124,131
カリキュラム・ポリシー	3
基礎教養科目	48
技能審査	153
キャリア実習（短・長期インターンシップ）	52,54
休学	156
休講	10
教務主任・教務委員	166
キリスト教科目	53
9月卒業	36
クラス指定	20
欠席	
授業欠席	12
試験欠席	29
交換留学	39
語学科目	56
コース選択	57
コース変更	59
語学責任者	166
国内留学	42

さ

在学期間	156
再試験	138
再入学	158
再履修	20
試験	27
実技試験	136
実技追試験	137
実技レッスン	132
社会調査士資格認定	104
修業年限	156

集中講義	22
授業（休講・補講・欠席）	10
除籍	157
人材養成目的	3
スチューデント・アシスタント（SA）	168
成績評価	32
GPA 制度	32
セメスター・アブロード	41
卒業	35
卒業演奏	135
卒業再試験	30
卒業制作	35
卒業プロジェクト	35
卒業論文	35
総合課題科目	49

た

退学	157
単位	15
単位互換	150
単位の認定	148
追試験	29
ティーチング・アシスタント（TA）	168
ディプロマ・ポリシー	3
転学部・転学科	157

な

日本事情	140
日本語プレイズメント・テスト	145
認定留学	41

は

復学	156
不正行為	28
プログラム制	111
補講	12
ボランティア活動	54

ら

留学	39
レポート試験	28
レポート追受理	30

2014年度 フェリス女学院大学学生要覧

2014年4月1日 発行

発行 フェリス女学院大学
緑園校舎 〒245-8650 横浜市泉区緑園4-5-3
TEL 045-812-8211(代表)
山手校舎 〒231-8651 横浜市中区山手町37
TEL 045-681-5150(代表)

印刷 株式会社 野毛印刷社

フェリス女学院大学ホームページ <http://www.ferris.ac.jp/>

